

別府市の環境

平成19年版

別府市生活環境部 環境安全課

はじめに

本市は、自然資源、人的資源ともに豊富であることを誇りとしております。

自然資源としては、由布・鶴見をはじめとする連山、別府湾、さらに「温泉＝湯けむり」が本市を取り巻くように存在しております。

そして、人的資源としては、本市を訪れるお客様に対して、市民が「おもてなしの心」で迎える、という姿が確立しております。

この両者があいまって、本市は「温泉観光都市」の名を確立しております。

このような恵まれた環境にある本市においても、大気汚染、騒音、悪臭などに係る苦情の発生があり、また、種々の環境問題を抱えているのが現状です。

環境問題には、本市ならではのものから、地球レベル、さらにそれを取り巻く規模に至る問題まで、多様な側面があります。

これらの問題に係る施策について、国は環境基本計画を策定しており、そこにうたわれた地方公共団体の役割を担う形で、本市も「別府市環境基本計画」を策定し、取組みを進めているところです。

「別府市環境基本計画」は、本市における環境の保全に関する施策を、長期的な視点から総合的、体系的に推進していくための基本となるものです。

本冊子「別府市の環境」は、「別府市環境基本計画」における進行管理の役割を担っております。

また、この部分も含め、平成 18 年度における本市の環境の概要と、環境保全に対する取組みがまとめられております。多くの皆様に御高覧いただき、別府市の環境に対する御理解のための一助となれば幸いに存じます。

平成 20 年 2 月

「別府市環境基本計画」において目標とする「望ましい環境像」は、21 世紀半ばを展望しています。

「望ましい環境像」：自然・湯けむり・おもてなしが築く『環境みらい都市・別府』

(基本目標)

- 1 「共生」：多様で健全な自然・生きものと共生し、潤いと安らぎのある快適なまちにしよう
- 2 「循環」：限られた資源を大切にし、健康で安心して暮らせるまちにしよう
- 3 「国際的取り組み」：未来の世代、地球市民のことを思いやり、身近なことから取り組もう
- 4 「参加」：共に考え、みんなで協働して、環境を守り、育てよう

この「望ましい環境像」の実現に向けて、市民・事業者・市がそれぞれの役割と責任のもと、共に行動するパートナーシップ体制を構築します。

目 次

第1章 別府市の概況

1. 市勢の概要…………… 1
 - (1) 位置…………… 1
 - (2) 面積…………… 1
 - (3) 歴史沿革…………… 1
 - (4) 土地の利用状況…………… 2
 - (5) 都市計画の用途地域別面積…………… 2

第2章 環境行政の概要

1. 行政の機構と業務…………… 3
 - (1) 機構…………… 3
 - (2) 業務…………… 4
2. 別府市環境保全審議会…………… 6
3. 別府市エコワーク委員会…………… 7

第3章 環境の現状

1. 社会環境の現状…………… 8
 - (1) 人口…………… 8
 - (2) 産業…………… 9
 - (3) 観光動向……………11
 - (4) 温泉……………11
 - (5) 交通……………12
 - (6) 土地利用……………15
 - (7) 土地利用法規制……………15
 - (8) 公園緑地……………17
 - (9) レクリエーション施設……………19
2. 自然環境の現状……………20
 - (1) 気象……………20
 - (2) 地形・地質……………20
 - (3) 河川・水系……………21
 - (4) 海域……………21
 - (5) 温泉……………21
 - (6) 自然環境の保護……………22
 - (7) 自然景観……………23

3. 快適環境の現状	24
(1) 緑化アメニティ	24
(2) 親水アメニティ	24
(3) 景観	24
(4) 歴史文化財	26
4. 生活環境の現状	27
(1) 大気質	27
(2) 水質	33
(3) ダイオキシン類	37
(4) 騒音・振動	38
(5) 悪臭	41
(6) 廃棄物・リサイクル	41
(7) 水資源・エネルギー	43
(8) 畜舎及び環境衛生の現況	44
5. 公害等の監視と処理の現状	48
(1) 別府市環境監視員の活動状況について	48
(2) 法律・条例に基づく特定工場等の届出状況	49
(3) 法律・条例に基づく特定建設作業等の届出状況	51
(4) 公害苦情の現状	52
(5) 空き地の管理	54
6. 環境保全活動の現況	55

第4章 管理指標の公表

環境管理指標の現況	56
-----------	----

第5章 率先実行計画

1. 率先実行計画の概要	57
(1) 率先実行計画の目的	57
(2) 地球温暖化対策実行計画	57
(3) グリーン購入の取組み	57
(4) 率先実行計画の進行方法	57
2. 率先実行計画の取組み状況	59
(1) 地球温暖化対策の取組み	59
(2) グリーン購入の取組み	59
(3) エコワーク活動の取組みに係る課題	59

参考資料

1. 環境行政のあゆみ	60
2. 環境調査実施計画書	62
3. 法令・条例に基づく特定施設一覧	63
4. 環境基準	66
5. 特定工場等の規制基準	73
6. 特定建設作業の規制基準とその種類	78
7. 悪臭防止法に基づく規制基準	80
8. 別府市内及び周辺におけるダイオキシン類測定地点	82
9. 保護地区等指定物件一覧表	84
10. 文化財指定物件・国登録文化財一覧	85
11. 別府市内街路樹植栽種類と本数一覧	86
12. みどり監視員名簿	88
13. 指定建築物等の申請状況の推移	88
14. 上水道配水資料	90
15. 排水に係る全体計画・進捗状況	91
16. 水質調査結果	92
17. ごみの処理状況	94
18. 愛がん動物等の適正な飼育管理	95
19. 環境監視員名簿	95
20. 別府市環境施策の推進を図る組織に関する要綱	96
21. 地域環境美化条例に定める地域	98
[参考] 用語解説	100

第1章 別府市の概況

1 市勢の概要

(1) 位置

本市は瀬戸内海に面し大分県のほぼ中央部に位置します。西は秀峰由布、鶴見の連山を背にし、東は風光明媚な別府湾に臨み、南は野猿の名所高崎山を境とし、北は名所・史跡豊かな国東半島の付根の位置に接した市です。

(2) 面積

125.295 km² (東西 13km 南北 14km) (資料…別府市統計書)

(3) 歴史沿革

本市は古くからの温泉地で、戦災を逃れたという歴史を有しています

本市は、全国的にも有名な別府温泉を有しており、河直一帯（現在の鉄輪地区）には古代から地獄があるなど豊富な天与の温泉に恵まれています。

今日の別府の地名は、荘園時代に新開地の開墾、領有に際して必要とされた免符である「別符」が「別府」と書かれるようになり、これが地名となったものであると言われています。

明治以降、交通機関の発達と交通路の整備により発展を見せ、全国的にも湯治場として知られるようになりました。また、大正時代に入ると海岸一帯に旅館街が形成され、観光施設も整備されて観光地としての性格が加わりました。

別府市が誕生したのは大正13年のことです。その後、昭和10年に近隣の市町村を編入して、観光温泉地としての今日の基盤を確立するに至りました。

第二次世界大戦において戦災を逃れ、昭和25年の「別府国際観光温泉文化都市建設法」制定によって、国際文化の向上と世界の恒久平和の達成に重要な役割を果たす都市として位置づけられ、以来、基幹交通網の整備により、発展を続けてきました。

近年は、別府の特性を生かした温泉文化の演出、環境づくり、市場開拓など、総合観光産業の振興を官民協働で進める「ONSENツーリズム」の新しいまちづくりを推進しています。

(4) 土地の利用状況

地 目	面積 (m ²)	
	田 畑	6,542,045
宅 地	12,604,138	(昨年比 +23,395)
鉱 泉 地	14,567	(昨年比 -133)
池 沼	26,535	(昨年比 -2,932)
山 林	11,985,435	(昨年比 +38,687)
原野 (牧場含)	13,769,769	(昨年比 +9,300)
雑 種 地	5,196,267	(昨年比 -1,556)
そ の 他	75,001,244	(昨年比 -49,368)
合 計	125,140,000	

(平成19年1月1日現在、資料…課税課)

(5) 都市計画の用途地域別面積

(単位: ha)

区 分		面 積	用 途 地 域	面 積
都市 計 画 区 域	市街化区域	2,808	第1種低層住居専用地域	216
			第2種低層住居専用地域	198
			第1種中高層住居専用地域	561
			第2種中高層住居専用地域	89
			第1種住居地域	792
			第2種住居地域	209
			近隣商業地域	107
			商業地域	602
			準工業地域	32
			工業地域	2
市街化調整区域		5,769		
都市計画区域面積		8,577		

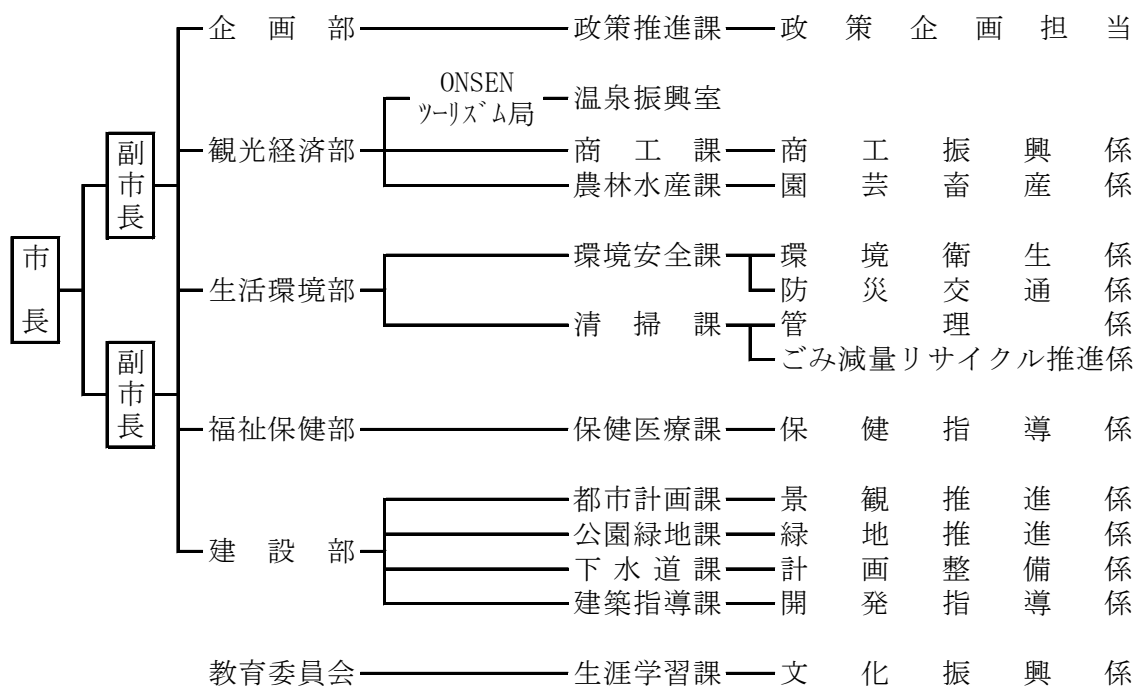
(平成19年3月31日現在、資料…都市計画課)

第2章 環境行政の概要

1 行政の機構と業務

(1) 機構

※ 環境保全条例に係る担当部課



図表 2.1.1 環境行政機構図

別府市環境保全審議会	委員	20名
	専門調査委員	4名
環境監視員		17名
みどり監視員		12名

(2) 業務

1 政策推進課 — 政策企画担当

①総合基本計画の策定並びに進行管理に関する事

2 ONSENツーリズム局温泉振興室

①温泉の適正利用に関する事

②地下水の採取規制に関する事

③温泉の公害苦情に関する事

3 商工課 — 商工振興係

①小規模事業者に対する公害防止施設にかかる資金の斡旋、助成に関する事

4 農林水産課 — 園芸畜産係

①畜産の経営改善指導に関する事

②畜舎等の衛生管理指導に関する事

5 環境安全課 — 環境衛生係

①環境保全に関する企画及び調整に関する事

②環境保全思想の普及及び啓発に関する事

③環境衛生改善指導に関する事

④そ族、昆虫駆除に関する事

⑤愛がん動物等の適正な飼育管理調査に関する事

⑥環境保全審議会に関する事

⑦環境影響評価に関する技術的な指導及び審査に関する事

⑧自然環境の保全（保護樹を除く）に関する事

⑨その他環境保全に関する事

⑩公害関係の法令及び条例に関する届出や許可の申請の受理、審査指導に関する事

⑪公害の調査、監視、測定に関する事

⑫公害の苦情処理に関する事

⑬公害防止施設設備資金に関する事

⑭環境監視員に関する事

6 環境安全課 — 防災交通係

①積載物の飛散防止に関する事

②交通公害の防止に関する事

7 保健医療課 — 保健指導係

①公害にかかる健康被害調査に関する事

- 8 清掃課 — ごみ減量リサイクル推進係
 - ①清掃思想の普及及び啓発に関する事
 - ②環境整備の改善指導に関する事
 - ③町を美しくする指導及び実施に関する事
 - ④ごみの不法投棄の監視指導に関する事
 - ⑤ごみ等の処理に関する苦情処理に関する事
 - ⑥公共の場所等の清潔保持に関する事
 - ⑦あき地等の管理指導に関する事
- 9 清掃課 — 管理係
 - ①し尿等の不法処分の監視及び実施に関する事
 - ②し尿浄化槽の管理及び指導に関する事
 - ③野つば及び野井戸の管理に関する事
- 10 都市計画課 — 景観推進係
 - ①風致地区内における建築等の規制に関する事
 - ②指定建築物の規制に関する事
- 11 公園緑地課 — 緑地推進係
 - ①都市緑化の総合企画に関する事
 - ②環境緑化の事業の普及、啓発及び指導に関する事
 - ③公共施設、公共空き地の緑化に関する事
 - ④みどり監視員に関する事
- 12 下水道課 — 計画整備係
 - ①公共下水道及び都市下水道の維持管理に関する事
 - ②環境保全条例に基づく排水処理に関する事
- 13 建築指導課 — 開発指導係
 - ①開発行為の許可に関する事
 - ②宅地造成に関する工事の許可に関する事
- 14 生涯学習課 — 文化振興係
 - ①文化財の保護に関する事
 - ②保護樹の指定に関する事

2 別府市環境保全審議会

別府市環境保全条例に基づき、自然環境及び生活環境の保全に関する重要な事項を調査審議するため設置された機関です。

委員は20名以内で、学識経験者6名、市議会議員4名、民間団体の代表者7名、関係行政機関の職員3名により構成されています。なお、同会に4名の専門調査委員を委嘱しています。

昭和50年6月16日設置後、直ちに環境保全条例の施行規則案を諮問し、同年10月27日答申を受け、同年12月1日に環境保全条例が施行されました。

別府市環境保全審議会委員

平成19年3月31日現在

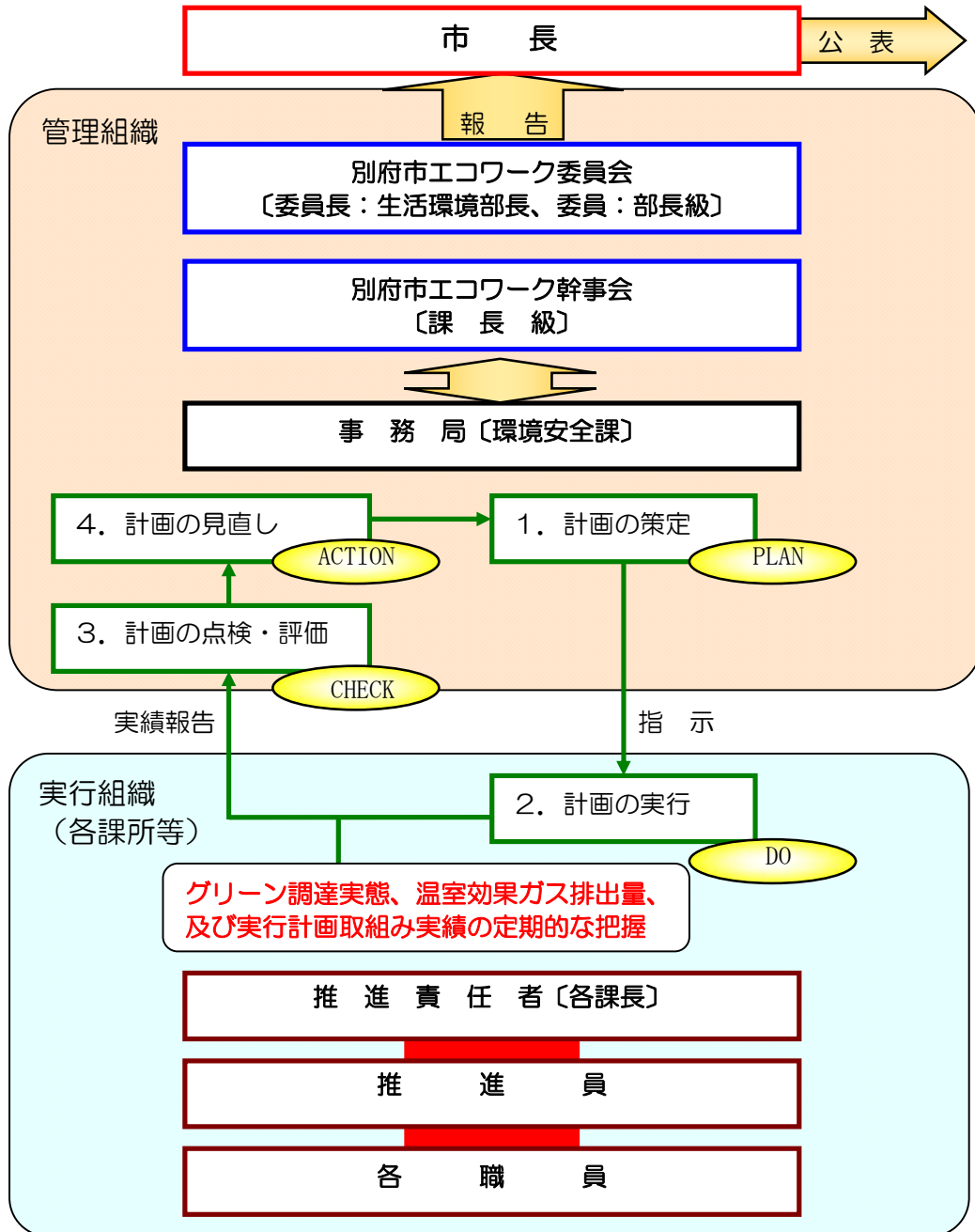
	職業、推せん団体等	氏名
会長	大分県厚生連鶴見病院院長	明石 光伸
副会長	学 識 経 験 者	西 田 實
	市 議 会 議 員	首 藤 正
	〃	原 克 実
	〃	池 田 康 雄
	〃	麻 生 健
	学 識 経 験 者	由 佐 悠 紀
	〃	千 野 博 之
	〃	小 田 久 美
	〃	江 崎 一 子
	大 分 県 別 府 市 医 師 会	大 薮 久 憲
	別 府 商 工 会 議 所	斉 藤 哲
	別 府 市 観 光 協 会	伊 藤 秀 憲
	別 府 市 農 業 協 同 組 合	高 橋 武 良
	別 杵 速 見 森 林 組 合	荒 金 敦
	大分県漁業協同組合 別府支店	三ヶ尻 正友
	大分県建設業協会 別府支部	安 部 孔 一
	大分県衛生環境研究センター	栗 津 記 久 夫
	大分県別府県民保健福祉センター	関 惠 治
	生 活 環 境 部 長	高 橋 徹

専門調査委員

	専 門 分 野	氏 名
	植 物	荒 金 正 憲
	植 物	後 藤 利 幸
	植 物	小 田 毅
	水 生 動 物	瀬 戸 屋 耕 二

3 別府市エコワーク委員会

率先実行を継続的に行うために、環境施策推進組織に関する要綱により管理組織として「別府市エコワーク委員会」を設置し、実行部門を点検管理する体制を整備します。この体制の統括者の市長に実績を報告し、市民に公表します。実行部門では、推進責任者、推進員の指示のもと実行し、各職場の取り組み結果を「別府市エコワーク委員会」に報告します。



図表 2.3.1 別府市エコワーク推進組織図

第3章 環境の現状

1 社会環境の現状

(1) 人口

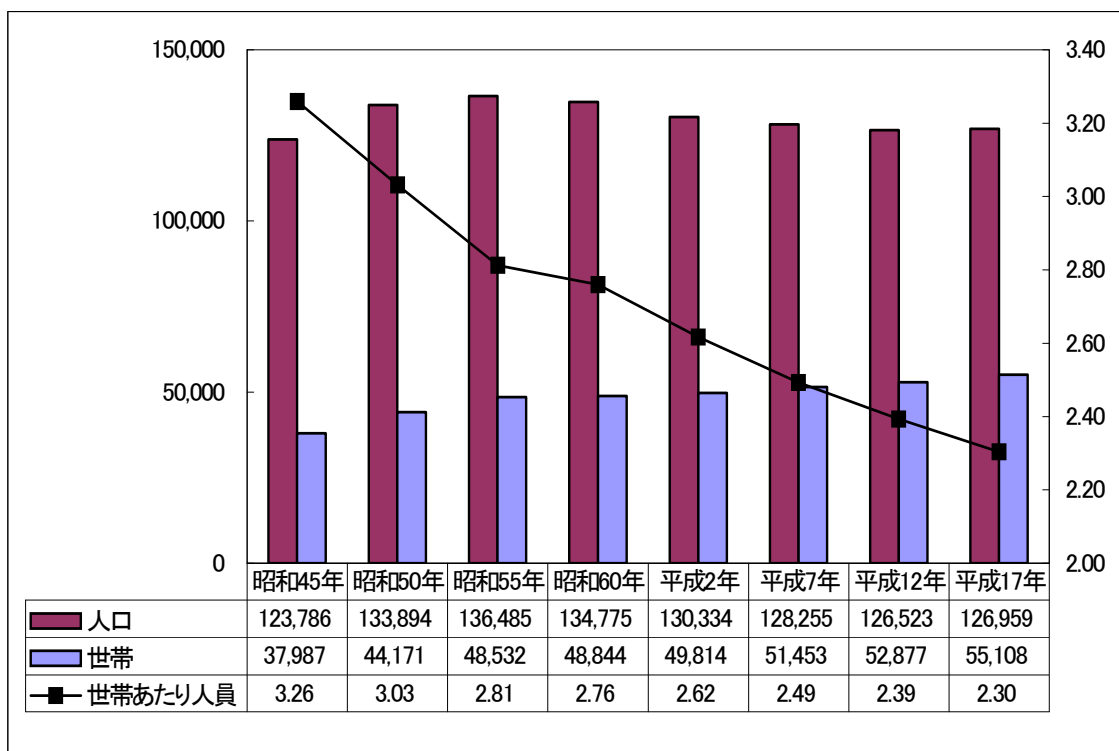
人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加しています

本市の人口は、平成17年国勢調査（速報値）では126,959人（55,108世帯）でした。平成19年3月末現在（住民基本台帳）では122,218人（58,246世帯）です。

調査時期	人口（人）	世帯数	人/世帯
平成17年国勢調査	126,959	55,108	2.30
平成19年3月末現在	122,218	58,246	2.10

図表 3.1.1 最近の人口推移（資料…総務課、市民課）

本市の人口動向は、昭和55年をピークに昭和60年以降はほぼ減少の傾向にあります。一世帯あたり人口も減少しており、平成17年国勢調査で2.30人/世帯、平成19年3月末現在で2.10人/世帯であり、全国的な傾向と同様、核家族化、単身世帯の増加が急速に進んでいます。



図表 3.1.2 人口・世帯数、一世帯あたり人員の推移

65歳以上の老年人口の割合は年々増加し続け、平成17年で25.0%に達し、本格的な高齢社会となっています。年少人口（0～14歳）は出生率の低下、女性の社会進出等を背景に減少傾向を示しています。

年次		昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
総人口	(人)	134,775	130,334	128,255	126,518	126,959
年少人口 (0～14歳)	(人)	26,023	21,184	18,055	16,203	14,878
	(人口比率)	19.3%	16.3%	14.1%	12.8%	11.7%
生産年齢 人口 (15～64歳)	(人)	91,332	88,709	85,653	81,589	80,142
	(人口比率)	67.8%	68.1%	66.8%	64.6%	63.1%
老年人口 (65歳以上)	(人)	17,420	20,441	24,547	28,566	31,746
	(人口比率)	12.9%	15.7%	19.1%	22.6%	25.0%

図表 3.1.3 総人口に対する各世代人口の推移

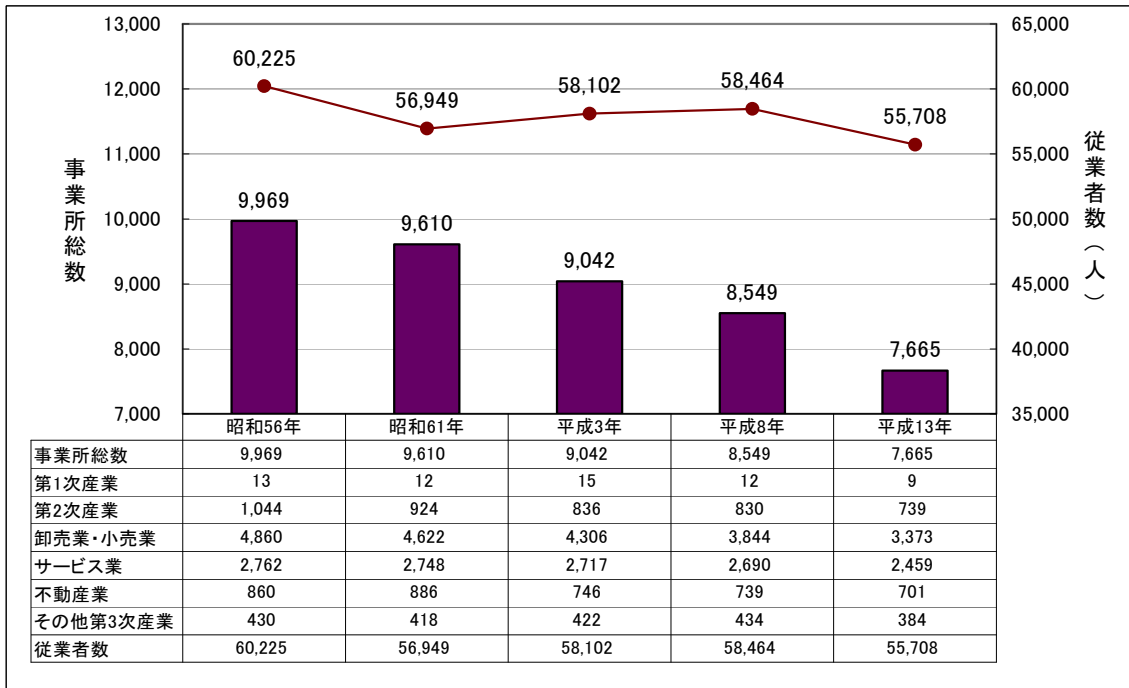
(2) 産業

第3次産業の割合が高く、経年的には変化はありません

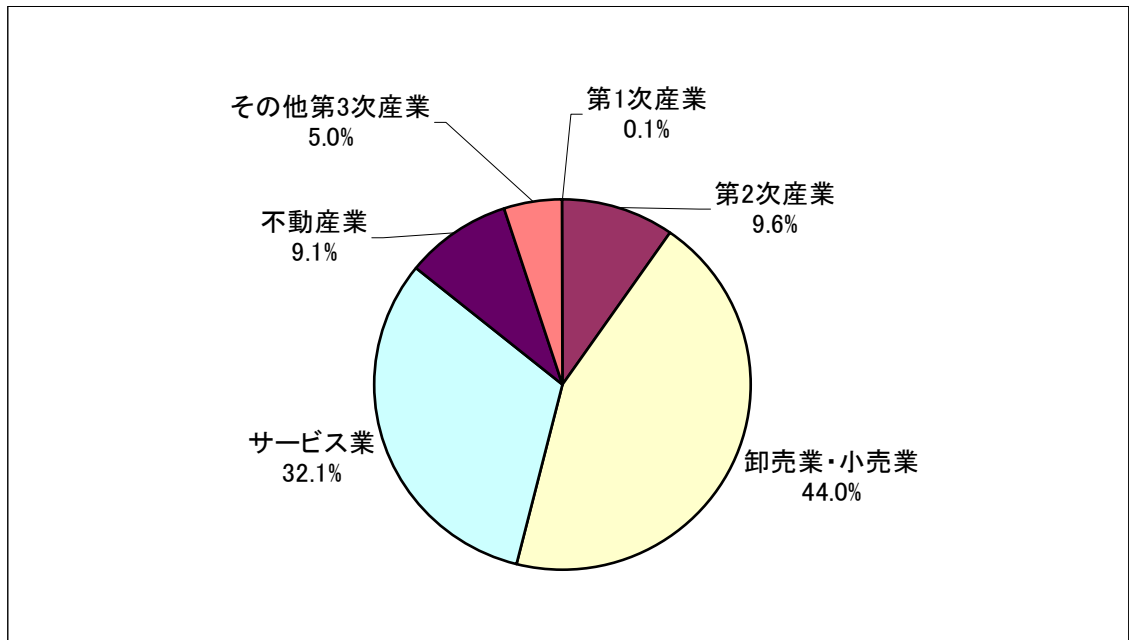
本市の産業別就業者数は、平成17年の国勢調査では総数56,629人(※)で、第一次産業が1.5%、第二次産業が15.3%、第三次産業(分類不能の産業を含む。)が83.2%の構成比となっています。(※労働力人口は61,477人。)

事業所数は減少傾向にあり、従業員数も減少に転じました

本市の事業所数は、昭和56年をピークに減少し続けており、平成13年の事業所統計調査では7,665事業所です。また、従業員数は55,708人と、減少に転じました。



図表 3.1.4 事業所数、従業者数の推移 (資料…事業所・企業統計調査)

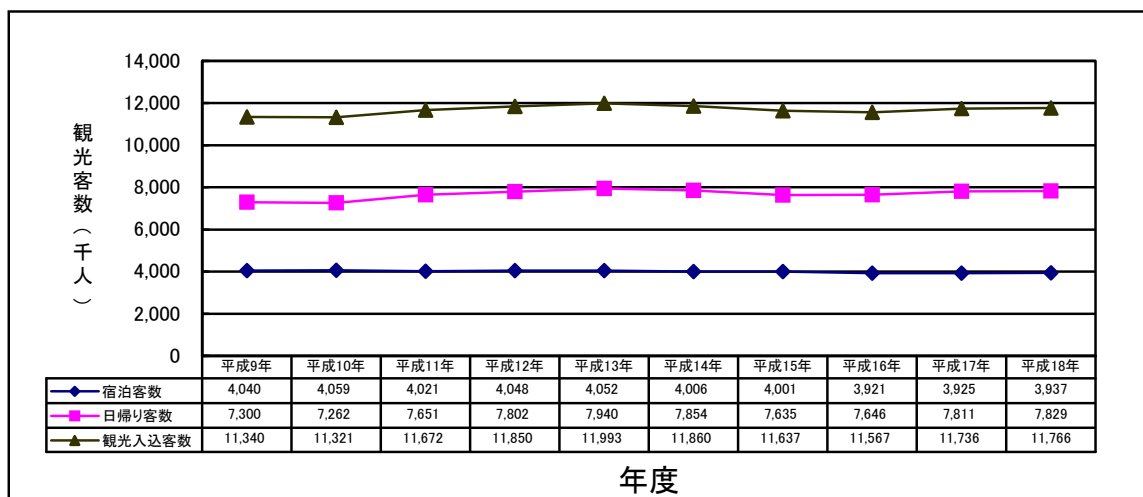


図表 3.1.5 事業所数の比率 (資料…平成13年事業所・企業統計調査)

(3) 観光動向

観光客数は持ち直してきており、横ばい傾向がみられます

平成 18 年の観光客総数は 11,765,789 人でした。(日帰り観光客 7,828,823 人、宿泊観光客数 3,936,966 人)

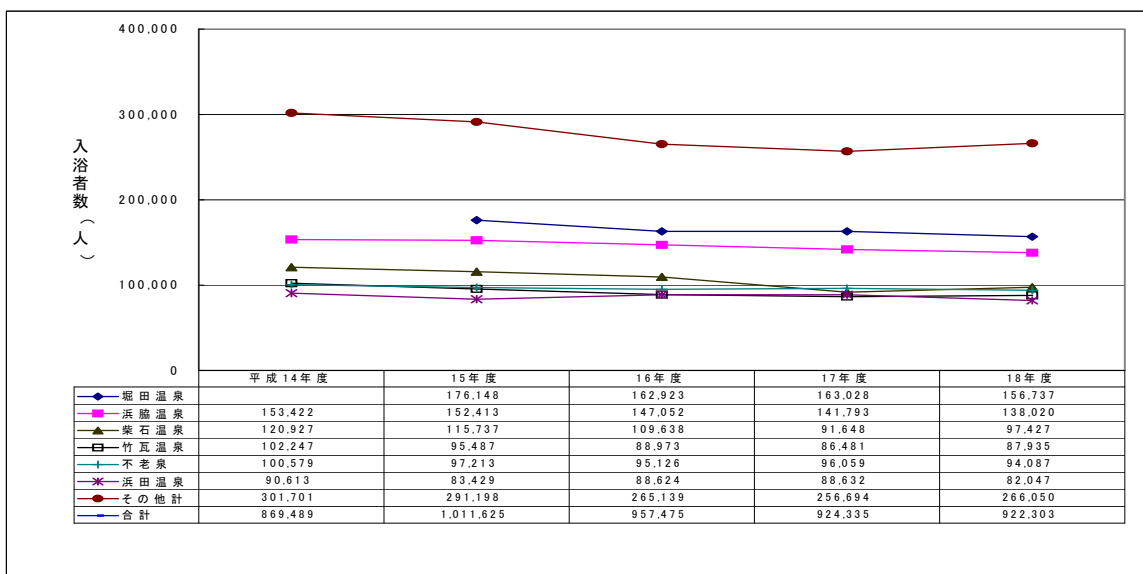


図表 3.1.6 観光客数 (資料…平成 18 年観光動態要覧)

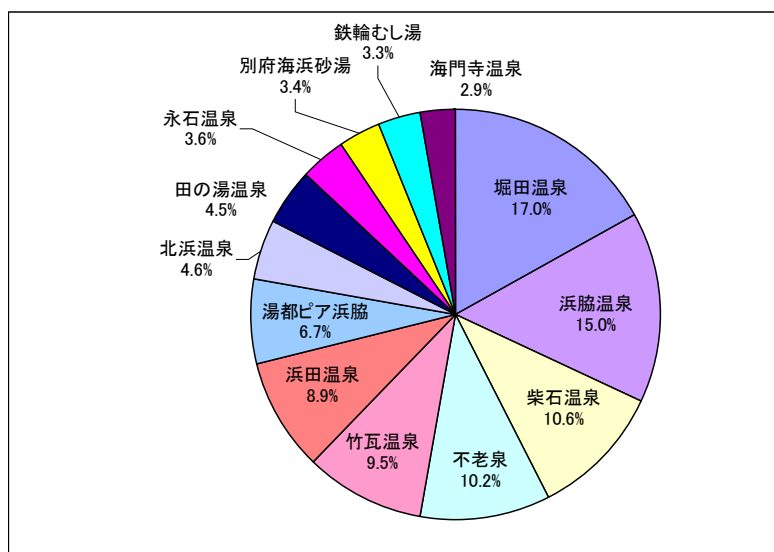
(4) 温泉

各市営温泉の有料入浴者数はやや減少しました。

平成 18 年度は、それぞれの温泉施設で見ると、前年度より減少したところがあり、入浴者総数もやや減少しております。



図表 3.1.7 市営温泉施設年度別有料入浴者数 (資料…温泉振興室)



図表 3.1.8 平成 18 年度市営温泉有料入浴者の比率

(5) 交通

○交通体系

高速交通体系の整備が進んでいます

高速道路、空港の利用の増加傾向と船舶、鉄道、バスの伸び悩み傾向がみられます

【概況】

本市に係る高速自動車道としては、九州横断自動車道長崎大分線、東九州自動車道宇佐別府線があります。

また、国道は本市中心市街地を南北に貫く国道 10 号や市域を東西に横断する国道 500 号があります。

市内の道路網は、別府湾岸沿いを南北に走る国道 10 号を軸に、これとほぼ垂直に西へ伸びる国道 500 号及び主要地方道・別府庄内線、そして市街地西部でこの 2 路線を南北に結ぶ主要地方道・別府一の宮線、これら 4 路線によって構成される環状線を骨格として形成されています。

○自動車台数

市内の登録自動車台数は増加傾向にあります

平成 19 年 3 月 31 日現在の市内の登録自動車台数は、85,458 台（軽自動車・原付含む）です。

①概況

自動車交通は利用者全体に快適、便利という大きな恩恵を与える反面、一方では全国各地で交通網の拡大、交通量の増大による大気汚染や騒音といった道路周辺の環境の悪化を招いております。

また、交通公害は世界的に問題となっている地球温暖化、オゾン層の破壊や酸性雨など、地球的規模で悪影響を与えています。

本市はそうした交通公害の防止及び安全で快適な市民生活を追求するため、交通環境の現状を的確に把握するとともに、実態に即した諸施策を推進していきます。

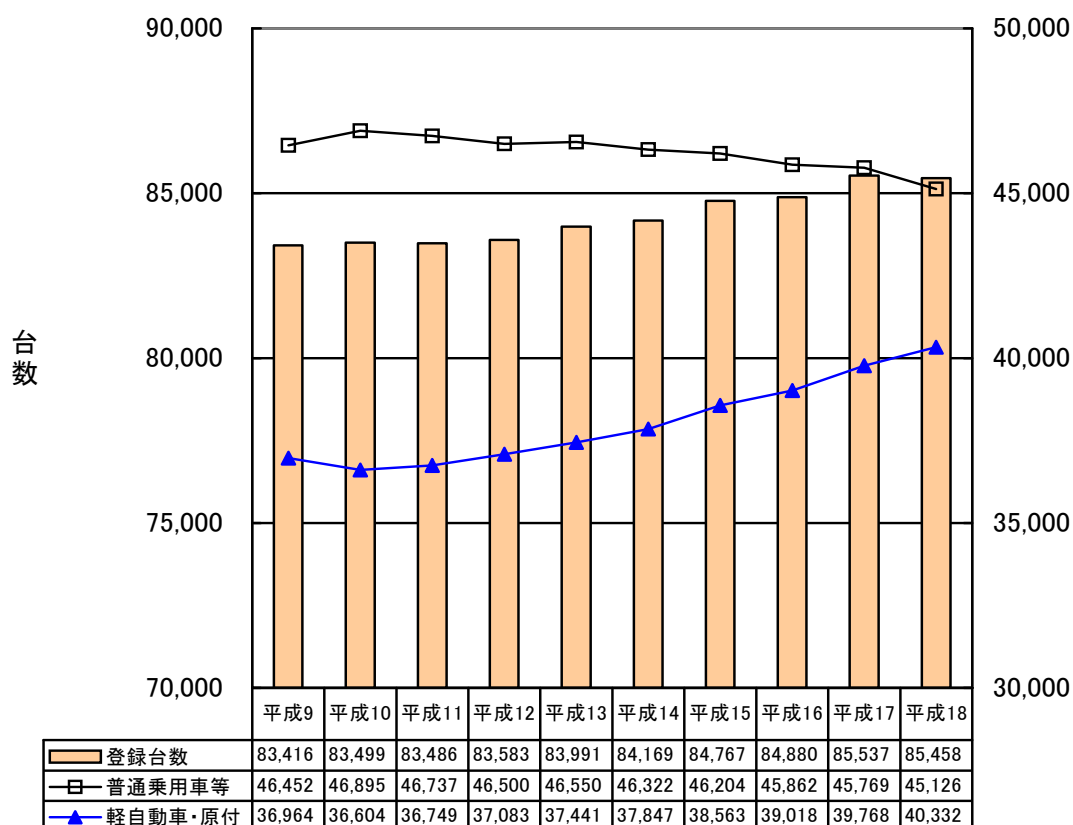
② 対策

1) 交通環境の整備

道路及び道路網の整備は交通安全に資するばかりでなく、地域周辺と調和のとれた道路空間を創出することにより美しい町づくりに寄与し、アメニティ・タウンの構築を推進することにつながります。また、交通に関する情報の充実を図ることによって、安全かつ円滑なる道路交通の推進に努めています。

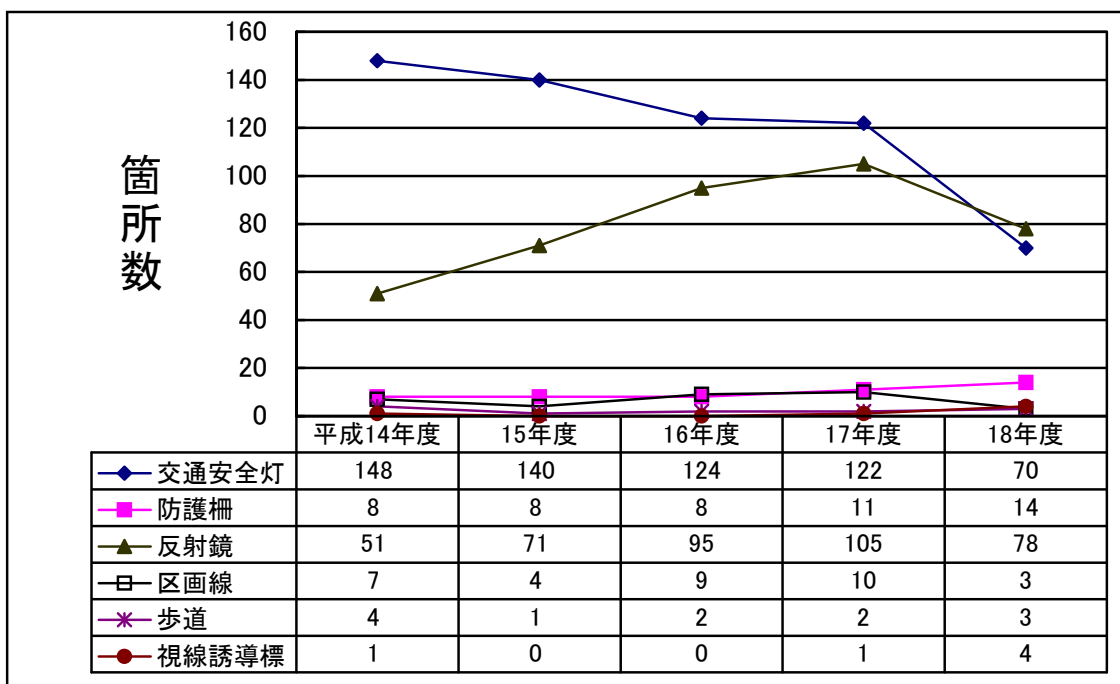
2) 交通安全対策の推進

本市では生活環境の改善のため、交通安全施策の整備、交通安全教育の充実、交通規制の適正化等を図っています。また、高齢者・若年層を中心とした交通安全教育の推進、強化に努めています。

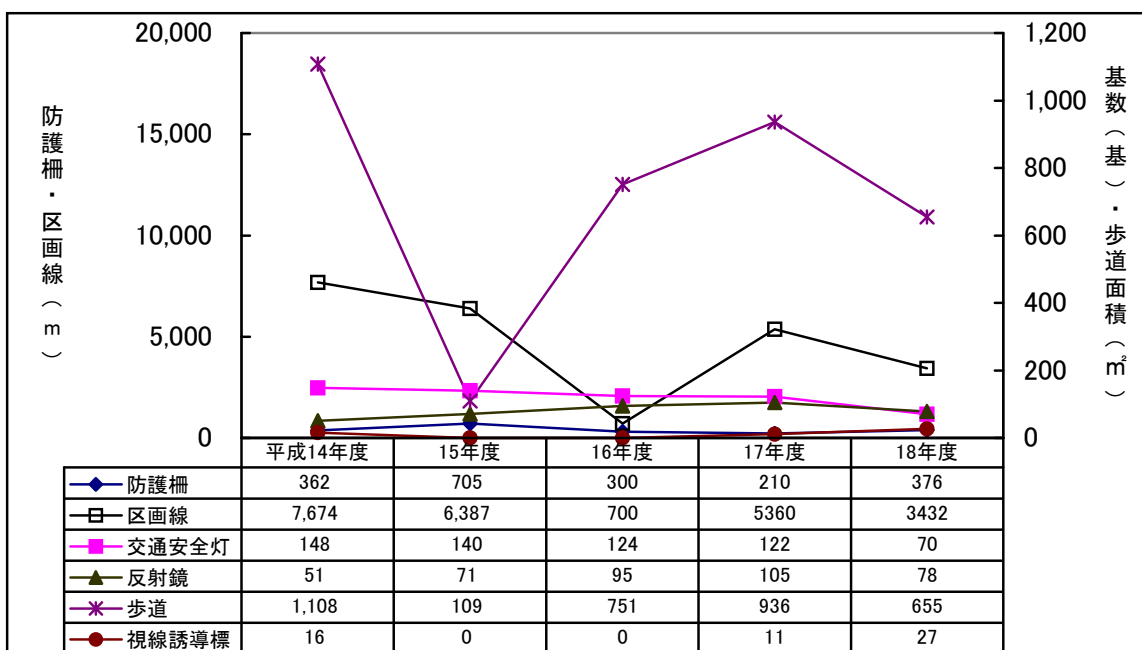


図表 3.1.9 別府市内登録自動車台数（各年度末現在）

（資料…九州運輸局大分運輸支局【普通自動車等】、課税課【軽自動車・原付】）



図表 3.1.10 安全施設整備状況（各年度新規整備分、箇所ベース）（資料…土木課）



図表 3.1.11 安全施設整備状況（各年度新規整備分、数量ベース）（資料…土木課）

(6) 土地利用

平坦地には宅地、山岳部や高原部には多くの自然があり、土地利用の特徴は大きく2つに分かれています

現在の土地利用としては、市街地と別府湾を覆うような形で山林等の自然が大きく広がっており、住宅地地域と山林地域の二つのゾーンに分かれています。また、別府湾側の平地部に住宅地が形成されており、その周辺に商業用地、公益施設用地が点在しています。

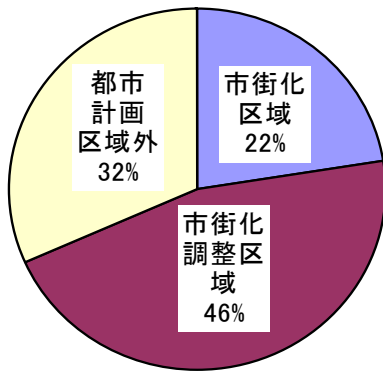
(7) 土地利用法規制

①都市計画関連の法規制

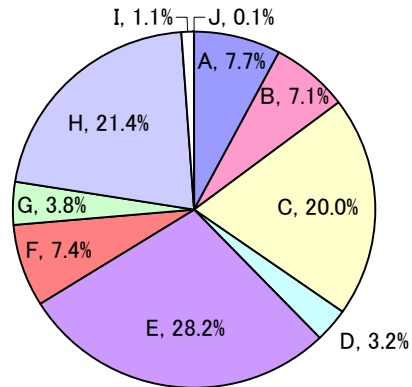
商業地域が広く指定されていることと、市街地を取り囲むように山地部に風致地区が広く指定されている特徴があります

別府市の都市計画区域等の指定状況は下図のとおりで、特に、本市の特徴は、商業地域が用途地域の21.4%を占めていることで、これは全国値平均4.0%の約5倍に相当します。

また、風致地区として、山の手・鶴見・十文字原・実相寺荘園・野田の5風致地区（総面積4,412ha）が指定されています。



図表 3.1.12 都市計画区域等の指定状況
(資料…都市計画課)



A:第1種低層住居専用地域
 B:第2種低層住居専用地域
 C:第1種中高層住居専用地域
 D:第2種中高層住居専用地域
 E:第1種住居地域 F:第2種住居地域
 G:近隣商業地域 H:商業地域
 I:準工業地域 J:工業地域

図表 3.1.13 用途地域（市街化区域）
の決定状況（資料…都市計画課）

② 開発行為

1) 現状と対策

近年のモータリゼーションの進展、高度情報化社会の到来や人口の減少、高齢化社会の進行などにより、都市の構造に変化が生じてきており、今後これらを十分に考慮した都市づくりが必要とされています。また、地方分権の推進により地域の実状に応じた都市計画を行っていくように平成12年に都市計画法の改正がおこなわれたところでもあります。

開発行為においては、無秩序な市街化を防止し、自然の保護、生活環境の保全に資するとともに、公共・公益施設の整備を促進することによって良好な都市環境の形成を図っていくために、開発指導要綱に即した指導協議をおこなっております。

今後、開発行為については地区計画や建築協定等を活用するなどして、民間開発者と行政が一体となって、秩序ある市街地整備を図り、地域特性に応じた都市構造の形成に寄与していくことが必要と考えられます。

年 度	開発行為(*1)		宅地造成(*2)		計	
	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
平成15年度	8	23,731	12	15,140	20	38,871
平成16年度	11	49,091	13	11,921	24	61,012
平成17年度	13	64,530	9	39,165	22	103,695
平成18年度	13	55,083	7	27,111	20	82,194

*1 都市計画法に基づく開発行為許可（変更許可を除く）

*2 宅地造成等規制法に基づく宅地造成許可（開発行為と同一箇所を除く）

図表 3.1.14 平成18年度宅地開発許可状況（平成19年3月31日調査）（資料…建築指導課）

用 途	開発行為(*1)		宅地造成(*2)		計	
	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
専用住宅	6	22,422	1	328	7	22,750
共同住宅	3	5,333	3	15,957	6	21,290
店 舗	2	21,315	0	0	2	21,315
事 務 所	1	4,325	0	0	1	4,325
そ の 他	1	1,688	3	10,826	4	12,514
計	13	55,083	7	27,111	20	82,194

*1 都市計画法に基づく開発行為許可（変更許可を除く）

*2 宅地造成等規制法に基づく宅地造成許可（開発行為と同一箇所を除く）

図表 3.1.15 平成18年度宅地開発建物等用途別許可状況（平成19年3月31日調査）
（資料…建築指導課）

区 域	用途地域	開発行為(*1)		宅地造成(*2)		計	
		件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
市街化区域	第1種低層住居専用地域	0	0	1	789	1	789
	第2種低層住居専用地域	1	1,221	0	0	1	1,221
	第1種中高層住居専用地域	1	2,596	1	14,176	2	16,772
	第2種中高層住居専用地域	1	4,298	0	0	1	4,298
	第1種住居地域	6	32,875	5	12,146	11	45,021
	第2種住居地域	2	8,224	0	0	2	8,224
	近隣商業地域	0	0	0	0	0	0
	商業地域	2	5,869	0	0	2	5,869
	準工業地域	0	0	0	0	0	0
	工業地域	0	0	0	0	0	0
市街化調整区域		0	0	0	0	0	0
計		13	55,083	7	27,111	20	82,194

*1 都市計画法に基づく開発行為許可（変更許可を除く）

*2 宅地造成等規制法に基づく宅地造成許可（開発行為と同一箇所を除く）

図表 3.1.16 平成18年度宅地開発用途地域別許可状況（平成19年3月31日調査）

（資料…建築指導課）

③その他の法規制

自然公園が指定されているほか、温泉関係の保護に関する規制が地域指定されています。

内成・東山・天間地域において農業振興地域及び農用地区域が指定されています。また、市街地周辺の森林地域では、広い範囲で保安林が指定されています。

自然公園は、鶴見岳・由布岳一帯の阿蘇くじゅう国立公園が指定されています。

その他、温泉法に基づき温泉の保護に関する規制が図られ、市街地南部及び北部一帯が保護地域に、また、別府温泉周辺、鉄輪温泉周辺等が特別保護地域にそれぞれ指定されています。

（8）公園緑地

現在、いくつか整備中のものがあります

本市の公園及び緑地は、都市計画による公園 30 ヲ所、開発行為及びその他の公園 97 ヲ所、チビッコ広場 31 ヲ所、合計 158 ヲ所（85.29ha）です。平成19年3月31日現在の市民一人あたりの公園面積は、6.99 m²です。現在の公園・緑地の整備

率は 21% です。

なお、緑のマスタープラン（平成 7 年 3 月策定）においては、目標年次の平成 22 年における公園緑地等の整備目標は、都市計画区域内で 24.76 m²/人、市街化区域内で 20.90 m²/人としています。

みどり監視員

別府市環境保全条例に基づき、市長がみどり監視員を委嘱します。監視員は市内各担当区の保護地区・保護樹等の自然環境の監視、並びに環境緑化推進の指導にあたり、その結果を報告書にまとめて毎月提出しています。また、各種緑化行事にも参加、協力しています。（参考資料 12）

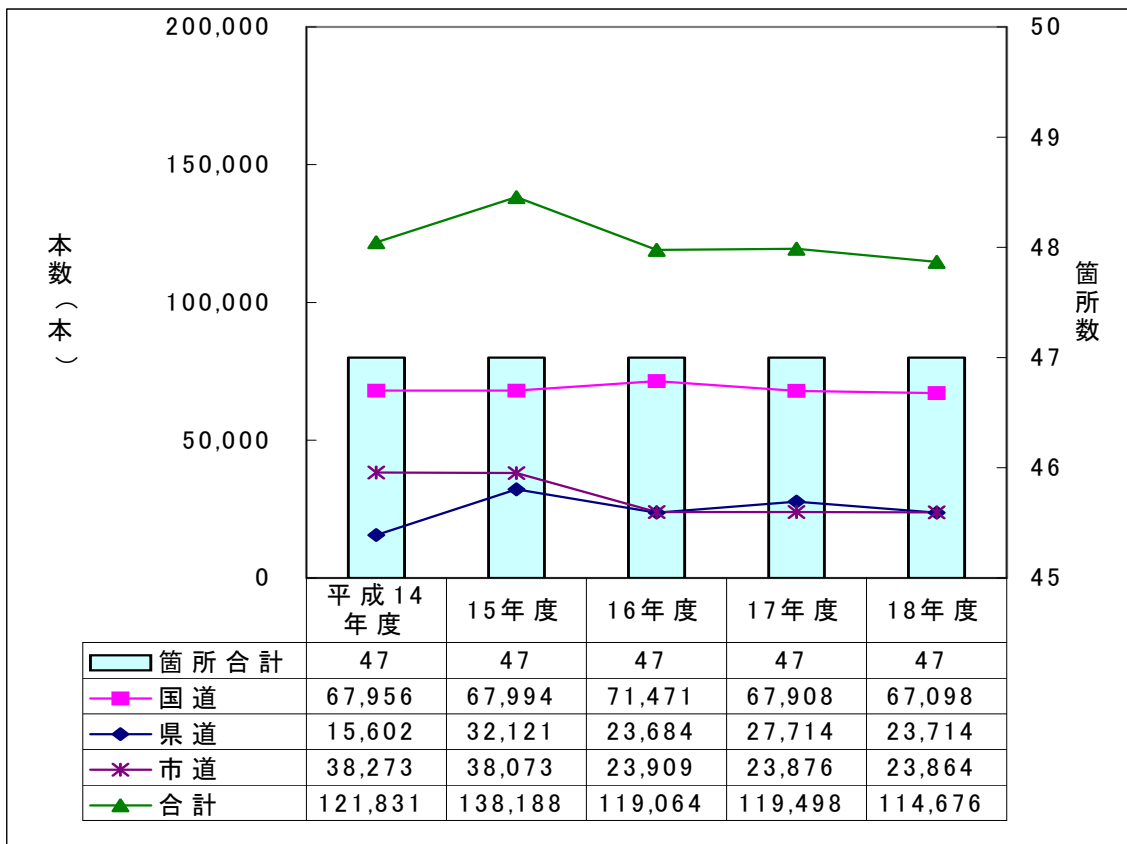
種 別	箇所数	延面積 (ha)	備 考
街 区 公 園	16	4.90	
近 隣 公 園	7	8.26	
地 区 公 園	1	6.38	
総 合 公 園	2	38.14	
運 動 公 園	1	12.41	
特 殊 公 園	1	4.62	
緑 道	2	1.66	
チビッコ広場	31	2.92	
開発行為による公園	94	4.67	
そ の 他	3	1.33	
計	158	85.29	

(一人あたりの公園面積 6.99m²)

図表 3.1.17 公園の状況（平成 19 年 3 月 31 日現在）（資料…公園緑地課）

箇所数	124
高 木	5,456
中 木	4,272
低 木	100,348
合 計	110,076

図表 3.1.18 公園内の樹木数（平成 19 年 3 月 31 日現在）（資料…公園緑地課）



図表 3.1.19 街路樹数の植樹場所と本数(平成19年3月31日現在)(資料…公園緑地課)

(9) レクリエーション施設

温泉、レジャー、文化施設など多種多様なレクリエーション施設があります

本市のレクリエーション施設観光資源は、西部の山地部のレクリエーション施設と東部の温泉街の二つに大きく分かれています。

市内には、別府温泉・浜脇温泉・観海寺温泉・堀田温泉・亀川温泉・柴石温泉・鉄輪温泉・明礬温泉のいわゆる“別府八湯”があり、それぞれ温泉街を形成しています。

また、観光資源でもある温泉資源を活かしたいわゆる“地獄めぐり”があり、鉄輪地区を中心に10ヵ所以上の“地獄”を有しています。

鉄輪地区、観海寺地区等の山裾部に立ち昇る“湯けむり”は、本市にとって、自然的シンボルであるだけでなく、温泉情緒を醸し出す大切な観光資源ともなっています。

2 自然環境の現状

(1) 気象

一年中比較的温暖な気候です

本市の気候は、瀬戸内海性気候に属し、年間の平均気温は 16℃から 17℃と温暖で、年間降水量は平均で 1,800mm から 1,900mm です。風は平均して 1.8m 程度で、おおむね冬季は北西風、夏季は南東風が多くなっています。

(2) 地形・地質

別府市は九州の地殻変動や火山活動を考える上で非常に重要な地域で、別府湾に向けて西から東へ緩やかに傾斜する扇状地上に市街地が広がっています

別府市の地形は、西側の由布岳、鶴見岳等の火山群から東側の別府湾に向けて緩やかに傾斜する扇状地となっています。特に別府市の地質は火山活動の歴史でもあり、火山の存在なしには別府市を語ることはできません。

この地域には新生代に大きな火山活動が少なくとも 4 回あり、第一期の火山活動では実相寺山や亀川西方の丘を、第二期は御越山・福万山を、第三期は立石山・飛岳・水口山・高崎山及び高平山を、第四期には由布岳・鶴見岳・伽藍岳などの大きなトロイデを作ったとされています。その他の背後地の山々も第三期から第四期にかけての火山活動によって形成されたと考えられています。

また、由布岳 1,584m、鶴見岳 1,375m、内山 1,275m、大平山 792m 等の山並みが、扇状地を取り囲むように別府湾に面して迫っており、海と山のパノラマ的な別府湾の眺望景観を印象づける地形的特質ともなっています。



図表 3.2.1 別府地域の地形
(備考：図中の「湯布院町」「庄内町」「挾間町」はいずれも現在の由布市)

(3) 河川・水系

本市の河川の多くは、扇状地地形を一気に流れ、別府湾に注いでいます

本市を流れる河川は、朝見川、境川、春木川などの2級河川があり、その河川の多くは、斜面の急な扇状地地形を一気に流れ別府湾に注ぐのが特徴ですが、いずれも保水力に乏しく豪雨時には過去しばしば災害をもたらしてきました。

(4) 海域

本市海岸部は、比較的自然海岸が少なく、藻場も少ないです

別府湾は瀬戸内海沿岸域の伊予灘西部に当たる海域に位置しており、この海域は、比較的水質も底質も良好で、自然的な海岸線も多く残っていますが、干潟や藻場が多く消滅している海域でもあります。

別府湾に面した本市海岸部は、特に自然海岸や干潟、藻場の少ないところです。

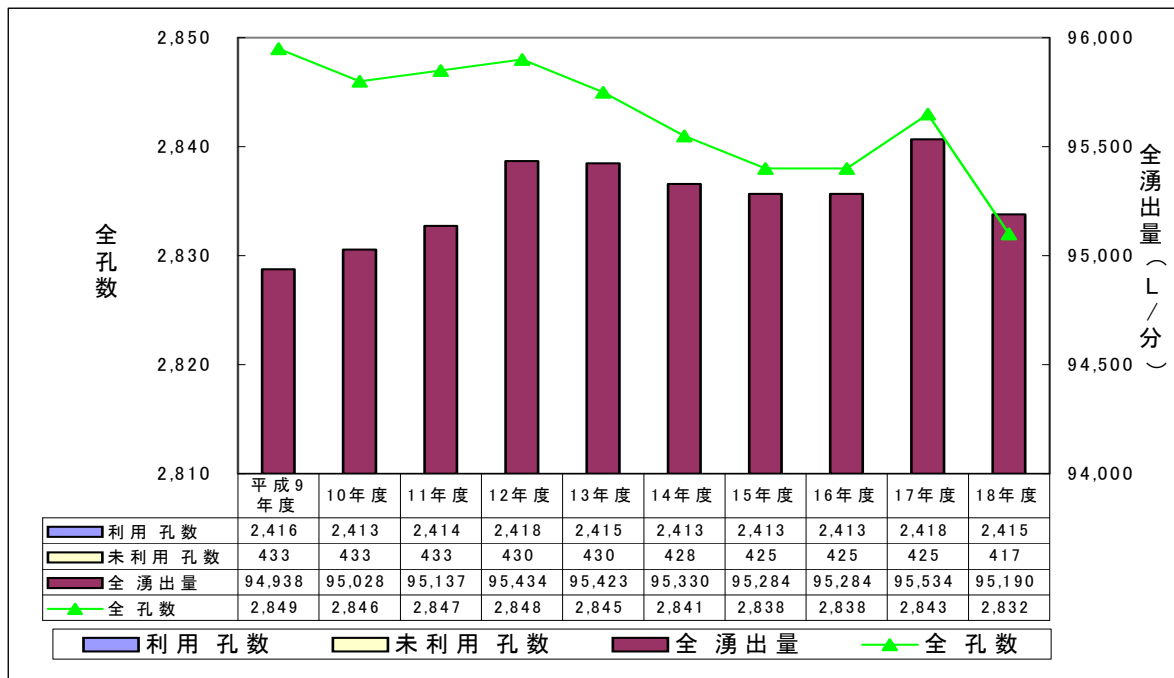
(5) 温泉

源泉数、泉質、湧出量ともに全国有数の温泉地です

本市の温泉は、阿蘇火山帯に連なる鶴見岳、伽藍岳を起点として、ほぼ東西にその温泉脈が走っており、源泉数2,832孔、湧出量は毎分95,190Lに及び、全国の市町村の中で有数の温泉地となっています。しかし、泉源の新規開発が行われる一方で、動力装置による多量の温泉水の採取による温泉水位の低下が懸念されます。

温泉源泉数や湧出量は最近わずかに減少する傾向にあります

湧出量は一時期増える傾向にありましたが、横ばいか、わずかに減少するようになりまし。また、温泉源泉数はわずかに減る傾向にあります。



図表 3.2.2 温泉源泉数と湧出量の推移（資料…別府県民保健福祉センター報）

(6) 自然環境の保護

市内各地に点在する良好な自然環境を保全、維持していくために、保護活動や保護樹の指定を行っています。その対象物は溪谷、湿原、巨樹、並木、植物の生息地に至るまで多種多様です。そこで、本市では自然分野に造詣の深い市内在住の学識経験者を別府市環境保全審議会の中の専門調査委員として委嘱し、各専門分野から所見、調査報告をいただいています。そして、別府市環境保全審議会の中でその所見等を参考にして保護地域、保護樹等の指定・解除を行っています。

※別府市環境保全条例の規定により、次の3分野で保護すべき地区及び樹木の指定を行っています。

- 自然環境保護地区： 良好な自然環境を有する山林、溪谷、池沼、草原、海浜等（史跡、名勝及び天然記念物を含む）で、その自然環境を維持するため保護することが必要な地区。
- 生物環境保護地区： 野生動物の生息地（渡来地及び繁殖地を含む）または植物の生息地で、その動植物の保護又は繁殖を図るため保護することが必要な地区。
- 保護 樹： 市民に親しまれ、または由緒由来がある樹木並びに樹林中で、美観風致を維持するため保護することが必要な樹木並びに樹林。

なお、現在まで指定した物件は「参考資料9 保護地区指定物件一覧表」のとおりです。保護地区の指定候補となる物件には公有、共有、私有と様々な様態があり、所有者の方からその指定申請がある反面、諸般の事情から指定に承諾してもらえないケースもあり、そ

の指定については難しい面も含んでいます。

人間の開発（活動）は昔に比べて年々大規模化していることから、地域的な開発（活動）であっても、その影響が地球的規模で大きく広がることが考えられます。殊に現代の社会情勢の中、複雑化した環境問題解決のため、新しい諸施策の展開がなお一層求められることでしょう。

このような地球的課題を抱えた現代、地球の住民の一人として私たち別府市民は自然の豊かさに甘えるのではなく、別府というまちを具体的かつ正確に理解し、生活環境、自然環境をより豊かなものにするため熟慮断行していかなければなりません。別府のまちが持っている、世界に誇れる環境を認識し、その環境を生かしつつ人や他の生物にもやさしい、別府独自の新しいライフスタイルを創造していくことが必要だと考えます。

そこで、本市は自然保護施策の推進、各種イベント等を開催することにより、本市の環境保全意識の高揚と環境保全知識の普及になお一層尽力していきたいと思えます。

（7）自然景観

湯けむり、山と海の織りなす全国的にも稀でダイナミックな自然景観を有しています

別府らしさを印象づける自然景観として、別府湾奥に広がる海と扇状地形を取り囲む山並みのダイナミックな眺望景観ともなっている自然景観、別府の風情ある風物詩でもある山並みを背景に立ち上る湯けむりの景観があげられます。

また、上人ヶ浜、関の江海岸の自然海岸は、別府市に残された唯一の砂浜、礫浜海岸で、海岸植物の生育する場でもあります。

3 快適環境の現状

(1) 緑化アメニティ

市民と行政のパートナーシップにより都市緑化の運動が行われています

本市では、従来の樹木を中心とした緑化推進運動に加え、昭和 63 年度より都市環境緑化の一環として行政と市民参加による「フラワーシティ別府」運動をすすめています。

この運動は、花の咲きこぼれる都市づくりを目標に、公園・街路・緑地等の緑化空間に花のある街づくりを推進する運動で、市内の公園や街路等に植栽をすすめています。

また、神楽女湖菖蒲園や南立石公園のしだれ梅など、花の名所づくりを進めています。

今後も上記のような運動を積極的に展開し、国際観光温泉文化都市にふさわしい花と緑に囲まれた住みよい都市づくりを進めるため平成 17・18 年の 2 ヶ年で「別府市緑の基本計画」を策定しました。

(2) 親水アメニティ

親水性の高い魅力あるウォーターフロントの創出に取り組んでいます

別府港の北浜、餅ヶ浜、上人ヶ浜地区では、防災機能の向上に加え、レクリエーションや親水アメニティ、水辺の生きものの生息環境にも配慮した海とのふれあいの場づくりを目指した海岸事業が進められております。

(3) 景観

別府市は平成 17 年 4 月 1 日に景観法に基づく景観行政団体となりました

都市、農山漁村における良好な景観の形成を促進するため、景観計画の策定その他の施策を総合的に講ずることにより、美しく風格のある国土の形成、潤いのある豊かな生活環境の創造及び個性的で活力のある地域社会の実現を図ります。

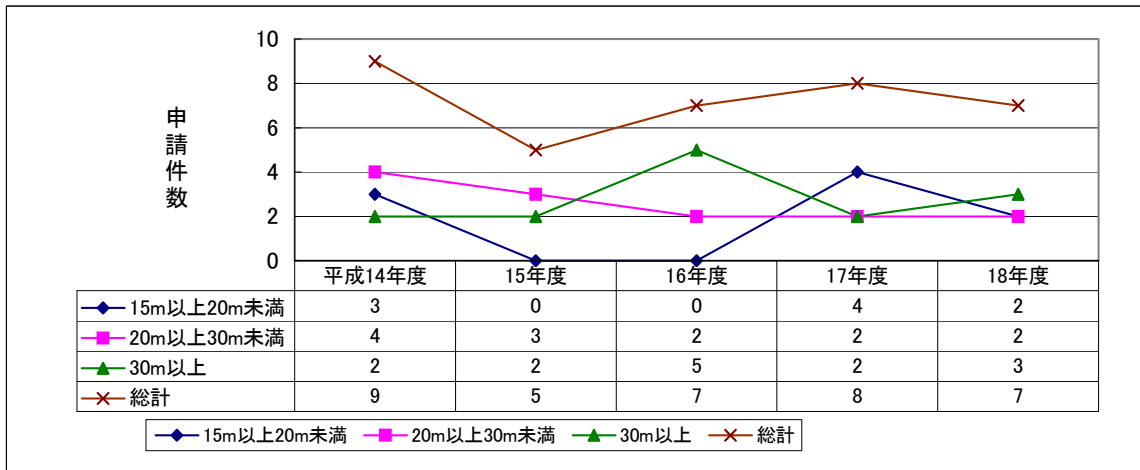
①別府市環境保全条例による指定建築物制度について

建築物等の建築によって起こる周辺住民との紛争防止、公害のない円滑な建設作業の推進等のため、高さ 15 メートルを超える中高層建築物・工作物（以下指定建築物等という）を建設しようとする建築主は、環境保全条例により、建築基準法による建築確認申請をする前に、「駐車場の確保」「電波障害や建築作業中の振動・騒音等の公害対策」及び「近隣関係者への計画説明会」等について、「指定建築物建築計画書」等を市に申請しなければなりません。市はその内容について審査し環境保全条例に適合の旨の通知を出し、それに基づいて建築主は建築確認申請を行う事としています。

②指定建築物の申請状況の推移

上記条例及び施行規則（昭和 50 年 12 月 1 日）の施行以来 504 件の申請が出ています。

過去 5 年間の申請状況をまとめると図表 3.3.1 のようになります。



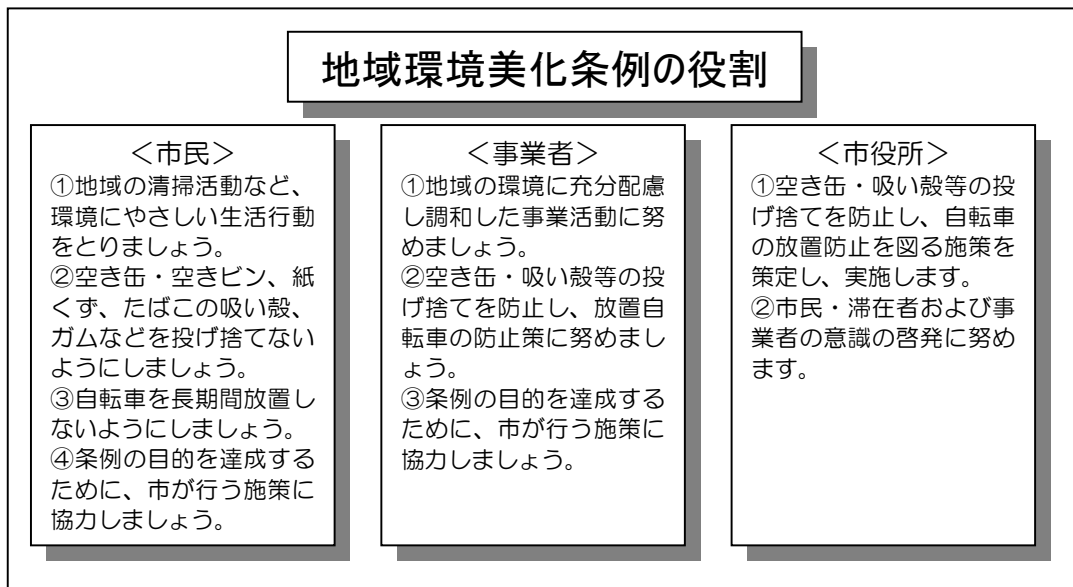
図表 3.3.1 過去 5 年間の指定建築物高さ別申請件数推移（資料：都市計画課）
（備考：平成 15 年度の「30m 以上」の申請件数 2 件のうち 1 件は増築申請）

また、平成 18 年度における指定工作物の申請状況は 3 件でした。

別府市地域環境美化条例が制定されました

観光都市としての美しい玄関口を確保するために、空き缶、吸い殻などの散乱防止と自転車の放置防止を目指して、別府市地域環境美化条例が平成 13 年 4 月 1 日に施行されました。

市民・事業者・市役所それぞれの役割を、図表 3.3.2（次ページ）に、また、この条例による規制及び指定地域を参考資料 22 に、それぞれ示しました。



図表 3.3.2 地域環境美化条例における市民・事業者・市役所の取組み

なお、平成 16 年に、県において「美しく快適な大分県づくり条例」が制定され、当市においても全域がこの条例の指定地域となりましたが、県と市の各条例相互の整合性を図るため、別府市においては、市の条例に定める規定が優先して適用されることとなります。

(4) 歴史文化財

歴史的建造物、史跡など多くの歴史文化財が点在しています

市内には、建造物、工芸品をはじめとする多くの国、県、市の指定を受けた有形文化財が保存されています。

また、史跡や天然記念物も文化財指定されており、国史跡では、鬼の岩屋古墳が挙げられ、天然記念物では、鶴見の坊主地獄や鶴見権現社のイチイガシ林などが挙げられます。

これら歴史文化財は、市民や観光客にとって、別府市の特徴である温泉や自然、歴史などを知る貴重な遺産となっています。

4 生活環境の現状

(1) 大気質

大気汚染とは、事業活動や生活活動に伴って排出される硫黄酸化物・粉じん・窒素酸化物などにより大気が汚染されることをいい、これらの汚染物質が人の呼吸作用により体内に取り入れられることで直接的に悪影響を与えます。また、大気中での光化学反応によりこれらの一次汚染物質から二次汚染物質が生じ、その二次汚染物質による複合汚染も危惧されています。

①本市の大気の概況

本市における大気汚染の測定は、県において、青山中学校（大字別府 3088-1）に自動測定装置を設置し大気の常時監視を行っています。この測定局では浮遊粒子状物質のほかに自動車排出ガスも原因の一つとされる窒素酸化物の測定を行うとともに、その窒素酸化物によって複合的に発生する二次汚染物質・光化学オキシダントの測定も行っています。昭和 53 年度からはテレメータ化され緊急体制の整備も図られています。

測定結果を総合すると、本市の大気は概ね良好といえます。しかし、地球温暖化防止対策推進法が平成 10 年 10 月に公布されるなど、日本をはじめ世界的な取り組みが進行する中、ますます大気汚染防止に関する施策の推進が求められています。

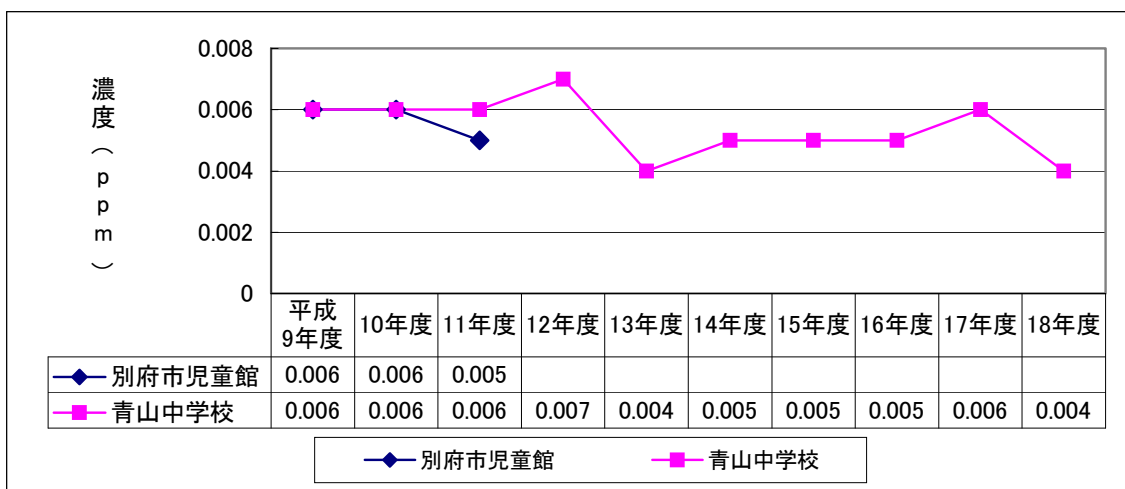
②風向・風速測定

本市では青山中学校で大気汚染測定と同時に、平均風速 10m/s 以下の風を観測しています。青山中学校では、鶴見岳から境川に沿って一種の谷風のような陸風の影響を受けています。

二酸化硫黄濃度は基準を達成しています

二酸化硫黄は亜硫酸ガスとも言われ、石炭や重油中の硫黄が燃焼することによって生成され、大気中に入ります。人体に有害な刺激臭を伴うガスで、水に溶けて亜硫酸になったり、大気中で酸化されて三酸化硫黄になり雨に溶けて硫酸になって酸性雨の原因になります。

現在は、青山中学校で測定を行っています。過去 10 年間の二酸化硫黄濃度の経年変化（年平均値、平成 11 年度までは別府市児童館のデータを含む）を図表 3.4.1 に示し、環境基準に対比させた結果を図表 3.4.2 に示しました。両測定局とも短期的評価及び長期的評価で基準を満足しています。



二酸化硫黄（SO₂）の環境基準：・1時間値の1日平均値…0.04ppm以下
かつ ・1時間値…0.1ppm以下

図表 3.4.1 二酸化硫黄濃度の経年変化（青山中学校測定局、平成11年度までは別府市児童館のデータを含む）

測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値が0.1ppmを超えた時間数とその割合		日平均値が0.04ppmを超えた日数とその割合		1時間値の最高値	日平均値の2%除外値
					時間	%	日	%		
青山中学校	第2種住居	356	8,630	0.004	0	0.0	0	0.0	0.033	0.010

（資料…大分県環境保全課）

備考1 日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことはない。

備考2 環境基準の長期的評価による日平均値が0.04ppmを超えた日数はない。

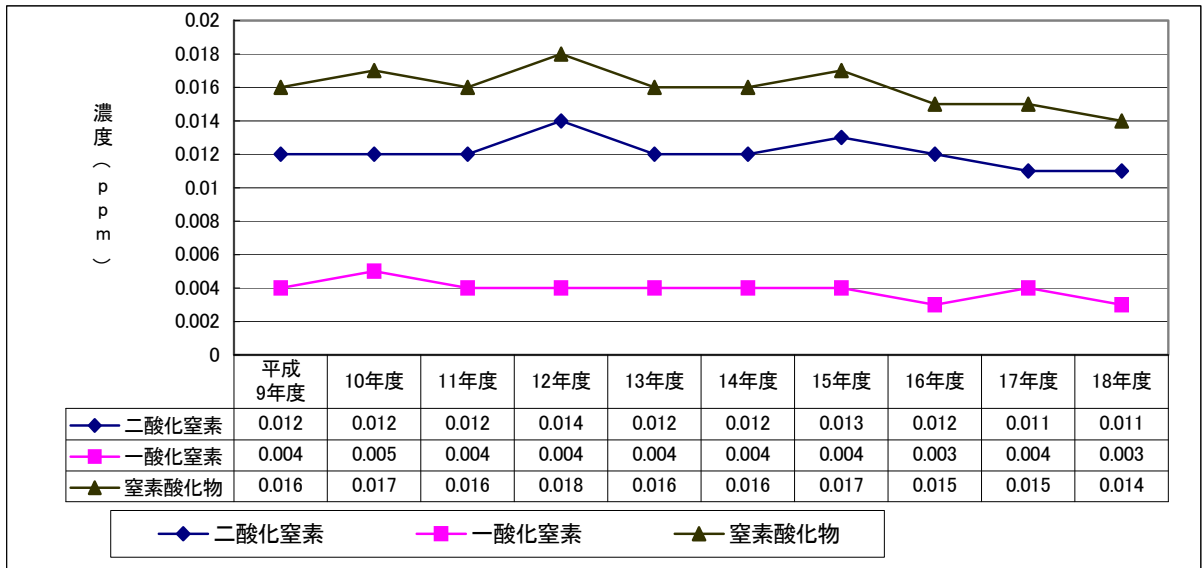
図表 3.4.2 平成18年度 二酸化硫黄の環境基準対比表（青山中学校測定局）

二酸化窒素に係る環境基準を達成しています

窒素酸化物は空気中での高温燃焼に伴って必然的に発生するものであり、工場だけでなく、自動車、家庭用暖房器具等のごく身近なものからも発生する可能性があります。特に、二酸化窒素は気管支炎などの呼吸器系の障害を引き起こすことがあり、それについて環境基準が定められています。

現在、青山中学校に自動測定装置が設置され、窒素酸化物濃度の測定が行われております。経年変化表を図表 3.4.3 に示し、平成18年度の結果を図表 3.4.4 及び図表 3.4.5 に示しました。

現在のところ、二酸化窒素に係る環境基準を達成しています。



二酸化窒素 (NO₂) の環境基準：・1時間値の1日平均値…0.04～0.06ppm のゾーン内
またはそれ以下

図表 3.4.3 窒素酸化物濃度の経年変化（青山中学校測定局）

測定局	有効測定日数	測定時間	年平均値	日平均値が (0.04ppm以上 0.06ppm以下)の 日数とその割合		日平均値が 0.06ppmを超えた 日数とその割合		1時間値 の最高値	日平均値 の年間 98%値
				日	%	日	%		
青山中学校	362	8,720	0.011	0	0.0	0	0.0	0.071	0.027

(資料…大分県環境保全課)

備考 1 1時間値が0.2ppmを超えた時間はない。

備考 2 1時間値が0.1ppm以上0.2ppm以下の時間はない。

図表 3.4.4 平成18年度 二酸化窒素の環境基準対比表（青山中学校測定局）

測定局	測定項目	有効測定日数	測定時間	年平均値	1時間値 の最高値	日平均値の 年間98%値	年平均値 NO ₂ /(NO+NO ₂)
							%
青山中学校	一酸化窒素	362	8,720	0.003	0.151	0.013	—
	窒素酸化物 (NO+NO ₂)	362	8,720	0.014	0.175	0.039	76.4

(資料…大分県環境保全課)

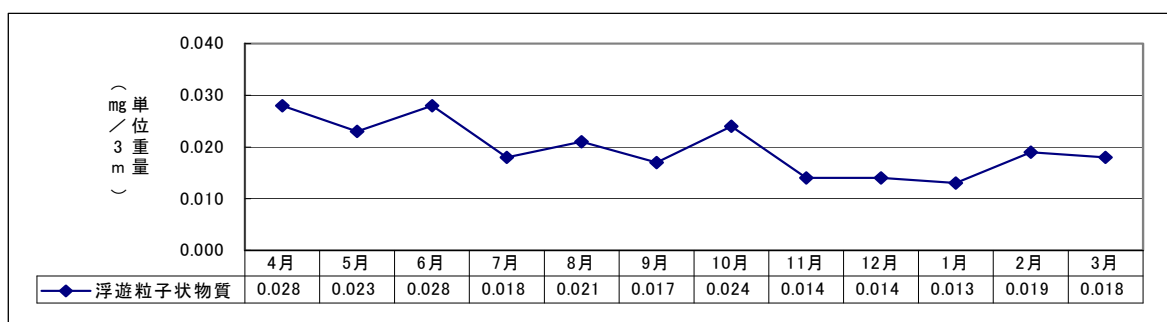
図表 3.4.5 平成18年度 一酸化窒素、窒素酸化物の年間測定結果（青山中学校測定局）

浮遊粒子状物質に係る環境基準を超えた日がありました

大気に含まれる浮遊粒子状物質は、工場・事業場・交通機関などから排出されるばいじんや粉じんなどの人為的な発生のほか、風による土砂の舞い上がりや火山の噴煙などの自然的要因によっても発生します。浮遊粒子状物質は、粒径が小さいものは大気中に比較的長時間滞留し、人の呼吸作用によって肺まで到達して沈着し高濃度で呼吸器系に悪影響を及ぼすことから、粒径が $10\mu\text{m}$ 以下のものについては環境基準が定められています。

図表 3.4.6 に月別の測定結果を、図表 3.4.7 に環境基準対比表を示しました。

浮遊粒子状物質は、平成 18 年度は、長期的評価では基準を達成しましたが、日平均値で環境基準を超えた日がありました。



図表 3.4.6 平成 18 年度 浮遊粒子状物質の月別変化表 (青山中学校測定局)

測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	1 時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数とその割合		日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値
					時間	%	日	%		
青山中学校	第 2 種住居	356	8,641	$0.020\text{mg}/\text{m}^3$	1	0.0	1	0.3	$0.232\text{mg}/\text{m}^3$	$0.052\text{mg}/\text{m}^3$

(資料…大分県環境保全課)

備考 1 日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数は 1 日間であるため、2 日以上連続したことはない。

備考 2 環境基準の長期的評価による日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日はなかった。

図表 3.4.7 平成 18 年度 浮遊粒子状物質の環境基準対比表 (青山中学校測定局)

光化学オキシダントの環境基準を超えた日がありました

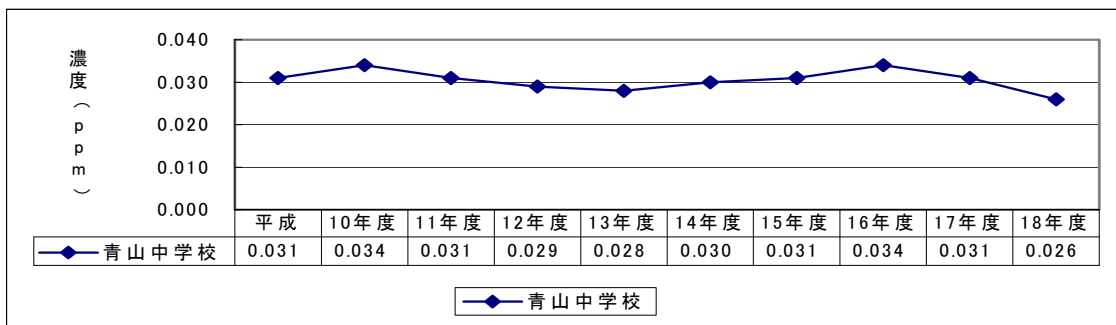
光化学オキシダントは、大気中の窒素酸化物と炭化水素類などが紫外線により光化学反応を起こして生成されます。その大部分はオゾンで、PAN (パーオキシアセチルナイトレート) や二酸化窒素などが含まれる酸化性物質です。

高濃度では目やのどなどを刺激するばかりでなく、植物にも悪影響を与えます。

光化学オキシダント濃度の経年変化表を図表 3.4.8 に示し、環境基準との対比結果を図表 3.4.9 に示しました。

春、夏など日照が強く風が弱いときには汚染物質が停滞し拡散されないため紫外線によって光化学オキシダントの反応が進むようです。

平成 18 年度は、環境基準を超えた日が合計 59 日ありました。



光化学オキシダントの環境基準：・1時間値…0.06ppm以下

図表 3.4.8 光化学オキシダント濃度の経年変化（青山中学校測定局）
（測定値は昼間【5～20時】の1時間値の年平均値を示したもの）

測定局	昼間測定日数	昼間測定時間数	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	昼間の1時間値の年平均値
	日	時間	日	時間	日	時間	ppm	ppm
青山中学校	340	5,018	16	59	0	0	0.092	0.037

（資料…大分県環境保全課）

図表 3.4.9 平成 18 年度光化学オキシダント濃度の環境基準対比表

自動車交通に関する項目について、大気環境に係る基準を満足しています

①自動車排出ガス調査結果

県において、大気環境監視の一環として、市内主要幹線道路沿いの1地点で、自動車排出ガスによる汚染状況の実態把握を行っています。調査項目は一酸化炭素、窒素酸化物、浮遊粒子状物質等です。その結果については、図表 3.4.10 に示しています。環境基準を満足しています。

場 所		永石通交差点	環境基準
調 査 年 月 日		H18.7.28~8.4	
気 象 概 況 最 多 風 向 ・ 出 現 頻 度 (%)		SSE (39)	
一 酸 化 炭 素 (ppm)	1 日 平 均 値	1.7	
	1 日 平 均 値 の 最 高 値	1.8	10
	8 時 間 平 均 値	1.7	
	8 時 間 平 均 値 の 最 高 値	1.9	20
窒 素 酸 化 物 (ppm)	N O ₂ 1 日 平 均 値	0.017	
	N O ₂ 1 日 平 均 値 の 最 高 値	0.019	0.04~0.06
	N O 1 日 平 均 値	0.027	
浮 遊 粒 子 状 物 質 (mg/m ³)	1 日 平 均 値	0.034	
	1 日 平 均 値 の 最 高 値	0.040	0.10
	1 時 間 値 の 最 高 値	0.060	0.20

(資料…大分県環境保全課)

図表 3.4.10 主要交差点における自動車排出ガス調査結果 (平成 18 年度)

②ベンゼン等の有害大気汚染物質の測定

環境基本法第 16 条第 1 項の規定に基づき、ベンゼン、トリクロロエチレン及びテトラクロロエチレンについては平成 9 年 2 月 4 日に、ジクロロメタンについては平成 13 年 4 月 20 日に環境基準が定められたことにより、県において別府市北浜中継ポンプ場 (北浜 1 丁目 818-386、測定地点：沿道) にて上記の物質を含む有害大気汚染物質の実態調査を実施しています。

調査項目のうち、環境基準及び指針値が設定されているものについて、それぞれの値を満足する結果となりました。(図表 3.4.11、前述の環境基準は車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については適用されません。)

	調 査 項 目	(単位)	北浜中継ポンプ場	基準値・指針値 (年平均値)	
設 定 物 質 環 境 基 準	ベンゼン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	2.0	3.0	環 境 基 準
	トリクロロエチレン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.039	200	
	テトラクロロエチレン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.053	200	
	ジクロロメタン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.77	150	
設 定 物 質 指 針 値	アクリロニトリル	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.024	2	指 針 値
	塩化ビニルモノマー	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.035	10	
	クロロホルム	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.14	18	
	1,2-ジクロロエタン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.20	1.6	
	1,3-ブタジエン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.21	2.5	
	アセトアルデヒド	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1.1		
	ホルムアルデヒド	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1.5		
	酸化エチレン	($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	0.051		
	ベンゾ[a]ピレン	(ng/m ³)	0.60		

備考 1 上記の結果は、年 12 回測定値の平均値。(資料…大分県環境保全課)

図表 3.4.11 平成 18 年度有害大気汚染物質の調査結果

(2) 水質

温泉排水や生活排水の流入と、河川の自浄作用が十分でないため、水質汚濁につながっています

水質汚濁とは、人の健康に直接被害を与える重金属等の有害物質や生活環境に被害を生ずる恐れのある物質が河川や海に流れ込み、その結果その水質や底質が悪化することを言います。

本市は全国有数の温泉観光地であるため、ホテル・旅館等からの温泉排水が河川に流入し、また公共下水道未整備地域の一般家庭からの生活雑排水が河川に流されることで河川の水質汚濁につながっています。また、市街地の背後に鶴見岳がそびえ、前面には別府湾が広がる扇状地という地形と、河川の流長が短いため降った雨や排水が水の浄化作用を十分に受けることなく短時間で海に到達することも、水質汚濁の原因となっています。

一般家庭から排出される生活雑排水は、食生活や生活様式の多様化により、その質・量ともに変化し、河川や海の汚れの原因として問題となっています。そのために種々の対策が取られてきました。その一環として、下水道事業認可区域外で合併処理浄化槽を設置する者へ補助金を交付することによって、し尿と生活雑排水とを併せて処理できる合併処理浄化槽の普及促進に努めてきました。

①公共下水道の進展

1) 現 況

本市の排除方式は分流式であり、汚水は公共下水道污水管へ、雨水は道路側溝、水路、雨水路、雨水渠へ放流されています。汚水の公共下水道普及率は平成18年度末で60.4%であり、公共下水道の整備を推進しています。

また、本市の污水排除については近年、瀬戸内海の水質の保全、自然景観の保全等を図るべき環境基準が定められ、公共用水域の汚濁防止が問題となり、これに対処するため昭和49年10月より活性汚泥法による高級処理を行う終末処理場(中央浄化センター 計画人口118,000人・処理能力117,300m³/日)の建設に着手、昭和54年3月にはその一部が稼働(24,000m³/日)し、平成7年度末には増設工事が完成し処理能力が70,380m³/日になりました。

雨水設備については、都市下水路事業と水路整備、雨水渠整備を推進しており、都市下水路事業は完成しておりますが、水路整備、雨水渠整備は局部的な整備が多く、豪雨時には浸水被害が見受けられます。

また、郊外地域でも開発行為等により都市化が急速に進んでおり、そのため家庭汚水の排出量も増加し、農業用水路、河川、一般水路の汚染に対する環境整備が望まれる状況です。

2) 計 画

本市の下水道計画は、戦後米軍が駐留して使用した施設を昭和26年に譲り受け、これを基盤として昭和27年3月に別府国際観光温泉文化都市建設計画に基づき公共下水道排水区域(山の手排水区域235.4ha)を決定し事業に着手したのが近代的水道事業の始まりです。その後、新都市計画法の施行を契機に逐次検討を加え現在市街化区域を

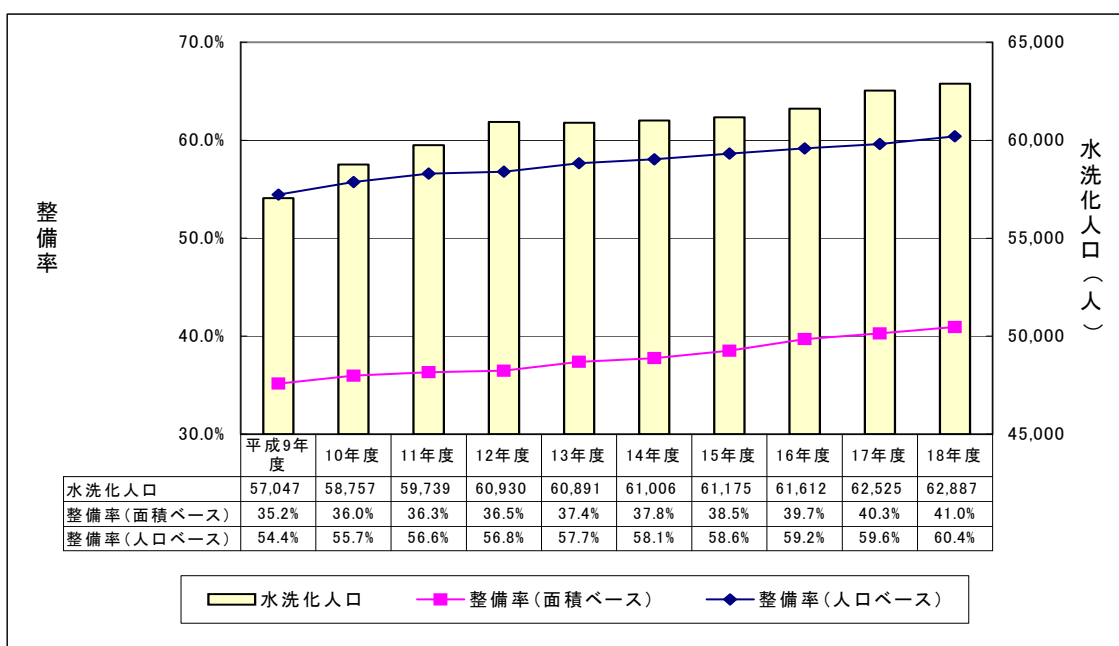
公共下水道排水区域として定め、この一部（1,797ha）の区域について事業認可を受け面整備を進めています。

3)進捗状況

平成15年度からは第9次五箇年計画を進めて、普及を図っております。

また、雨水による浸水被害箇所の解消対策として、公共下水道の雨水計画と都市下水路事業によって整備を行っており、都市下水路（春木1号、扇山1号、鉄輪、北中）については昭和54年度末に完成しました。

平成9年度以降の下水道整備率の推移を図表3.4.12に示しました。



図表 3.4.12 下水道整備率の年次推移（各年度末現在）（資料…下水道課）

②し尿・生活雑排水の処理

1) 現況

本市のし尿処理は、公共下水道事業の進展及び浄化槽とともに、年々減少してきました。しかし、浄化槽の清掃により排出される浄化槽汚泥の処理は増加してきているので、し尿処理場の全体の処理量は、近年変化はありません。

最近では建築基準法や浄化槽法の改正が行われ、単独処理浄化槽が廃止されたので、今後は合併処理浄化槽の設置のみが可能となりました。したがって今までに設置されてきた単独処理浄化槽をいかに早く合併処理浄化槽へ切り替えていくかが重要な課題となっています。

また浄化槽は保守点検や定期的な清掃など、適正な管理を行うことによって、はじめて処理機能を維持できます。浄化槽パトロールを実施することによって、浄化槽の適正管理の方法を指導し、環境の保全に努めていきます。

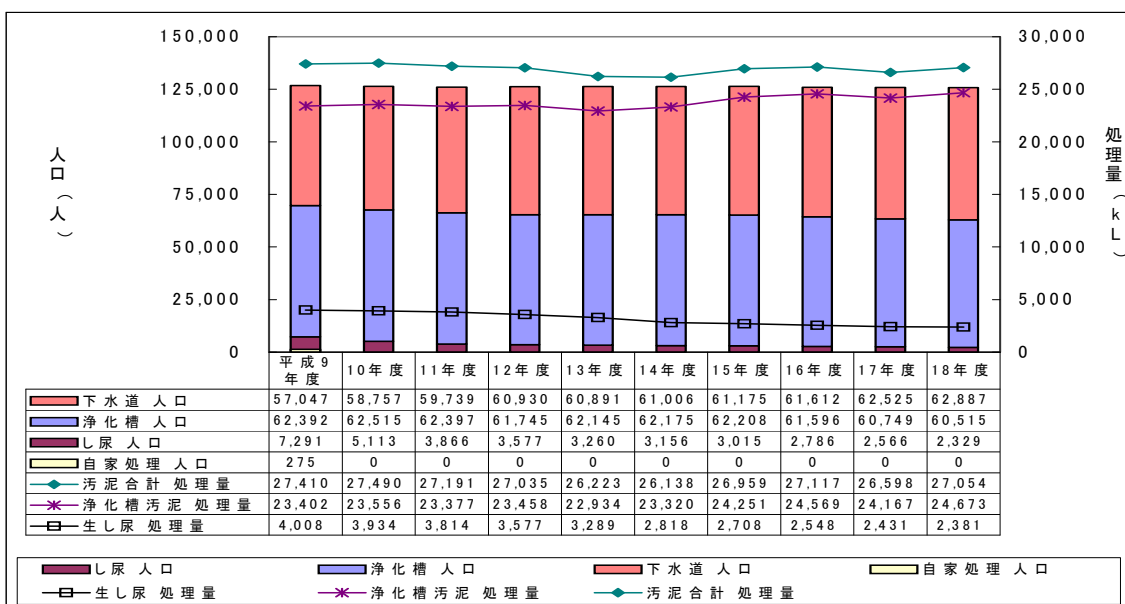
本市では、公共下水道・浄化槽の普及により水洗化が進んでおり、特に、生活の

質的水準を表す指標である水洗化率は、本市は 97.7%となっており、このうち浄化槽処理が大きく貢献しています。

※下水道と相当の効果の合併処理浄化槽は共同住宅・ホテル・病院など普及していて、一般家庭への設置数は 481 基です。（補助金利用設置基数）

単独処理浄化槽と合併処理浄化槽の違い

合併処理浄化槽	し尿と生活雑排水を処理	(放流 BOD	4g/人・日)
単独処理浄化槽	し尿のみ処理	(放流 BOD	32g/人・日)



図表 3.4.13 排水処理法別人口及びし尿処理量の年次推移(各年度末現在)(資料…清掃課、下水道課)

③水質汚濁

1)現状

河川の水質について、環境基準の設定されているところで環境基準を達成していない項目があります

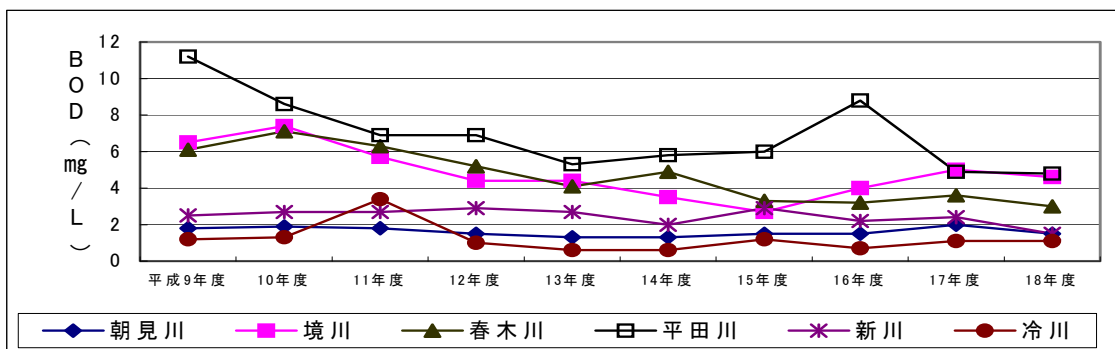
<河川>

本市の南端には朝見川、北端には冷川が流れており、この二つの河川に挟まれて境川、春木川、平田川、新川が市街地域を西から東に縦断し、別府湾に流れ込んでいます。この主要河川は流長が短く流量も少ないといえます。本市では主要河川の水質汚濁の現状を把握するため、年4回、主要6河川7定点で水質調査を実施しています。水質汚濁の目安となる生物化学的酸素要求量(BOD)の経年変化を図表 3.4.14 に、また、参考資料 17 に平成18年度の河川水質調査結果を示しました。

各河川ともその水質はほぼ横ばい状態で推移しています。

なお、朝見川は昭和49年4月1日に観海寺橋を境に上流をA類型、下流をC類型として水質環境基準の類型設定がなされています。

ほとんどの分析項目で環境基準を達成していますが、大腸菌群については達成されていません。



図表 3.4.14 市内主要6河川のBOD濃度の各年度の経年変化 (資料…環境安全課)

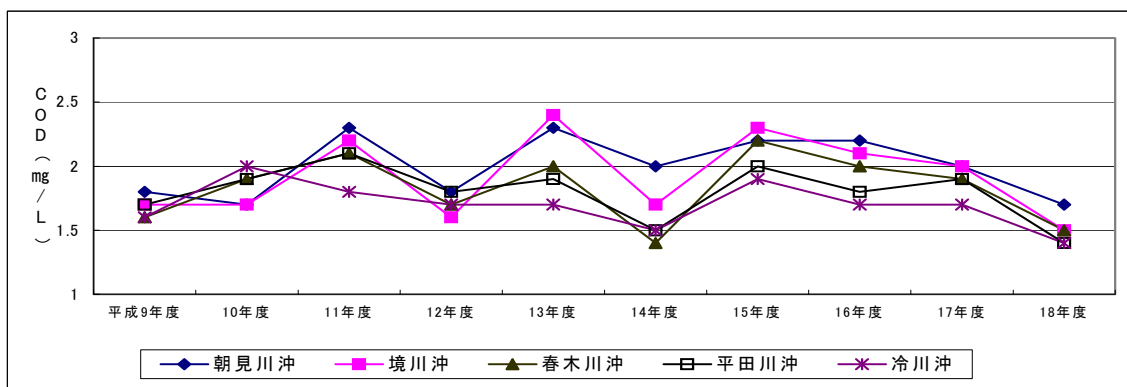
備考1 各河川の調査定点はすべて河口付近(日豊本線を基準)での測定値である。

備考2 BOD濃度は年4回の全測定値の平均を取ったものである。

海域の水質は概ね良好です

<海域>

年4回、地先より約1km沖定点にて別府湾の水質調査を実施しています。水質汚濁の指標である化学的酸素要求量(COD)の経年変化をみると、水質は概ね良好ですが、しばしば夏季に赤潮が発生することが問題として挙げられます。なお、別府港水域は昭和49年7月1日に水質環境基準のB類型に指定され、その基準をほぼ達成しています。



図表 3.4.15 別府湾地先海域5定点のCOD濃度の各年度の経年変化 (資料…環境安全課)

備考1 COD濃度は年4回の全測定値の平均をとったものである。

備考2 H14年度春季の測定値は赤潮発生のため除外し、3回の測定の平均値をとった。

2) 対 策

昭和 45 年に水質汚濁防止法が制定され全国一律の排水基準が適用されるようになり、その後、大分県においても一律基準よりも厳しい上乗せ排水基準が制定され公共用水域の水質汚濁の防止が図られました。しかしながら、濃度規制では十分に対処できないため、総量規制基準を設け水質汚濁防止対策を強化しています。

これは、瀬戸内海に流入する地域の産業排水、生活排水等の汚濁量を削減するため昭和 48 年に瀬戸内海環境保全特別措置法を制定し規制の強化を行ったことを指すものです。

上記のように法の整備が進むと同時に、瀬戸内海の富栄養化を防止するため、リンを含まない洗剤の適切な使用運動を展開し、公共用水域または公共下水道に汚濁負荷をかけないように適正な残滓処理や廃油処理を促進しています。

(3) ダイオキシン類

環境基準を下回っています

ダイオキシン類特別措置法第 26 条第 1 項に基づき、県において、大気、水質（水底の底質を含む）、及び土壌中のダイオキシン類による汚染の状況を測定しました。

別府市、及びその周辺に係る結果を図表 3.4.16 に示しました。測定した全項目について、基準に適合しています。なお、測定地点は、参考資料 8 に図示しました。

区分	調査項目	調査地点	調査結果	環境基準値	単位
一般環境	大 気	別府県民保健福祉センター	0.023	年間平均値 0.6 以下	pg-TEQ/Nm ³
	海域水質	別府湾中央 (Bst-12)	0.038	年間平均値 1 以下	pg-TEQ/L
	海域底質	別府湾中央 (Bst-12)	6.8	150 以下	pg-TEQ/g
	土 壌	北石垣公園	1.3	1,000 以下	pg-TEQ/g

備考 1 測定結果は、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン、ポリ塩化ジベンゾフラン及びコプラナーポリ塩化ビフェニル（コプラナーPCB）の合計値である。

備考 2 pg は 1 兆分の 1 グラム。TEQ は毒性等価物量で、ダイオキシン類には 210 の種類（異性体）があり、毒性は異性体ごとに異なるため、測定対象の 29 物質の濃度を最も毒性の強い 2, 3, 7, 8-テトラクロロジベンゾパラジオキシンの濃度に換算し、合計したものである。

備考 3 単位欄の「pg-TEQ/Nm³」は、0℃の空気 1m³あたりのダイオキシン類の量を示す。(1pg=10⁻¹²g) 同様に、「pg-TEQ/L」は 1L あたりの、「pg-TEQ/g」は 1g あたりの、それぞれのダイオキシン類の量を示す。

(資料…大分県環境保全課)

図表 3.4.16 平成 18 年度ダイオキシン類測定結果

(4) 騒音・振動

①騒音

一般的に、騒音とは生活していく上で「好ましくない音」あるいは「ない方がよい音」と定義されています。騒音の発生源は工場、事業場、建設作業、自動車、家庭生活等、様々ですが、個人の心理的、感覚的な部分に大きく左右されますので、その対策が困難なものとなる場合があります。

1) 現 状

道路交通騒音については環境基準を達成していません

道路交通騒音は幹線道路から支線道路に及ぶようになってきました。この騒音の主な原因である、自動車の走行に起因する騒音は、エンジン、排気管、ラジエータファン、タイヤ等から発生しますが、実際には自動車の種類、走行条件、道路構造等の各種要素が複雑に絡み合っており、依然として、道路交通騒音による道路付近住民の暮らしに与える影響が憂慮されます。

本市では、道路交通騒音の実態を把握するため、主要幹線道路7地点で24時間調査を行っています。平成18年度は5地点で環境基準を超過しました。

評価道路名 (測定地点)	調査 月日	準 環 境 基 型 基	準 規 区 分 制 基	車 線 数	騒音レベル (dB)		背後地騒音レベル (dB)		判定	
					昼間 (L _{eq})	夜間 (L _{eq})	昼間 (L _{eq})	夜間 (L _{eq})	C 類 型	特 例
市道 富士見通鳥居線 (幸町2-6空地)	11/16 (木)	C	3	4	67.8	61.0	48.9	38.9	×	○
国 道 1 0 号 (的ヶ浜駐車場)	12/5 (火)	C	3	6	68.4	63.9	45.4	39.0	×	○
国 道 5 0 0 号 (石垣東10丁目7番5号)	11/28 (火)	C	3	4	65.3	60.0	54.9	48.2	○	○
県道 別府庄内線 (別府税務署)	11/21 (火)	C	3	2	66.1	59.3	56.8	45.5	△	○
県道 別府山香線 (松井小児科医院)	11/14 (木)	C	2	2	68.6	62.8	48.0	43.6	×	○
市道 山田関の江線 (JA 別府市石垣支店)	10/26 (木)	C	3	4	66.2	56.4	48.2	39.3	△	○
大 分 自 動 車 道 (大字鶴見 1500-35)	11/9 (木)	A	2	4	51.6	47.1	40.2	36.3	○	○

- 備考1 今年度から大分自動車道の沿線においても測定を行う。
 備考2 県道別府山香線における測定地点は武田薬品別府保養所から変更。
 備考3 騒音の測定及び評価方法は「騒音に係る環境基準の評価マニュアル」に準拠した。
 備考4 測定は午前7時～翌日午前7時の24時間行い、一日のうち午前6時から午後10時までを昼間、午後10時から翌日午前6時を夜間とした。
 備考5 環境基準(道路に面する地域)は次の通りである。
 A類型：昼間60dB以下 夜間55dB以下
 C類型：昼間65dB以下 夜間60dB以下
 なお、道路に面する地域の内、幹線道路に隣接する空間にあっては、環境基準は昼間70dB以下、夜間65dB以下となる。
 備考6 市道山田関の江線における6時台及び7時台のデータは欠測。

図表 3.4.17 平成18年度道路交通環境調査結果(騒音)

環境騒音についてはほぼ環境基準を達成しています

毎年 1 回、市内 21 定点で環境騒音調査（道路に面しない地域）を実施しています。平成 18 年度は、1 地点を除くすべての地点で環境基準を達成しました。

調査定点	都市計画法の用途地域区分	騒音規制法の区域区分	環境基準類型	騒音レベル (dB)		判定
				昼間(L _{eq})	夜間(L _{eq})	
浜脇 1 丁目 4082-11	商業地域	第 3 種区域	C	56.2	51.7	△
朝見 1 丁目 12-4	第 1 種住居地域	第 2 種区域	B	42.7	30.3	○
上田の湯 6-37	近隣商業地域	第 3 種区域	C	50.6	38.1	○
原町 7-32	第 1 種住居地域	第 2 種区域	B	45.3	33.7	○
幸町 9-6	商業地域	第 3 種区域	C	49.4	42.5	○
野口原 3088-44	第 2 種住居地域	第 2 種区域	B	45.4	35.4	○
南立石八幡町 4 組	第 1 種住居地域	第 2 種区域	B	49.0	44.0	○
堀田 6 組	第 1 種住居地域	第 2 種区域	B	46.5	40.1	○
石垣東 5 丁目 2-23	商業地域	第 3 種区域	C	44.4	33.3	○
東荘園 6 丁目 1 組	第 1 種中高層住居専用地域	第 2 種区域	A	51.2	44.2	○
扇山 8 組 2	第 2 種低層住居専用地域	第 1 種区域	A	44.1	40.4	○
石垣東 9 丁目 4-45	商業地域	第 3 種区域	C	47.7	41.2	○
大畑 17 組	第 2 種低層住居専用地域	第 1 種区域	A	51.6	38.5	○
小倉 1 組 1	第 1 種中高層住居専用地域	第 2 種区域	A	51.3	40.8	○
中須賀東町 4 組 3	第 1 種住居地域	第 3 種区域	B	39.4	33.8	○
北中 7 組 3	第 2 種住居地域	第 2 種区域	B	48.7	43.5	○
火売 5 組 1	第 2 種住居地域	第 2 種区域	B	45.9	34.6	○
小倉 5 組 2	第 1 種住居地域	第 2 種区域	B	44.6	36.9	○
照波園町 14-42	第 1 種住居地域	第 3 種区域	B	51.1	42.4	○
亀川浜田町 991-117	準工業地域	第 3 種区域	C	54.5	49.3	○
野田 5 組	第 1 種中高層住居専用地域	第 2 種区域	A	45.7	36.6	○

備考 1 時間の区分は環境基準に準ずる。(昼間が午前 6 時から午後 10 時まで、夜間が午後 10 時から翌日の午前 6 時まで)

備考 2 環境基準（道路に面する地域以外の地域）は次の通りである。

A 及び B 類型：昼間 55dB 以下 夜間 45dB 以下

C 類型：昼間 60dB 以下 夜間 50dB 以下

図表 3.4.18 平成 18 年度環境騒音調査結果

2) 対 策

(道路交通騒音について)

道路交通騒音対策については本市だけで解決・改善できるものではないため、交通関係機関と連携して良好な沿道環境づくりを推進し、道路構造の改善、道路ネットワークの整備、交通規制、自動車単体対策、緩衝建築物の誘導などの総合的施策の推進に積極的支援・協力を図っていきたくと考えております。

②振動

振動公害は、工場・建設作業及び自動車走行等から発生する地盤振動です。その振動が家屋に伝播し住民を不快にさせたり睡眠を妨げたりして感覚的・心理的被害を与えるだけでなく、振動が大きい場合には壁やタイル等のひび割れが起こったり、建具等の立て付けに狂いを生じさせる等、物的被害に及ぶこともあります。特に、振動レベルが90dB以上になると血圧など人の生理機能にも悪影響が現れます。

また、人の耳に聞き取れないほど低い周波数の空気振動（低周波振動）が工場等の施設、道路橋、鉄道トンネル等から発生し、これに関する苦情も今後増加すると考えられ、その対策については国の方で検討を重ねているところです。

1)現 状

道路交通振動については限度値を十分下回っています

平成18年度の道路交通環境調査結果によると、道路交通振動の限度値を十分に下回っており、現在のところ問題ありません。

調査地点	調査月日	地域区分	時間区分	判定	振動レベル L ₁₀ (dB)	平均時速 (km/h)		交通量(台/10分)			
						上り	下り	大型車	小型車	二輪車	計
市道富士見通鳥居線 (幸町2-6空地)	11/16 (木)	二種	昼	○	40.8	37.1	46.6	12	215	7	235
国道10号 (的ヶ浜駐車場)	12/5 (火)	二種	昼	○	37.7	58.9	44.4	86	627	10	723
国道500号 (石垣東10丁目7番5号)	11/28 (火)	二種	昼	○	35.3	48.0	55.1	20	273	8	301
県道別府庄内線 (別府税務署)	11/21 (火)	二種	昼	○	32.4	42.1	35.9	9	155	5	170
県道別府山香線 (松井小児科医院)	11/14 (木)	一種	昼	○	30.8	32.6	39.6	10	146	10	165
市道山田関の江線 (JA別府市石垣支店)	10/26 (木)	二種	昼	○	37.0	46.7	45.6	6	182	8	196
大分自動車道 (大字鶴見1500-35)	11/9 (木)	一種	昼	○	19.3	-	-	39	215	-	254

備考1 今年度から大分自動車道の沿線においても測定を行う。

備考2 振動の測定は鉛直振動である。

備考3 環境基準は次の通りである。

地域区分の第一種地域：昼60dB以下、第二種地域：昼65dB以下

備考4 時間区分の昼は午前8時～午後7時である。

備考5 大分自動車道の測定値については、交通量は日出ジャンクションでの数値をとった。また、通行車両については、車軸間距離5.5m以上のものを大型車、5.5m未満のものを普通車とした。(小型車の欄に普通車の台数を記載)

図表 3.4.19 平成18年度道路交通環境調査結果(振動、速度及び交通量)

2)対 策

本市においては現在のところ、事業場からの振動に対し早急な対策を必要とするものはありませんが、まだ予測できていない部分も考えられます。このため、国及び県の動向に抛りながら、生活環境の保全に邁進していきたいと考えております。

(5) 悪臭

市民の環境への意識の高まりにより悪臭苦情は増加傾向にあります

本市においては、市街地の拡大により、悪臭発生源に隣接して住居が設けられるようになったことと、住民の環境に対する意識の変化により、悪臭苦情は増加傾向にあります。

悪臭苦情の発生源としては、最近では野外でのゴミの焼却に伴うものが主になりました。他に、自動車整備工場、浄化槽や畜産農業に起因しているものも見受けられます。

[対 策]

① 法令による規制

事業活動に伴って発生する悪臭物質の排出は、昭和 46 年 6 月に悪臭防止法が制定され市街化区域を規制地域に指定し、規制基準を定めています。

規制基準は六段階臭気強度表示法の臭気強度 2.5 に対応する濃度により許容限度が定められています。(参考資料 7)

規制対象となる物質には、現在、アンモニア等 22 物質が指定されています。ただし、本市は温泉地域であるため、硫化水素が規制対象物質から外されています。

② 発生源への対応

発生源として最近特に多い「野外でのゴミの焼却」に対しては、平成 13 年 4 月の「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の改正により、例外を除いて野外でのゴミの焼却ができなくなったことを指導しています。

なお、畜産業については関係機関と連携を取りながら、畜産糞尿の適正処理等を指導しており、また、浄化槽については、維持管理の徹底の指導とともに広報等により浄化槽設置者の意識の向上を図っています。

(6) 廃棄物・リサイクル

① 一般廃棄物の収集処理について

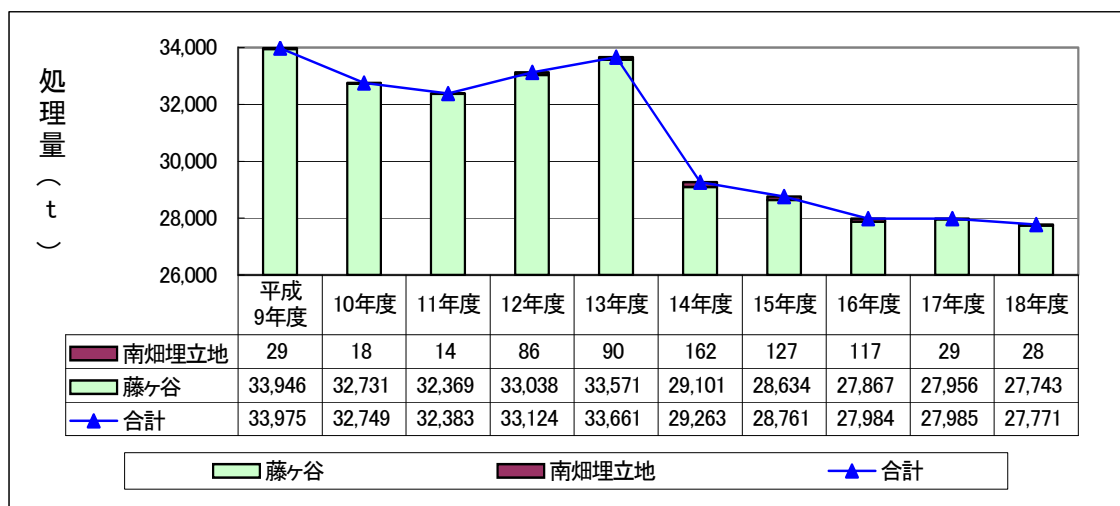
ゴミ処理量は横ばいで推移しています

本市のごみの収集業務は、一般家庭ごみを対象に市内全世帯を直営で行っていましたが、平成 18 年 4 月から一部を民間委託で行うこととなりました。収集方式は地域住民の利便と収集作業の効率化を図るため、路線方式とステーション方式を併用し、収集回数は可燃ごみが週 2 回、不燃ごみは月 2 回となっています。

資源の再利用を目的として、平成 6 年 12 月から新聞紙・雑誌・段ボール・古布の回収(月 2 回)を始め、また平成 10 年 12 月から缶・ビン・ペットボトルの回収(月 2 回)を始めました。

また、ごみの減量化推進・負担の公平化を図るため、平成9年4月より指定ごみ袋制度を導入しています。

ごみ収集処理実績を図表 3.4.20 に示しました。



図表 3.4.20 ごみ収集処理実績（直営収集分）（資料…清掃課）
 （「藤ヶ谷」＝藤ヶ谷清掃センター）

②不法投棄

不法投棄が、山間部等で多く目立ちます

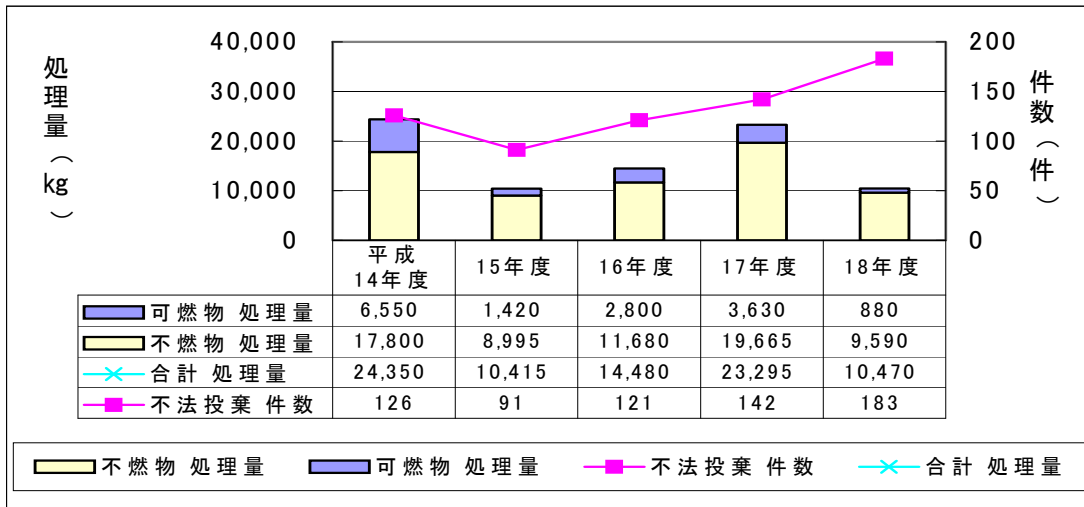
不法投棄防止については、市報をはじめ自治会等を通じて啓発活動に努めています。しかしながら依然として、不法投棄は後を絶たないのが現状です。

不法投棄を絶滅し生活環境の保全、環境の美化の推進を図るために、平成10年4月別府市不法投棄対策協議会を設立しました。自治会の代表、警察、保健所、土木事務所その他関係者の協力のもとに、パトロールを実施し、不法投棄の監視体制を強化しています。

不法投棄を発見した場合は、別府警察署へ捜査依頼などの協力を要請し、徹底して原因者の究明、調査を実施しています。

なお、原因者不明分については清掃課において回収処理をしています。（参考資料 18 の

②）



図表 3.4.21 過去5年間の不法投棄件数及び処理量 (資料…清掃課)
(平成17年度の不燃物処理量及び合計処理量の値を訂正)

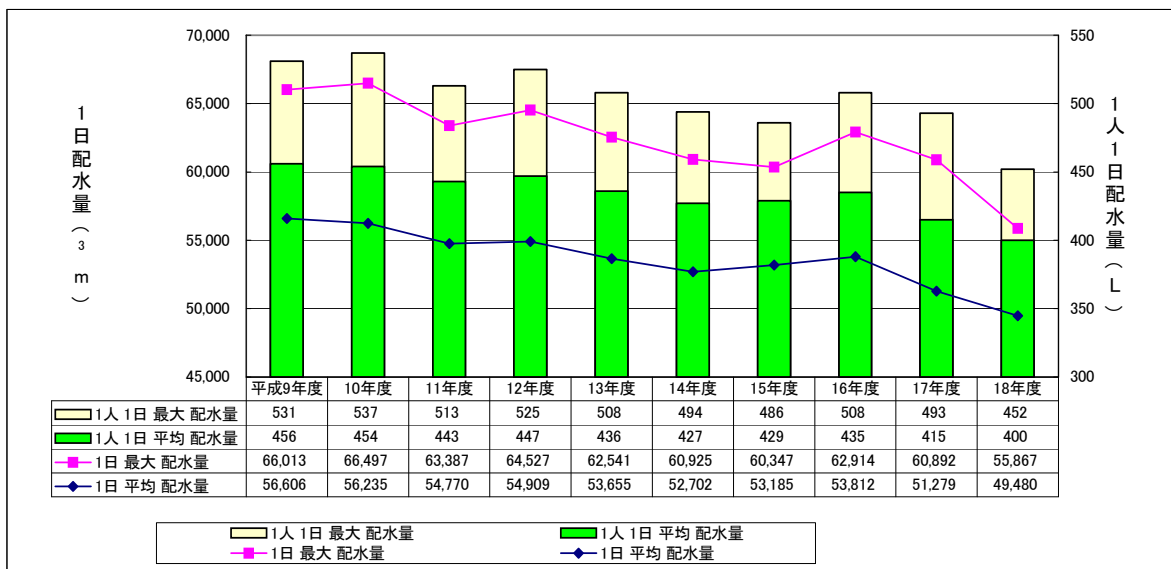
(7) 水資源・エネルギー

水の使用量は減少傾向が続いています

① 上水道

本市の水道普及率は平成18年度現在99%を超えています。また、配水量は減少傾向が続いています。1人1日当りの平均配水量は400L/人・日でした。

(単位：m³・L)

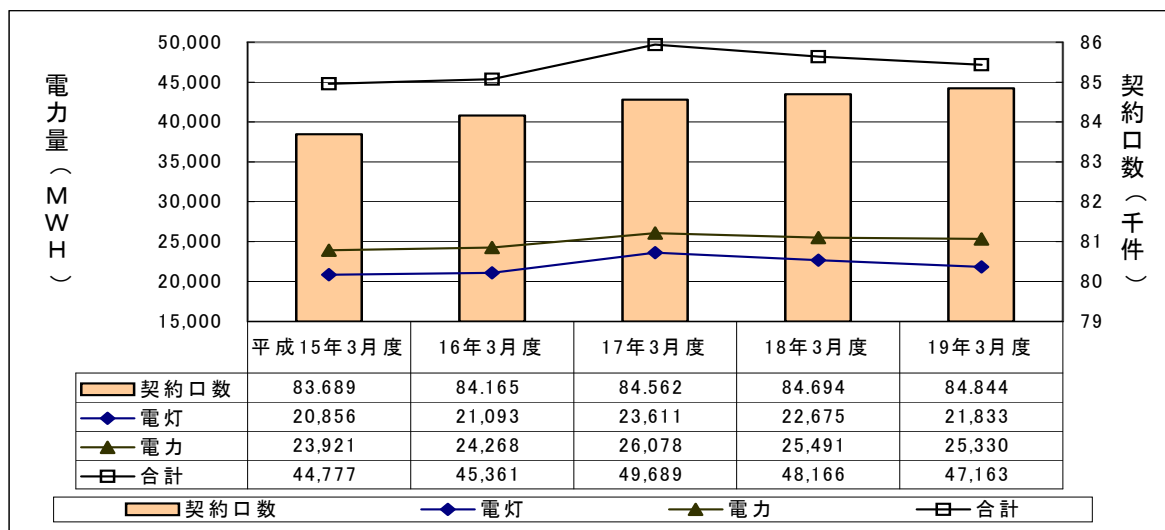


図表 3.4.22 年度別配水量の状況 (資料…水道局)

毎年3月度の電力の使用量は減少に転じました

②電力使用量

毎年（3月度）の電力使用量の推移を図表 3.4.23 に示しました。



図表 3.4.23 電力需要状況の推移（資料…九州電力）

（8）畜舎及び環境衛生の現況

①畜舎の現況

周辺生活環境への配慮・対策は畜産経営を維持していくうえで重要事項となっております

都市化の進展及び環境に対する関心の高まりの中、経営農家も年々飼育環境を狭められ転業や廃業を余儀なくされた方もいます。

周辺生活環境への配慮・対策は畜産経営を維持していくうえで重要事項となっており、悪臭防止に対する飼養技術の改良等「環境保全型農業」を基本に取り組んでいますが、畜舎（豚舎・鶏舎）における完全な環境汚染防止策は現状では難しく、移転策についても困難な状況にあります。

種 別		戸 数	飼育総数
牛 舎	乳 用 牛	1 戸	78 頭
	肉 用 牛	15 戸	107 頭
豚 舎		1 戸	300 頭
鶏 舎	採 卵 鶏	1 戸	150 羽
	食用鶏（ブロイラー）	2 戸	46,000 羽

図表 3.4.24 畜種別飼育状況（平成 19 年 2 月 1 日調査）（資料…農林水産課）

②環境衛生の現況

周辺生活環境への配慮・対策は畜産経営を維持していくうえで重要事項となっております

別府市が快適な文化生活を営むためには、全市民が環境衛生保持に心掛けるとともに、衛生害虫駆除対策、衛生思想の向上を図り、明るく住みよい健康な町づくりをすることが必要です。

1) カ、ハエ等の衛生害虫の駆除

衛生害虫予防対策として、成虫（カ・ハエ）駆除作業を業者委託にて5月上旬より9月上旬までの間1回実施、さらに自治会にも薬剤無償交付、防疫用機械器具の貸与を行い、自主的にカ・ハエ等衛生害虫の駆除を実施しています。

なお、平成18年度の防疫業務の実績は次のとおりです。

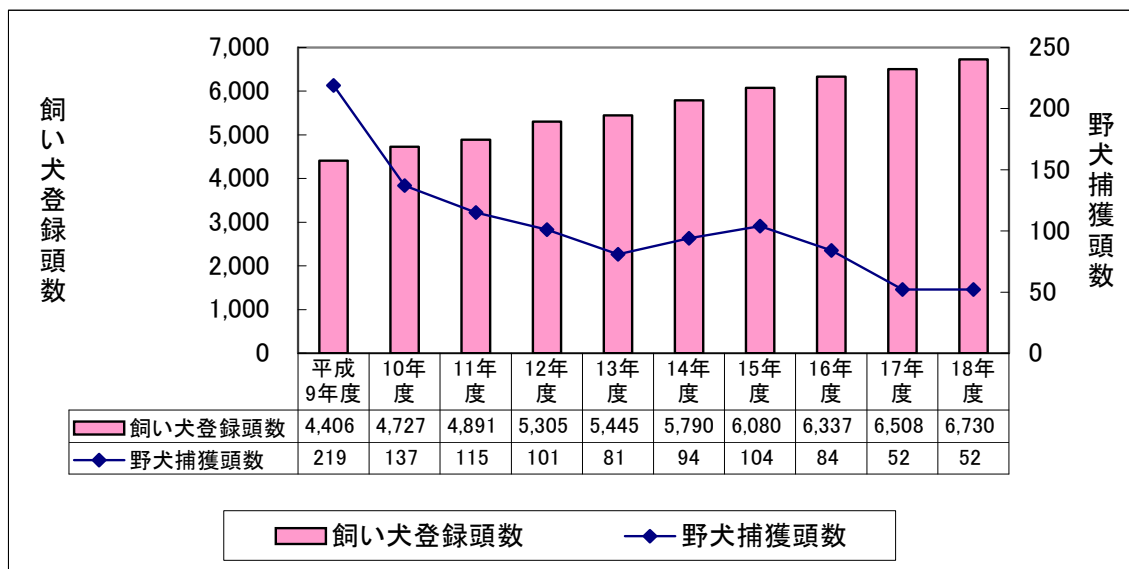
防疫作業用動力 二兼機貸し出し件数 4月～10月	自主的实施町	151台
	公共施設関係	0台
	計	151台

図表 3.4.25 平成18年度二兼機貸し出し件数（資料…環境安全課）

作業項目	期間	作業内容	薬剤名	
			2種混合乳剤	2種混合油剤
成虫駆除	6月～8月	（業務委託）市街地を対象とした家屋周辺の煙霧散布によるカ、ハエの駆除	0	3,600
自主实施町	4月～12月	自主的に防疫作業をする自治会に交付した薬剤	186	3,798
公共施設	4月～10月	自主的に防疫作業をする公共施設関係に交付した薬剤	24	54
山間部町	5月～7月	山間部自治会に配布する薬剤	180	288
散布消毒	4月～3月	不衛生箇所等の消毒	0	0
災害	4月～9月	災害による床下、床上浸水家屋及び側溝の消毒	0	0
伝染病	4月～3月	伝染病発生による消毒等	0	0
その他	4月～3月	衛生害虫の異常発生等	0	0

図表 3.4.26 平成18年度衛生害虫駆除等薬剤使用実数量（単位：L）（資料…環境安全課）

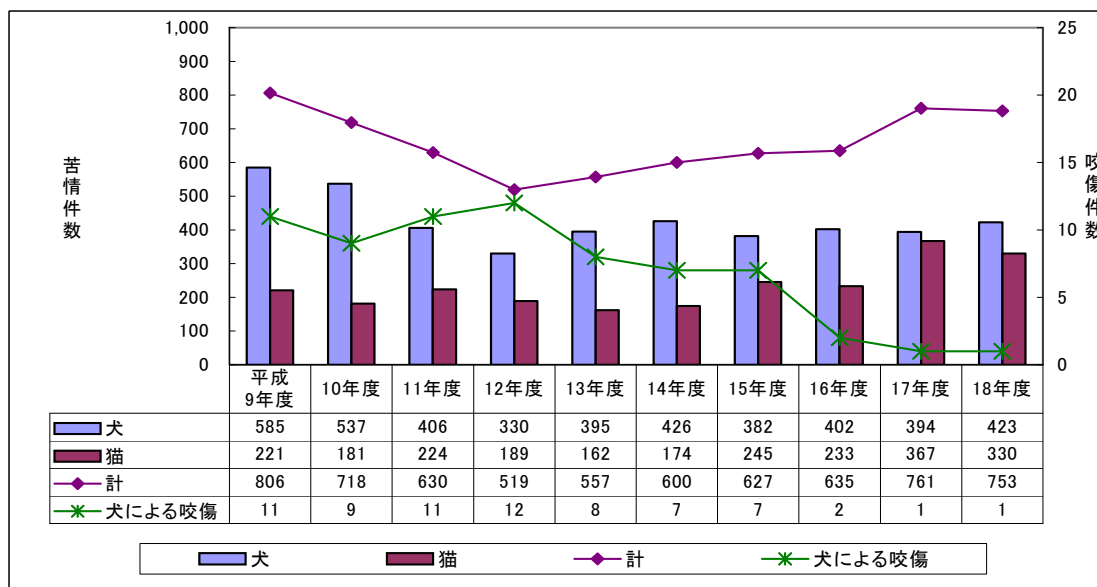
2) 愛がん動物等の適正な飼育管理



図表 3.4.27 飼い犬登録頭数及び野犬捕獲頭数
 (資料…環境安全課【飼い犬登録頭数】、別府県民保健福祉センター【野犬捕獲頭数】)

I 苦情状況

飼い犬の苦情が最も多く、内容別では飼い犬の鳴き声、吠える声がうるさい、放し飼いで怖い等が大半を占めています。



図表 3.4.28 愛がん動物等の苦情件数 (資料…別府県民保健福祉センター)

II 今後の対策

飼い犬、ペットの野犬野生化等による咬傷事故が全国的に多発していますが、当市においても大きな事件になるのを未然に防止するため地域住民、保健所、市が一体となって野生化防止に努めています。

飼い犬については、犬の登録、狂犬病予防注射を完全実施するよう呼び掛け、飼い主の正しい飼育により安全な環境づくりに努めます。

5 公害等の監視と処理の現状

(1) 別府市環境監視員の活動状況について

本市では別府市環境保全条例第9条の規定に基づき、特に環境問題に強い関心を持っている方々を選出し、別府市環境監視員に委嘱しています。現在、合計17名が任命されており、市の良好な環境を守るための活動をしています。(参考資料 19)

担当地区内をパトロールし、その状況を毎月報告しておりますが、特に、良好な環境を破壊する恐れのある行為及び公害が発生する可能性があると認められる場所や施設が見受けられたときには、随時、その状況等を市に通報しています。

なお、平成18年度の環境監視員の状況報告書(月報)内容について図表3.5.1に示しています。

月 内 容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
下水側溝 について	2	1	1	2	0	0	0	0	1	1	0	0	8
ごみの処 理・不法投 棄など	7	6	5	5	5	7	3	7	4	6	4	4	63
廃屋・空き 地の管理 など	0	0	1	0	1	0	1	1	1	0	0	0	5
道路に関 すること	0	4	4	1	3	4	2	4	1	3	2	4	32
公園に関 すること	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	1	4
公害苦情 に関する こと	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
交通に関 すること	1	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	5
その他	1	0	1	0	1	1	2	1	1	1	1	0	10
計	12	12	13	11	11	13	8	13	8	12	7	9	129

図表 3.5.1 平成18年度環境監視員月報内容

(2) 法律・条例に基づく特定工場等の届出状況

① 工場騒音について

本市の場合、大規模な事業場はありませんが、住居と中小の事業場が混在している地域が多く近隣住民との間にトラブルを発生させることがあります。こうした事業場は敷地面積が狭小であり、防音対策を講じるにも資金、方法ともに限られるためよい解決法が見つからないといった問題を抱えています。

また、温泉の噴気音や温泉揚湯用のコンプレッサー稼働音に対する騒音苦情もあり、温泉都市ならではのものも見受けられます。

騒音規制法に基づく特定施設届出状況を図表 3.5.2 に示しました。

施設の種類		施設数	特定工場等実数
機械 金属加工	ベンディングマシン	1	10
	液圧プレス	12	
	機械プレス	4	
	せん断機	5	
空気圧縮機及び送風機		465	94
土石用破碎機等		2	1
建設用資材製造機械		2	1
機械 木工加工	帯のこ盤	5	44
	丸のこ盤	23	
	かんな盤	21	
印刷機械		120	36
合成樹脂用射出成形機		2	1
計		662	187

(備考) 特定工場等実数は特定施設の設置事業所数を示すが、同一事業所に(騒音・振動)2区分にまたがる施設が設置されている場合は、主たる施設の区分のみ工場数として掲げた。

図表 3.5.2 騒音規制法に基づく特定施設届出状況(平成19年3月31日現在)

② 工場振動について

市街地での住工混在により、騒音苦情と同時に表面化する 경우가ほとんどです。防振対策は防音対策以上に困難であり、根本的に振動源である機械自体から発生する振動を小さくするほかに良い方法はありません。そのため、機械の更新時や設置時に際しては、その届出段階において機械の適切な設置・使用を行うよう指導しています。

振動規制法に基づく特定施設届出状況を図表 3.5.3 に示しました。

施設の種類		施設数	特定工場等実数
金属加工 機械	液圧プレス	13	22
	機械プレス	14	
	せん断機	23	
	圧縮機	26	16
	土石用破砕機等	2	1
	印刷機械	38	18
	合成樹脂用射出成形機	2	1
計		118	58

図表 3.5.3 振動規制法に基づく特定施設届出状況（平成 19 年 3 月 31 日現在）

③ その他

別府市環境保全条例の規定に該当する特定施設を図表 3.5.4 に示しました。

区分	工場数	施設の種類	施設数
大 気	11	大気特定工場	10
		廃棄物焼却炉	11
		小 計	21
水 質	17	水質特定工場	0
		し尿浄化槽	9
		ちゅう房施設	9
		車両洗浄施設	0
		小 計	18
騒 音	199	金属加工機械	155
		①高速切断機	(39)
		②乾式研磨機	(116)
		空気圧縮機及び送風機	176
		木材加工機械	78
		①帯のこ	(11)
		②丸のこ	(29)
		③かんな盤	(38)
		石材引割機	0
冷凍機械	145		
木材切込作業場	27		
小 計	581		
工場数合計	227	特定施設数合計	620

図表 3.5.4 別府市環境保全条例に基づく特定工場等届出状況（平成 19 年 3 月 31 日現在）

(3) 法律・条例に基づく特定建設作業等の届出状況

① 建設作業騒音について

建設作業は一時的に非常に大きな騒音を発生する作業が多く、防音対策も養生シート、板囲い等による遮音や消音マフラーの取り付けなどに限られているため、付近住民との間に紛争が生じやすくなっています。周辺住民への事前説明が十分でなかったり、早朝からの作業などに対して付近住民から苦情が発生するケースが多く見られます。そうした苦情を未然に防ぐため、特定建設作業にあつては届出の段階で事前説明の徹底、作業内容、作業工程のチェック等の行政指導を行うとともに作業中の騒音状態を確認するため職員の立ち会いを実施しています。

平成 18 年度までの 10 年間の騒音規制法に基づく特定建設作業の届出状況を図表 3.5.5 に示しました。

年度 作業名	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18
くい打機・くい抜機・くい打くい抜機	9	3	11	3	4	3	0	4	6	4
びょう打機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
さく岩機	37	33	31	25	40	59	49	50	68	72
空気圧縮機	1	0	3	5	1	0	1	2	4	1
コンクリートプラント・アスファルトプラント	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
バックホウ	1	10	3	17	16	9	3	13	7	11
トラクターショベル	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0
ブルドーザー	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0
計	48	46	48	52	61	72	53	70	86	88

図表 3.5.5 騒音規制法に基づく特定建設作業届出状況 (資料…環境安全課)

② 建設作業振動について

建設作業振動については、特定建設作業の対象となる大型建設機械を使用する場合または大規模基礎工事を行う場合に大きな振動を発生させることが多く、それと同時に非常に大きな騒音を伴うのが特徴です。そのような大規模工事を実施する場合には工法の検討段階で使用する機械・工法等について十分な配慮をするよう建設業者に指示するとともに、施工時には付近の家屋構成を考慮して物的被害を生じさせないように指導しています。また、万一被害の申し出があった場合には完全修復するよう指導しています。

平成 18 年度までの 10 年間の特定建設作業の届出件数状況を図表 3.5.6 に示しました。

年度 作業名	平成 9	平成 10	平成 11	平成 12	平成 13	平成 14	平成 15	平成 16	平成 17	平成 18
くい打機・くい抜機・くい打くい抜機	8	3	11	3	2	3	0	4	6	4
鋼球	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
舗装版破砕機	0	0	1	6	6	9	1	0	1	0
ブレーカー	30	25	17	31	33	51	42	33	57	63
計	38	28	29	40	41	63	43	37	64	67

図表 3.5.6 振動規制法に基づく特定建設作業届出状況 (資料…環境安全課)

③ その他

市条例に基づく特定建設作業の届出状況を図表 3.5.7 に示しました。

作業名	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16	平成17	平成18
アースオーガー	0	12	14	17	21	2	0	4	5	2
インパクトレンチ	1	0	0	2	4	0	1	0	1	0
発電機	1	0	12	17	17	23	13	13	10	15
コンクリートポンプ	7	7	9	18	9	21	11	11	13	12
計	9	19	35	54	51	46	25	28	29	29

図表 3.5.7 別府市環境保全条例に基づく特定建設作業届出状況（資料…環境安全課）

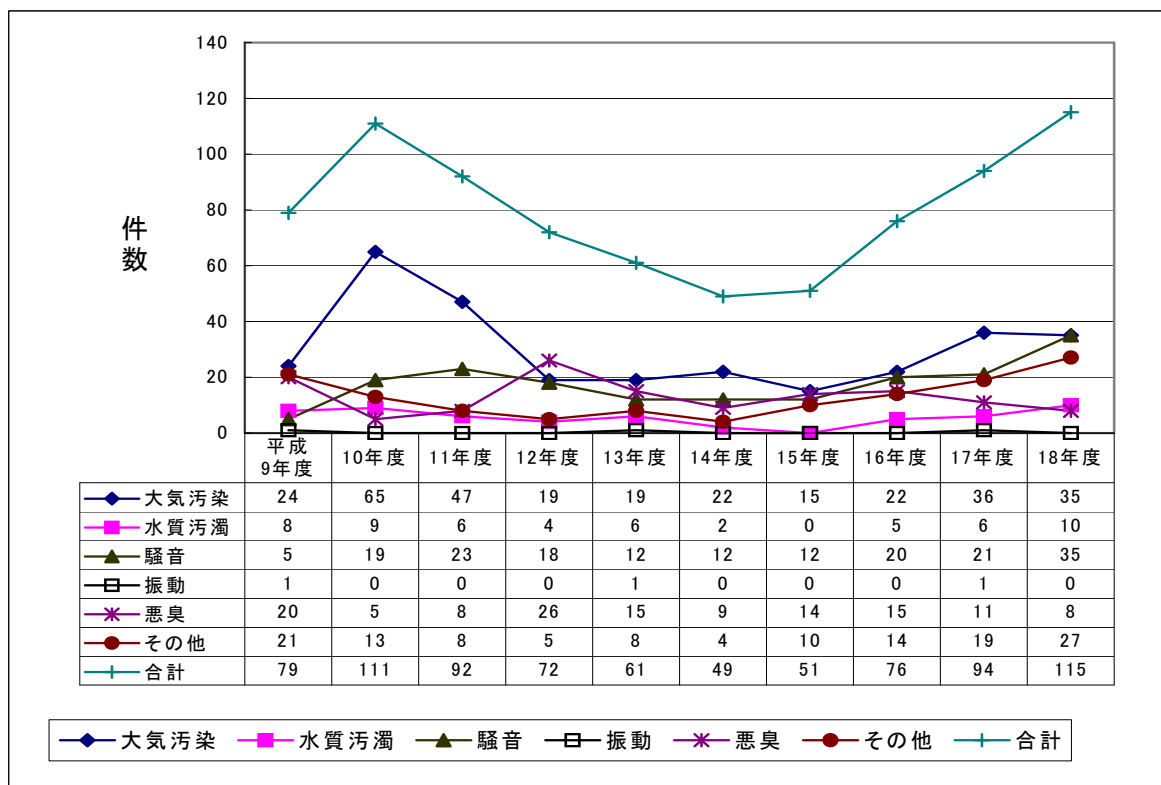
(4) 公害苦情の現状

公害とは典型 7 公害（大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音・振動・地盤沈下・悪臭）の他、事業活動その他の人の活動に伴って生ずるその他の現象で、その影響によって人の健康又は生活環境に係る被害が生ずることをいいます。

これらの公害に対する苦情の申し立てについては「公害紛争処理法」第 49 条第 2 項に基づき、公害苦情相談員を置き、市民の苦情内容に応じてその処理に必要な調査、指導並びに助言等を行い、必要な場合は関係行政機関との連携を図りながら、市民の生活環境改善のために円満な解決に努めています。

本市における過去 10 年間の公害苦情件数の推移を図表 3.5.8 に示しました。

平成 18 年度の苦情件数は 115 件でした。



図表 3.5.8 過去 10 年間の公害苦情件数の推移（資料…環境安全課）（「その他」に土壌汚染 1 件を含む）

①発生源別苦情件数について

平成18年度の発生源別苦情件数は図表3.5.9のとおりです。家庭生活を発生源とするものが25件と最も多く、次いで建設業18件の順となっています。

苦情の傾向として、家庭生活を原因とするものが多くなりましたが、これは地域の交流の希薄化により、それまで問題とされていなかったような事例でも、不快と覚えることにより苦情として現れているためと考えられます。

発 生 源	公害の種類	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	その他	計
農	業	6	0	1	0	1	0	0	8
林	業	0	0	0	0	0	0	0	0
漁	業	0	0	0	0	0	0	0	0
鉱	業	0	0	0	0	0	0	0	0
建	設	4	2	9	0	0	0	3	18
製	造	0	0	0	0	0	0	0	0
電気・ガス・熱供給・水道業		0	0	2	0	0	0	0	2
情 報 通 信 業		0	0	2	0	0	0	0	2
運 輸 業		0	0	0	0	0	0	0	0
卸 売 ・ 小 売 業		2	0	6	0	1	1	0	10
金 融 ・ 保 険 業		0	0	0	0	0	0	0	0
不 動 産 業		0	0	0	0	0	0	0	0
飲 食 店 ・ 宿 泊 業		0	0	2	0	2	0	0	4
医 療 ・ 福 祉		1	0	1	0	0	0	0	2
教 育 ・ 学 習 支 援 業		0	0	0	0	0	0	0	0
複 合 サ ー ビ ス 事 業		0	0	0	0	0	0	0	0
サ ー ビ ス 業		4	1	2	0	0	0	0	7
公 務		0	1	0	0	0	0	0	1
分 類 不 能 の 産 業		0	0	0	0	0	0	0	0
家 庭 生 活		10	1	6	0	0	0	8	25
道 路		0	0	1	0	1	0	5	7
空 地		5	0	2	0	1	0	2	10
公 園		0	0	0	0	0	0	0	0
神 社 ・ 寺 院 等		1	0	0	0	0	0	0	1
そ の 他		2	0	0	0	2	0	7	11
不 明		0	5	1	0	0	0	1	7
計		35	10	35	0	8	1	26	115

図表 3.5.9 平成18年度発生源別苦情件数（資料…環境安全課）

② 地域別苦情件数について

平成18年度の都市計画法に基づく用途地域別の苦情発生件数を図表3.5.10に示しました。これを見ると住居地域の苦情が最も多く、家庭生活が最も密接な地域であるだけに苦情が発生しやすいようです。

用途地域	公害の種類							
	大気汚染	水質汚濁	騒音	振動	悪臭	土壌汚染	その他	計
住居地域	22	5	17	0	4	0	14	62
近隣商業地域	3	0	1	0	1	0	2	7
商業地域	7	3	15	0	3	1	8	37
準工業地域	0	1	0	0	0	0	0	1
工業地域	0	0	0	0	0	0	0	0
工業専用地域	0	0	0	0	0	0	0	0
市街化調整区域	2	0	1	0	0	0	2	5
その他	1	1	1	0	0	0	0	3
都市計画区域以外の地域	0	0	0	0	0	0	0	0
計	35	10	35	0	8	1	26	115

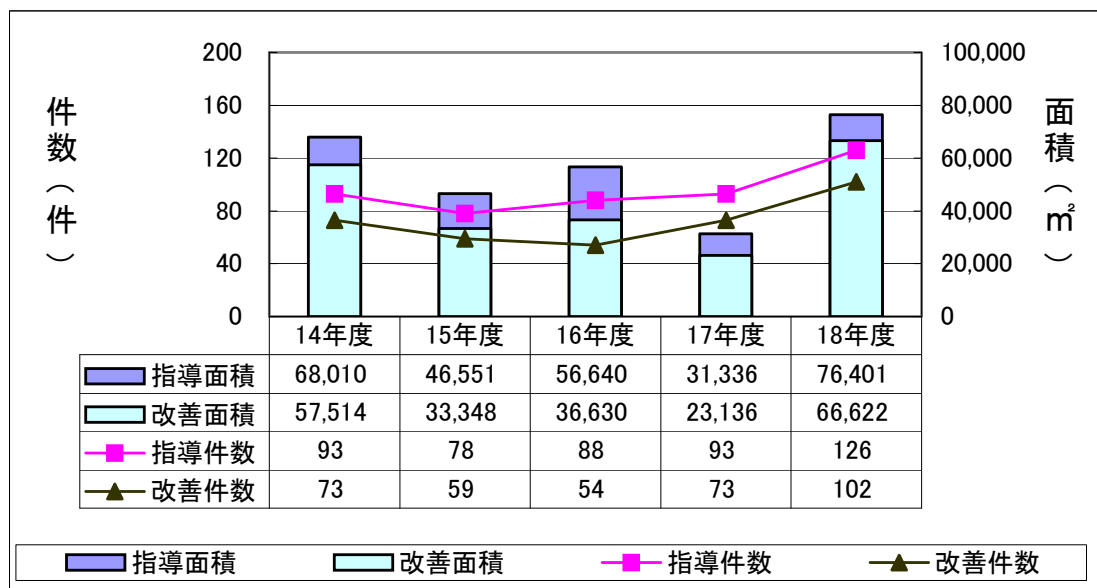
図表 3.5.10 平成 18 年度公害の種類・被害の地域別苦情件数（資料…環境安全課）

（５）空き地の管理

空き地管理について改善指導を進めています

空き地の管理については、別府市環境保全条例の規定に基づき適切な管理を行うよう市報をはじめ、文書通知により所有者に啓発・指導を行っています。

雑草繁茂等の不良空き地については、所有者に対し直接改善指導等を行なっていますが、所有者のうち、半数ちかくが市外居住者であるため、自ら適切な管理が困難な場合については、業者などを紹介することにより改善の成果の促進を図っています。



図表 3.5.11 過去 5 年間の空き地管理状況（資料…清掃課）

6 環境保全活動の現況

市では、様々な機会を通じて市民の環境保全活動への取組みを支援しています

1) べっふエコライフひろば

本市では、環境の保全についての啓発を目的として、毎年10月に「べっふエコライフひろば」を開催しております。平成18年度に実施した「べっふエコライフひろば2005」においては、児童生徒の作文や絵画、行政や民間団体等の環境保全に対する取組みについての展示を行うことで、環境教育及び市民への理解を図りました。

2) 水生生物調査

平成18年度には、こどもエコクラブが市内（境川及び南立石公園内の水路）で水生生物調査を行いました。

指標生物から水の汚れを調べたところ、現地の水が「きたない水」に分類されることがわかりました。

3) わら細工作品講座

平成18年12月に、わら細工作品講座を開講しました。この講座では、わらによる作品（しめ飾り）を作ることで、リサイクルだけでなく、技術の伝承も目的としています。

第4章 管理指標の公表

望ましい環境像：自然・湯けむり・おもてなしが築く『環境みらい都市・別府』

環境管理指標の現況

基本目標	施策項目	環境管理指標	スタート時数値	現況数値
共生	山間・山麓、農村の自然環境の保全	森林面積比率	平成12年初 63.5%	平成17年初 63.0% (数値の更新は5年毎)
	湯けむりと緑の花のまちづくり	1人あたり公園面積	平成12年3月31日現在 6.32m ²	平成19年3月31日現在 6.99m ²
		保護樹林指定数	33ヶ所	33ヶ所
	水辺環境の保全と水と親しむまちづくり	水辺生物調査	—	平成18年度 実施
	土と親しむまちづくり	農と親しむイベント	—	平成18年度 「わくわく農産品フェア」開催
	美しい都市環境の保全	清掃美化キャンペーン	—	市内一斉清掃、海岸海浜清掃
	ふらっと歩きたくなる環境みらい都市・別府	魅力ある歩行者空間整備	—	平成18年度 実施
歴史・文化の保全・活用	指定文化財	56件	57件	
循環	ごみの発生抑制と減量・リサイクルの促進	市民1人・1日あたりごみ排出量(直営収集分)	平成11年度 702g/日	平成18年度 605g/日
		一般廃棄物再資源化率	平成11年度 9.68%	平成18年度 11.24%
	エネルギーの有効利用	1戸あたり電灯使用量	平成12年3月度 353kWH	平成19年3月度 375kWH
	水資源の有効利用	市民1人・1日あたり水道配水量	平成11年度 4430 /人・日	平成18年度 4000 /人・日
	温泉の持続的な利用	温泉湧出量	平成11年度 136,997kL/日	平成18年度 137,074kL/日
	雨水の地下浸透の促進	透水性舗装道路整備延長	—	平成18年度 400m延長
	大気環境の保全	大気に係わる環境基準達成(浮遊粒子状物質、窒素酸化物)	平成11年度 達成	平成18年度 達成
	水環境の保全	水質汚濁に係わる環境基準達成(河川BOD、海域COD)	平成11年度 達成	平成18年度 達成
		下水道人口普及率	平成11年度 56.6%	平成18年度 60.4%
	騒音・振動の防止	騒音に係わる環境基準達成(主要幹線道路6路線)	平成11年度 1ヶ所未達成	平成18年度 2ヶ所未達成
	化学物質による環境影響の防止	ダイオキシン類に係わる環境基準達成	—	平成18年度 達成

第5章 率先実行計画

1 率先実行計画の概要

(1) 率先実行計画の目的

「循環型社会」実現のため、本市がみずから行う事務、及び事業において発生する環境負荷を抑制するため、「別府市環境基本計画」にもとづき平成14年4月に策定されました。

「地球温暖化対策実行計画」、「グリーン購入の取組み」を二本柱として職員一人ひとりが取組む具体的手順と計画の進行管理が定められています。

(2) 地球温暖化対策実行計画

「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき、地球温暖化の防止を図るため、本市が行う事務及び事業において排出される温室効果ガスを抑制し、持続可能な経済社会の構築に寄与することを目的としています。

(3) グリーン購入の取組み

「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）にもとづき、生活や経済活動を支える物品及び役務を環境に配慮されたものへ転換を図ることを目的としています。本市が購入する物品等について下記の基本方針に基づき、各物品ごとに細かく調達基準が定められています。

○グリーン購入に関する基本方針

- 1) 価格及び品質に優れること。
- 2) 再生利用に配慮されていること。
- 3) 地球温暖化対策がなされていること。
- 4) 製造から廃棄までの過程で、環境負荷低減に配慮されていること。
- 5) 長期使用に耐えること。
- 6) 環境物品等の調達推進を理由として調達総量が増加しないように配慮すること。

(4) 率先実行計画の進行方法

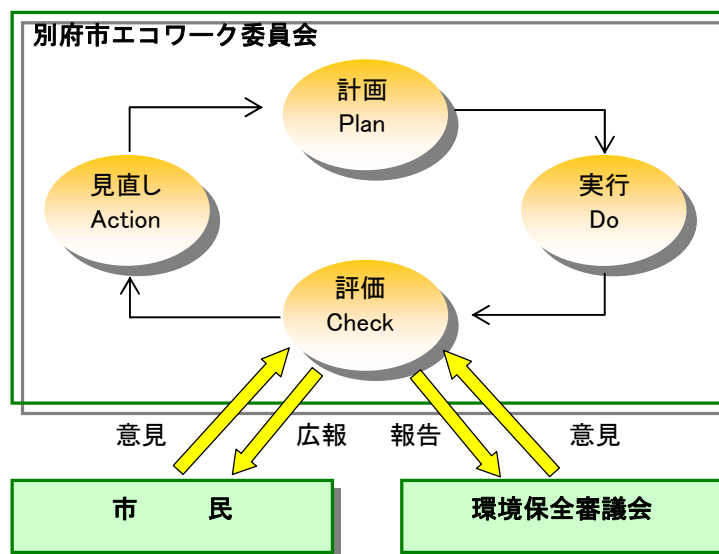
推進体制は、各課等を一単位として推進責任者、推進員により取組みが行われます。管理組織として「エコワーク委員会」を組織し、そこで進行管理、計画の見直しがなされます。

評価は3段階評価で、マニュアルにしたがって各推進員が評価します。結果は100点満点で相対的に評価されます。

エコワーク委員会で集計された結果は各課等に報告して、計画の実効性を担保します。

実行計画は、Plan（計画）、Do（取組み）、Check（点検）、Action（見直し）のサイクルにより進行します。Actionのサイクルにおいて、Checkの結果が、次の計画に反映され、より良い計画づくりを推進します。

なお、市民ニーズを的確にとらえ、柔軟に対応するために、広く市民の意見を求め、反映させる体制づくりを進めます。



図表5.1.1 P D C Aサイクルによる計画の進行管理

毎年の進行管理は、以下のような流れで行います。

- [Plan] 各課が行う各施策の方針・構想及び計画において、環境の保全と創造に関する配慮方針や具体的な取り組み目標等を定めます。特に新しい施策については、必要に応じて構想の段階から環境への影響把握調査や、環境負荷をできるだけ抑える検討を行い、方針や目標に反映させる必要があります。
- [Do] 設定した方針や目標を達成するように各施策を実施します。
- [Check] 1年間の各施策の進捗状況及び取り組みの状況、環境の状態などを把握します。その結果を「別府市の環境」などで公表します。
また、市民ニーズを的確にとらえ柔軟に対応するために、広く市民・事業者から意見を求めるとともに、専門的な観点からの提言を環境保全審議会に求めます。これらに基づいて別府市エコワーク委員会で総合的な評価を行って環境施策の総合的な進行管理を行います。
- [Action] 評価の結果をもとに計画の見直しを行い、次年度の計画に反映させます。

2 率先実行計画の取組み状況

(1) 地球温暖化対策の取組み

本市における温室効果ガス排出量削減については、今後も、職員一人ひとりから取組みを実行し、常に省エネルギーに努めてゆくよう、啓発しています。

(2) グリーン購入の取組み

平成 18 年度においても調達方針に則って、個々の対象品目ごとに調達基準に合致するものを選定するように努めております。

グリーン購入の達成状況については、今後、数量的に把握するため、調達総量の把握と数値目標の設定を行う予定としています。

(3) エコワーク活動の取組みに係る課題

今後は、取り組みの内容の高度化、全体の取り組みとしてより一層の浸透を図ることが必要となっています。

参考資料

1 環境行政のあゆみ

年・月	市の環境行政	国の動向
昭和42. 6	市議会に交通及び公害対策特別委員会を設置	昭和42. 8
44. 7	騒音規制法に基づく地域指定	「公害対策基本法」 制定
1 1	企画課に公害係を新設	昭和43. 6
1 2	水質調査開始（河川13定点、地先海域14定点）	「大気汚染防止法」 制定
46. 2	民生部に公害予防課を設置 交通環境調査開始	「騒音規制法」制定
4	降下ばいじん測定開始	昭和46. 6
8	大気汚染自動測定機による測定局を開設	「悪臭防止法」制定
10	民生部公害予防課より企画部公害予防課に所属変更	昭和47. 6
11	二酸化鉛法による硫黄酸化物(SO _x)濃度測定開始	「自然環境保全法」 制定
47. 9	大気汚染自動測定機による青山中学校測定局を開設	環境週間の設定
48. 1	騒音規制法に基づく地域指定の一部変更	昭和47. 7
4	広域市町村圏計画に基づき杵築市、日出町、山香町の水質 調査業務受託	環境庁設置
8	大気汚染自動測定機による北部中学校測定局を開設	
12	別府市環境保全条例起草委員会設置	
49. 1	別府市環境保全条例起草委員会条例案答申	
3	別府市環境保全条例を市議会に提案	
4	朝見川の環境基準類型設定	
7	別府湾地先海域の環境基準類型設定	
12	別府市環境保全条例公布	
50. 6	別府市環境保全審議会設置	
10	別府市環境保全条例施行規則案答申	
12	別府市環境保全条例施行 別府市環境監視員委嘱（各校区1名）	
51. 2	別府市日照調停委員会設置	
4	別府市みどり監視員委嘱（14地区）	
53. 4	振動規制法に基づく地域指定 企画部公害予防課より環境部公害交通対策課へ所属名称変 更 別府市環境保全条例一部改正（日照の項削除）	
7	別府市日照調停委員会解散	
11	大気汚染自動測定市役所局がテレメーター化	
54. 6	別府市議会に交通体系及び環境対策特別委員会を開設	
8	大分県大気汚染緊急時等対策実施要綱に基づくオキシダン ト予報発令	
55. 5	「合成洗剤使用に関する取扱いについて」文章事務並びに 実施事項を制定	
6	自動車交通騒音及び交通量の測定開始 道路交通振動調査開始	

年・月	市の環境行政	国の動向
昭和56. 1 2	別府市環境保全審議会連絡協議会を開設	
5 7. 3	広域市町村圏計画に基づく水質調査業務受託廃止	
5 8. 3	大分市、大野川水質汚濁防止連絡協議会を開設	
6 0. 4	市庁舎移転開庁	
6 1. 4	騒音規制法に基づく地域指定の変更 振動規制法に基づく地域指定の変更 別府市環境保全条例施行規則の一部改正 悪臭防止法に基づく地域指定 公害対策基本法に基づく騒音環境基準類型設定	
6 2. 9	大気汚染測定局再配置	
平成2. 3	別府市環境保全条例施行規則（特定建設作業）一部変更	
4	環境部公害交通対策課より環境部環境保全課へ所属名称変更	
1 0	別府市環境保全条例（指定建築物）一部変更	
3. 4	別府市自然環境学術調査団結成及び自然環境調査開始	
4. 2	大気汚染自動測定機による北部中学校測定局の廃止	
5	九州環境行政連絡会議総会を開催（別府市）	
1 0	九州環境行政連絡会議研修会を開催（別府市）	
5. 7	別府市『地球にやさしい都市構想』の作製 第1回べっふ環境まつりの開催	平成5. 6 「環境基本法」制定 「環境の日（6月5日）」 の設定 環境月間の開始
6. 3	別府市自然環境学術調査報告書提出	
7. 7	別府市水環境総合科学推進事業策定計画を策定	
9. 2	騒音規制法に基づく規制地域の変更 振動規制法に基づく規制地域の変更	平成8. 1 2 「騒音規制法施行令」 一部改正
1 2. 2	別府市環境基本計画策定に係る環境保全審議会開催（～平成13. 11、全9回）及び環境保全連絡協議会開催（全2回）	平成9. 6 「環境影響評価法」制定
4	機構改革により環境保全課より環境安全課へ改編 児童館大気測定局廃止	平成10. 1 0 「地球温暖化対策の推進に関する法律」制定
7	別府市環境基本計画策定に係る別府市環境懇話会開催（～平成13. 10、全6回） 環境の現状に関する市民アンケート実施	
1 3. 4	別府市地域環境美化条例施行	
8	環境基本計画策定について市報で意見募集	
1 1	「別府八湯の湯けむり」かおり風景100選に選ばれる 別府市環境基本計画について答申	
1 4. 2	別府市環境基本計画決定	
4	別府市環境基本計画施行 エコワーク活動（地球温暖化対策実行計画及びグリーン購入）開始	
1 5. 6	「2003 かおり風景フォーラム i n 別府」開催	

2 環境調査実施計画書

	調査項目	箇所	場所	調査方法	回数
大 気 汚 染	SPM（浮遊粒子状物質） 二酸化硫黄	1	青山中学校	SPM：β線吸収法 二酸化硫黄：導電率法	通年
	窒素酸化物	1	青山中学校	ザルツマン吸光光度法	通年
	光化学オキシダント	1	青山中学校	中性ヨウ化カリウム吸光光度法	通年
交 通	交通環境調査 風向、SPM、一酸化炭素、 窒素酸化物、ベンゼン、 テトラクロロエチレン、 トリクロロエチレン、ジ クロロメタン	2	国道10号線 （県大気汚染測定車による定点 測定、2箇所）	SPM：β線吸収法 CO：非分散赤外線法 NO _x ：ザルツマン吸光光度計 ベンゼン等：ガスクロマトグ ラフ直接法	風向等： 年1回、 ベンゼン等： 月1回
水 質 汚 濁	別府湾地先海域水質調査 水素イオン濃度、透明 度、化学的酸素要求量、 溶存酸素量、大腸菌群数	5	朝見川沖 境川沖 春木川沖 平田川沖 冷川沖 （地先約1km沖 定点）	「水質汚濁に係る環境基準に ついて（昭和46年環境庁告示第 59号）」等に掲げる方法	各箇所 年4回
	河川水質調査 水素イオン濃度、生物化 学的酸素要求量、溶存酸 素量、大腸菌群数、浮遊 物質	7	朝見川(2箇所) 境川 春木川 平田川 新川 冷川	「水質汚濁に係る環境基準に ついて（昭和46年環境庁告示第 59号）」等に掲げる方法	各箇所 年4回
騒 音 振 動	環境騒音調査	21	市内一円	指示騒音計、パソコン等	各箇所 年1回
	道路交通環境調査	7	富士見通鳥居線 国道10号線 国道500号線 別府庄内線 別府山香線 山田関の江線 大分自動車道	指示騒音計、パソコン等 公害振動計等	各箇所 年1回 各箇所 年1回

備考1 大気汚染調査は、自動測定機による定置調査である。

備考2 青山中学校の測定機については、大分県環境保全課にて調査を行っている。

備考3 大分自動車道沿線における道路交通環境調査は平成18年度から行っている。

3 法令・条例に基づく特定施設一覧

① 騒音規制法に基づく特定施設

施設の種類		規模・能力
1	金属加工機械	
	イ 圧延機械	原動機の定格出力の合計が 22.5kW 以上のもの
	ロ 製管機械	すべてのもの
	ハ ベンディングマシン	ロール式のもので、原動機の定格出力 3.75kW 以上のもの
	ニ 液圧プレス	すべてのもの（矯正プレスを除く）
	ホ 機械プレス	呼び加圧能力 294 キロニュートン以上のもの
	ヘ せん断機	原動機の定格出力 3.75kW 以上のもの
	ト 鍛造機	すべてのもの
	チ ワイヤーフォーミングマシン	すべてのもの
	リ ブラスタ	タンブラスト以外のものであって密閉式を除く
	ヌ タンブラー	すべてのもの
	ル 切断機	といしを用いるものに限る
2	空気圧縮機及び送風機	原動機の定格出力 7.5kW 以上のもの
3	土石用又は鉱物用の破碎機、 摩砕機、ふるい及び分級機	原動機の定格出力 7.5kW 以上のもの
4	織機	原動機を用いるもの
5	建設用資材製造機械	
	イ コンクリートプラント	気ほうコンクリートプラントを除き、混練機の混練容量 0.45m ³ 以上のもの
	ロ アスファルトプラント	混練機の混練重量 200kg 以上のもの
6	穀物用製粉機	ロール式のものであって原動機の定格出力が 7.5kW 以上のもの
7	木材加工機械	
	イ ドラムバーカー	すべてのもの
	ロ チツパー	原動機の定格出力 2.25kW 以上のもの
	ハ 碎木機	すべてのもの
	ニ 帯のこ盤	製材用のうち原動機の定格出力が 15kW 以上のもの 木工用のうち原動機の定格出力が 2.25kW 以上のもの
	ホ 丸のこ盤	製材用のうち原動機の定格出力が 15kW 以上のもの 木工用のうち原動機の定格出力が 2.25kW 以上のもの
	ヘ かな盤	原動機の定格出力 2.25kW 以上のもの
8	抄紙機	すべてのもの
9	印刷機械	原動機を用いるもの
10	合成樹脂用射出成形機	すべてのもの
11	鋳造型機	ジョルト式のもの

② 振動規制法に基づく特定施設

施設の種類		規模・能力
1	金 属 加 工 機 械	
	イ 液 圧 プ レ ス	すべてのもの（矯正プレスを除く）
	ロ 機 械 プ レ ス	すべてのもの
	ハ せ ん 断 機	原動機の定格出力 1kW 以上のもの
	ニ 鍛 造 機	すべてのもの
	ホ ワイヤフォーマシングマシン	原動機の定格出力 37.5kW 以上のもの
2	圧 縮 機	原動機の定格出力 7.5kW 以上のもの
3	土石用または鉱物用の破碎機 摩砕機、ふるい及び分級機	原動機の定格出力 7.5kW 以上のもの
4	織 機	原動機を用いるもの
5	コンクリートブロックマシン	原動機の定格出力が合計 2.95kW 以上のもの
	コンクリート管製造機械及び コンクリート柱製造機械	原動機の定格出力が合計 10kW 以上のもの
6	木 材 加 工 機 械	
	イ ドラムバーカー	すべてのもの
	ロ チ ッ パ ー	原動機の定格出力 2.2kW 以上のもの
7	印 刷 機 械	原動機の定格出力 2.2kW 以上のもの
8	ゴム練用または合成樹脂練用の ロ ー ル 機	カレンダーロール機以外のもので 原動機の定格出力 30kW 以上のもの
9	合成樹脂用射出成形機	すべてのもの
10	鋳 型 造 型 機	ジョルト式のもの

③ 別府市環境保全条例に基づく特定工場等

区分		規模または能力		備考
大 気 特 定 工 場		重油の1時間あたりの最大使用量が、500L以上の工場及び事業場		
煤煙にかかると特定施設	廃棄物焼却炉	焼却能力 (1時間当り)	100kg以上200kg未満	大気汚染防止法に規定する特定施設を有する工場、事業場を除く
		火格子面積	1m ² 以上2m ² 未満	
水 質 特 定 工 場		1日の最大排出量が1000m ³ 以上の工場及び事業場		1 水質汚濁防止法に規定する特定施設を有する工場、事業場 2 現在すべての排水を公共下水道に接続しているもの 以上は除く
汚水にかかると特定施設	し尿浄化槽	建築基準法施行令に規定する処理対象人員が500人以下のもので、2以上設置され、その処理対象人員の合計が501人以上のもの		
	飲食店営業の用に供する厨房施設※1	1日の排出量	最大30m ³ 以上	
	バス・タクシー営業の用に供する車両洗浄施設※2	1日の排出量	最大30m ³ 以上	
騒音にかかると特定施設	金属加工機械 ①高速切断機 ②乾式研磨機 (工具用を除く)	固定式のもの		騒音規制法に規定する特定施設を有する工場、事業場を除く
	空気圧縮機及び送風機	原動機定格出力	3.75kW以上7.5kW未満	
	木工加工機械 ①帯のこ ②丸のこ ③かんな盤	原動機定格出力	①② 製材用7.5kW以上15kW未満 木工用1.5kW以上2.25kW未満 ③ 1.5kW以上2.25kW未満	
	石材引割機	原動機定格出力	7.5kW以上のもの	
	冷凍機械	原動機定格出力	3.7kW以上のもの (冷房用を除く)	
	木材切込作業場	同一場所で継続して6カ月以上作業を行うもの		

※1 旅館・ホテルは、水質汚濁防止法の適用対象のため除く。

※2 自動式車両洗浄施設は、水質汚濁防止法の適用対象のため除く。

4 環境基準

環境基本法第16条第1項「政府は、大気の汚染、水質の汚濁、土壌の汚染及び騒音に係る環境上の条件について、それぞれ、人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準を定めるものとする」により、環境基準が各項目において設定されています。

(1) 大気汚染に係る環境基準

物質	環境上の条件
一酸化炭素 (CO)	・1時間値の8時間平均値………20ppm以下 かつ ・1時間値の1日平均値………10ppm以下
浮遊粒子状物質	・1時間値の1日平均値………0.1mg/m ³ 以下 かつ ・1時間値………0.2mg/m ³ 以下
二酸化窒素 (NO ₂)	・1時間値の1日平均値………0.04~0.06ppmのゾーン内、またはそれ以下
二酸化硫黄 (SO ₂)	・1時間値の1日平均値………0.04ppm以下 かつ ・1時間値………0.1ppm以下
光化学オキシダント	・1時間値………0.06ppm以下
ベンゼン	・1年平均値………0.003mg/m ³ 以下
トリクロロエチレン	・1年平均値………0.2mg/m ³ 以下
テトラクロロエチレン	・1年平均値………0.2mg/m ³ 以下
ジクロロメタン	・1年平均値………0.15mg/m ³ 以下

〔備考〕上記の環境基準は工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域又は場所については、評価しない。

(2) 水質汚濁に係る環境基準

① 人の健康の保護に関する環境基準

項目	基準値
カドミウム	0.01mg/l以下
全シアン	検出されないこと。
鉛	0.01mg/l以下
六価クロム	0.05mg/l以下
砒素	0.01mg/l以下
総水銀	0.0005mg/l以下
アルキル水銀	検出されないこと。
P C B	検出されないこと。
ジクロロメタン	0.02mg/l以下
四塩化炭素	0.002mg/l以下
1,2-ジクロロエタン	0.004mg/l以下
1,1-ジクロロエチレン	0.02mg/l以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04mg/l以下

項目	基準値
1,1,1-トリクロロエタン	1mg/l以下
1,1,2-トリクロロエタン	0.006mg/l以下
トリクロロエチレン	0.03mg/l以下
テトラクロロエチレン	0.01mg/l以下
1,3-ジクロロプロペン	0.002mg/l以下
チウラム	0.006mg/l以下
シマジン	0.003mg/l以下
チオベンカルブ	0.02mg/l以下
ベンゼン	0.01mg/l以下
セレン	0.01mg/l以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10mg/l以下
ふっ素	0.8mg/l以下
ほう素	1mg/l以下

備考 基準値は年間平均値とする。ただし、全シアンに係る基準値については、最高値とする。

- (注) 1 「検出されないこと」とは、測定方法の欄に掲げる方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。「② 生活環境の保全に関する環境基準」の各表において同じ。
- 2 海域については、ふっ素及びほう素の基準値は適用しない。

②生活環境の保全に関する環境基準

<河川> (湖沼を除く。)

ア

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	生物化学的 酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存 酸素量 (DO)	大腸菌群数
AA	水道 1 級、自然環境保全及び A以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	1mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	50MPN/ 100mL 以下
A	水道 2 級、水産 1 級、水浴及 びB以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	2mg/L 以下	25mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN/ 100mL 以下
B	水道 3 級、水産 2 級及びC以 下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	3mg/L 以下	25mg/L 以下	5mg/L 以上	5,000MPN/ 100mL 以下
C	水産 3 級、工業用水 1 級及び D以下の欄に掲げるもの	6.5 以上 8.5 以下	5mg/L 以下	50mg/L 以下	5mg/L 以上	—
D	工業用水 2 級、農業用水及び Eの欄に掲げるもの	6.0 以上 8.5 以下	8mg/L 以下	100mg/L 以下	2mg/L 以上	—
E	工業用水 3 級 環境保全	6.0 以上 8.5 以下	10mg/L 以下	ごみ等の浮遊が認 められないこと。	2mg/L 以上	—

備考 基準値は、日間平均値とする。

- (注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全
- 2 水道 1 級：ろ過等による簡易な浄化操作を行うもの
水道 2 級：沈殿ろ過等による通常の浄化操作を行うもの
水道 3 級：前処理等を伴う高度の浄化操作を行うもの
- 3 水産 1 級：ヤマメ、イワナ等貧腐水性水域の水産生物用並びに水産 2 級及び水産 3 級の水産生
物用
水産 2 級：サケ科魚類及びアユ等貧腐水性水域の水産生物用及び水産 3 級の水産生物用
水産 3 級：コイ、フナ等、β-中腐水性水域の水産生物用
- 4 工業用水 1 級：沈殿等による通常の浄水操作を行うもの
工業用水 2 級：薬品注入等による高度の浄水操作を行うもの
工業用水 3 級：特殊の浄水操作を行うもの
- 5 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む。）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	イワナ、サケマス等比較的低温域を好む水生生物及びこれらの 餌生物が生息する水域	0.03mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、生物Aの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下
生物B	コイ、フナ等比較的高温域を好む水生生物及びこれらの餌生物 が生息する水域	0.03mg/L 以下
生物特B	生物Bの水域のうち、生物Bの欄に掲げる水生生物の産卵場 (繁殖場)又は幼稚仔の生育場として特に保全が必要な水域	0.03mg/L 以下

備考 基準値は、年間平均値とする。

<海域>

ア

項目 類型	利用目的の適応性	基準値				
		水素イオン 濃度 (pH)	化学的 酸素要求量 (COD)	溶存酸素量 (DO)	大腸菌群数	n-ヘキサン 抽出物質 (油分等)
A	水産1級、水浴、自然環境保全及びB以下の欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	2mg/L 以下	7.5mg/L 以上	1,000MPN /100mL 以下	検出され ないこと
B	水産2級、工業用水及びCの欄に掲げるもの	7.8以上 8.3以下	3mg/L 以下	5mg/L 以上	—	検出され ないこと
C	環境保全	7.0以上 8.3以下	8mg/L 以下	2mg/L 以上	—	—

備考 基準値は、日間平均値とする。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水産1級：マダイ、ブリ、ワカメ等の水産生物用及び水産2級の水産生物用

水産2級：ボラ、ノリ等の水産生物用

3 環境保全：国民の日常生活（沿岸の遊歩等を含む）において不快感を生じない限度

イ

項目 類型	利用目的の適応性	基準値	
		全窒素	全リン
I	自然環境保全及びII以下の欄に掲げるもの (水産2種及び3種を除く。)	0.2mg/L 以下	0.02mg/L 以下
II	水産1種、水浴及びIII以下の欄に掲げるもの(水産 2種及び3種を除く。)	0.3mg/L 以下	0.03mg/L 以下
III	水産2種及びIVの欄に掲げるもの (水産3種を除く。)	0.6mg/L 以下	0.05mg/L 以下
IV	水産3種、工業用水、生物生息環境保全	1mg/L 以下	0.09mg/L 以下

備考 基準値は、年間平均値とする。

(注) 1 自然環境保全：自然探勝等の環境保全

2 水産1種：底生魚介類を含め多様な水産生物がバランス良く、かつ、安定して漁獲される

水産2種：一部の底生魚介類を除き、魚類を中心とした水産生物が多獲される

水産3種：汚濁に強い特定の水産生物が主に漁獲される

3 生物生息環境保全：年間を通して底生生物が生息できる限度

ウ

項目 類型	水生生物の生息状況の適応性	基準値
		全亜鉛
生物A	水生生物の生息する水域	0.02mg/L 以下
生物特A	生物Aの水域のうち、水生生物の産卵場(繁殖場)又は幼稚仔の 生育場として特に保全が必要な水域	0.01mg/L 以下

(3) 環境基準類型設定のされている水域

(A) 河川

アの<朝見川> 昭和49年4月1日指定

該当類型 A 観海寺橋より上流

該当類型 C 観海寺橋より下流

(B) 海域

アの<別府港水域> 昭和49年7月1日指定

該当類型 B (両郡橋【別府市と大分市との境界地点】から日出町島山山頂まで引いた線、別府市と日出町との境界陸岸地点から大崎鼻まで引いた線及び別府市と日出町との境界陸岸地点から両郡橋に至る陸岸に囲まれた海域)

イの<別府湾(イ)> 平成10年3月31日指定

該当類型 II (大分市大在大野川右岸北端と杵築市白石鼻を結ぶ線及び陸岸で囲まれた海域であって、鶴崎泊地、乙津泊地、住吉泊地を除いたもの)

(4) 騒音に係る環境基準 (平成 11 年 4 月 1 日 施行)

① 騒音に係る環境基準 [道路に面する地域以外の地域]

地 域 の 区 分		基 準 値	
		昼間	夜間
AA	療養施設、社会福祉施設等が集合して設置される地域など特に静穏を必要とする地域	50dB 以下	40dB 以下
A及びB	A 専ら住居の用に供される地域 B 主として住居の用に供される地域	55dB 以下	45dB 以下
C	相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域	60dB 以下	50dB 以下

② 騒音に係る環境基準 [道路に面する地域]

地 域 の 区 分		基 準 値	
		昼間	夜間
A地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域		60dB 以下	55dB 以下
B地域のうち2車線以上の車線を有する道路に面する地域 及びC地域のうち車線を有する道路に面する地域		65dB 以下	60dB 以下
(特例) 道路に面する地域の内、幹線道路に隣接する空間		70dB 以下	65dB 以下

- 備考1 時間の区分は、昼間を午前6時から午後10時までの間とし、夜間を午後10時から翌日の午前6時までの間とする。
- 備考2 測定結果の評価手法は、時間の区分ごとの全時間を通じた等価騒音レベルによって評価するものとする。
- 備考3 「道路に面する地域」の表において、「車線」とは、1縦列の自動車が安全かつ円滑に走行するために必要な一定の幅員を有する帯状の車道部分をいう。
- 備考4 評価の時期は、騒音が1年間を通じて平均的な状況を呈する日を選定する。
- 備考5 この環境基準は、航空機騒音、鉄道騒音及び建設作業音には適用しない。
- 備考6 地域の区分は、図IV-2に示す。

図IV-2 騒音環境基準類型図

平成10年9月30日公布
平成11年4月1日施行



5 特定工場等の規制基準

① 特定工場等に関する騒音の規制基準

(単位：デシベル)

時間区分 区域区分	昼 間	朝・夕	夜 間
第1種区域	50	45	40
第2種区域	60	50	45
第3種区域	65	60	50

備考1 時間区分は、次のとおりとする。

昼 間：午前 8 時～午後 7 時

朝・夕：午前 6 時～午前 8 時、午後 7 時～午後 10 時

夜 間：午後 10 時～翌日の午前 6 時

備考2 区域区分は下記の区域として、図V-1に示す。

第1種区域：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域。

第2種区域：住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域。

第3種区域：住居の用にあわせて商業、工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、騒音の発生を防止する必要がある区域。

②特定工場等に関する振動の規制基準

(単位：デシベル)

時間区分 区域区分	昼 間 午前 8 時～午後 7 時	夜 間 午後 7 時～翌日の午前 8 時
第1種区域	60	55
第2種区域	65	60

備考 区域区分は下記の区域とし、図V-2に示す。

第1種区域：良好な住居の環境を保全するため、特に静穏の保持を必要とする区域及び住居の用に供されているため、静穏の保持を必要とする区域。

第2種区域：住居の用に併せて商業、工業等に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を保全するため、振動の発生を防止する必要がある区域及び主として工業等の用に供されている区域であって、その区域内の住民の生活環境を悪化させないため、著しい振動の発生を防止する必要がある区域。

图 V-1-1 騒音規制法区域指定図

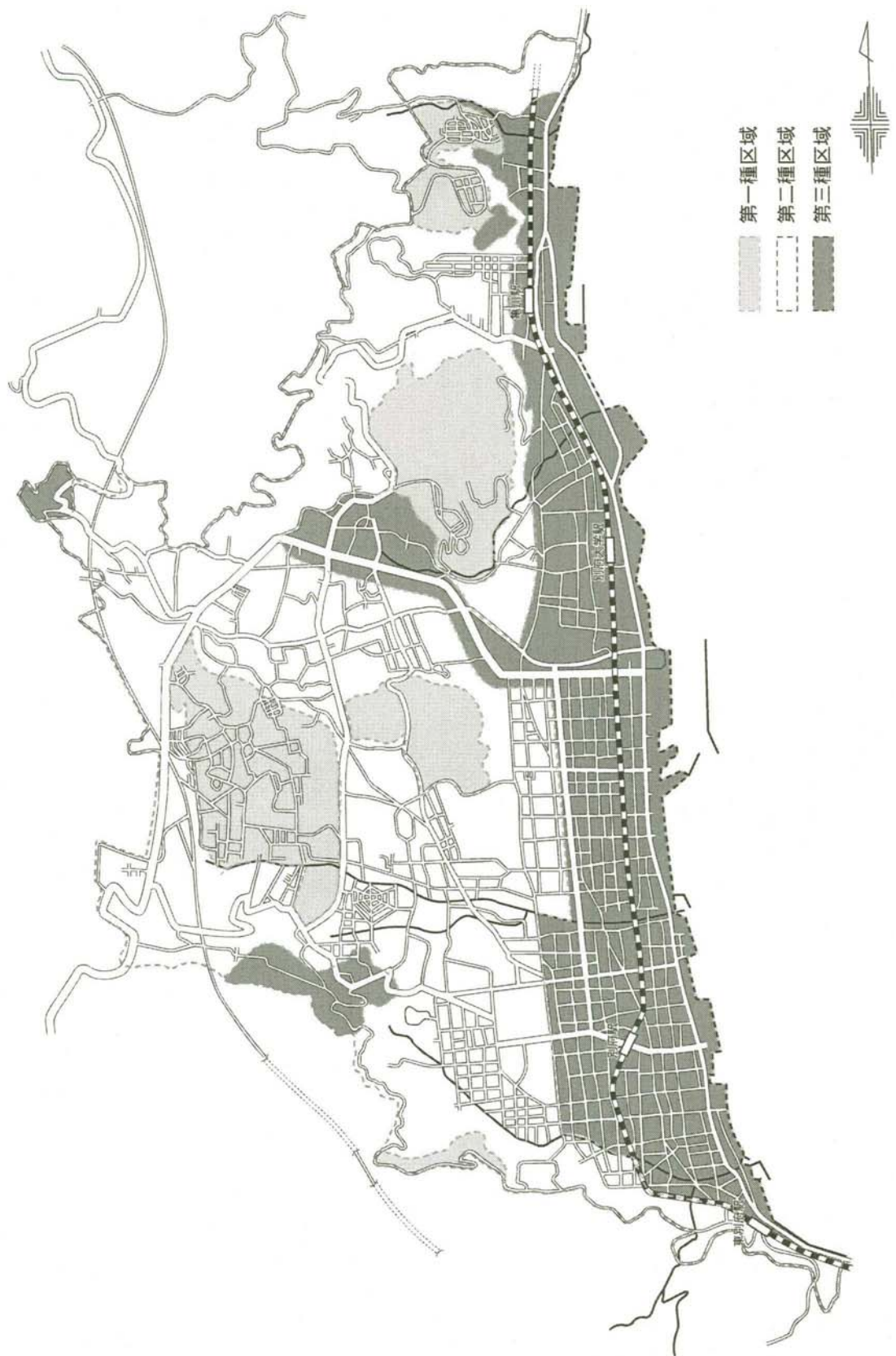
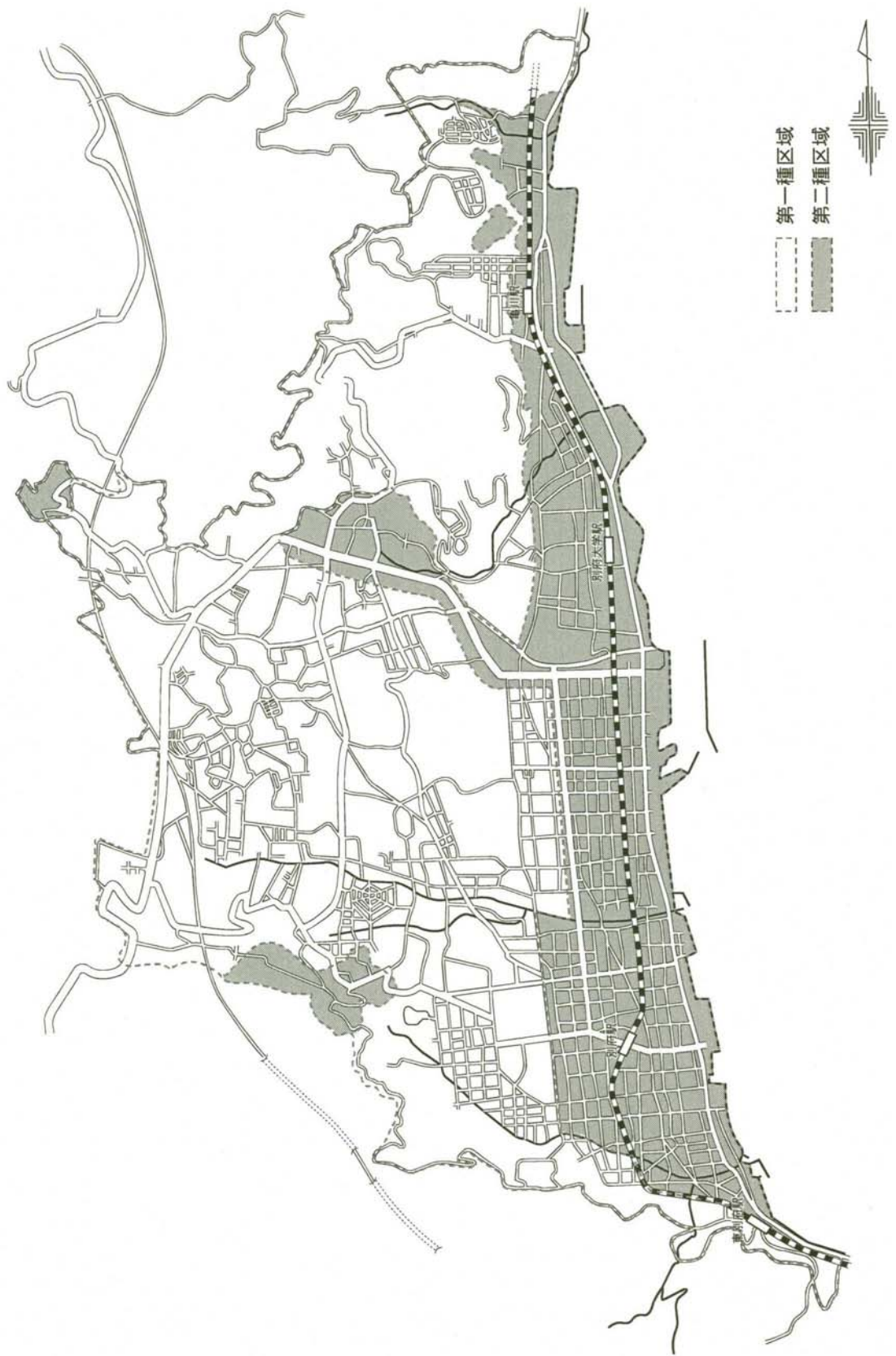


图 V-2 振动規制法区域指定图



③ 指定地域内における自動車騒音の限度を定める総理府令
(H12.3.2 総理府令)

(単位：dB)

区域の区分			時間の区分	
			昼間	夜間
1	a 区域	1 車線を有する道路に面する区域	65	55
	b 区域			
2	a 区域	2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	70	65
3	b 区域	2 車線以上の車線を有する道路に面する区域	75	70
	c 区域			

備考1 a 区域、b 区域及びc 区域とは、それぞれ次の各号に掲げる区域として都道府県知事が定めた区域をいう。

- 一 a 区域 専ら住居の用に供される地域
- 二 b 区域 主として住居の用に供される地域
- 三 c 区域 相当数の住居と併せて商業、工業等の用に供される地域

備考2 測定値は L_{eq} として、時間区分ごとのエネルギー平均値とする。

備考3 区域区分は図IV-2に示す。

備考4 時間区分は昼間を午前6時から午後10時までの間とし、夜間を午後10時から翌日の午前6時までの間とする。

なお、幹線交通を担う道路に近接する区域においては、上記の規定にかかわらず、昼間75dB、夜間70dBを限度とする。

（「幹線交通を担う道路」とは、道路法（昭和27年法律第180号）第3条に規定する高速自動車国道、一般国道、都道府県道及び市町村道（市町村道にあつては4車線以上の車線を有する区間に限る。）並びに道路運送法（昭和26年法律第183号）第2条第8項に規定する一般自動車道であつて都市計画法施行規則（昭和44年建設省令第49号）第7条第1号に規定する自動車専用道路をいう。）

また、車線数の区分に応じて、「近接する区域」の範囲を下記のとおり特定する。

- ・2車線以下の車線を有する幹線交通を担う道路 道路の敷地の境界線から15m
- ・2車線を超える車線を有する幹線交通を担う道路 道路の敷地の境界線から20m

④ 道路交通振動の限度

(S51.11.10 振動規制法施行規則第12条 別表第二)












(単位：dB)

区域の区分	時間の区分	
	昼間 午前8時～午後7時	夜間 午後7時～翌日の午前8時
第1種区域	65	60
第2種区域	70	65

【備考】基準値は測定値の80%レンジの上端値とし、時間区分ごとの平均値とする。

騒音および振動の大きさの例
(1) 騒音の大きさの例

(単位：デシベル)

120	飛行機のエンジンの近く		90
110	自動車の警笛 (前方2m) リベット打ち		80
100	電車が通るときガードの下		70
90	大声による独唱 騒々しい工場の中		60
80	地下鉄の車内		60
70	電話のベル 騒々しい街頭		50
60	静かな乗用車 普通の会話		50
50	静かな事務所		50
40	市内の深夜 静かな住宅地の昼		40
30	郊外の深夜 ささやきの声		40
20	木の葉のふれ合う音 置時計の秒針の音 (前方1m)		40

(2) 振動の影響例

中震	気象庁震度階 家屋の振動が激しく、すわりの悪い花びんなどは倒れ、器内の水はあふれ出る。また、歩いている人にも感じられ、多くの人々は戸外に飛び出す程度の地震	人体に生理的影響が生じ始める
弱震	家屋が揺れ、戸、障子がガタガタと鳴動し、電灯のようなつり下げの物は相当揺れ、器内の水面の動くのがわかる程度の地震	産業職場で振動が気になる (8時間震動にさらされた場合) 深い睡眠にも影響がある
軽震	大ぜいの人に感ずる程度のもので戸、障子がわずかに動くのがわかるくらいの地震	浅い睡眠に影響がではじめる
微震	注意している人や、特に地震に注意深い人だけに感ずる程度の地震	振動を感じ始める ほとんど睡眠影響はない
無震	人体に感じないで地震計に記録される程度	常時振動

「騒音・振動を考える、環境シリーズNo.10(財)日本環境協会」より

6 特定建設作業の規制基準とその種類

① 特定建設作業の規制基準

法・市条例の種類	規 制 基 準				
	基準値	作業時間帯	1日あたりの作業時間	作業期間	作業日
騒音規制法	85dB	午後7時～ 午前7時の 時間帯を 除く	1日10時間 を超えない事	連続6日 を超えない事	日曜日その他 の休日でない 事
振動規制法	75dB				
別府市環境保全条例	85dB				

備考 規制基準値は敷地の境界線で測定した値

② 騒音規制法に定める特定建設作業の種類

作 業 名	適 応 除 外
くい打機、くい抜機、くい打くい抜機を使用する作業	もんけん及び圧入式くい打くい抜き機、くい打機をアースオーガーと併用する作業を除く
びょう打機を使用する作業	
さく岩機を使用する作業	1日50m以上にわたり移動する作業を除く
空気圧縮機を使用する作業(電動機以外の原動機使用のもので定格出力15kW以上のもの)	さく岩機の動力として使用する作業を除く
コンクリートプラント(混練容量0.45m ³ 以上)アスファルト・プラント(混練容量200kg以上)を使用する作業	モルタル製造用コンクリートプラントを除く
バックホウを使用する作業(原動機の定格出力が80kW以上のもの)	環境大臣の定めるものを除く
トラクターショベルを使用する作業(原動機の定格出力が70kW以上のもの)	環境大臣の定めるものを除く
ブルドーザーを使用する作業(原動機の定格出力が40kW以上のもの)	環境大臣の定めるものを除く

③ 振動規制法に定める特定建設作業の種類

作 業 種 類	適 応 除 外
くい打機を使用する作業	もんけん及び圧入式のを除く
くい抜機またはくい打くい抜機を使用する作業	油圧式くい抜機、及び圧入式くい打くい抜機を除く
鋼球を使用して建築物その他の工作物を破壊する作業	
舗装版破碎機を使用する作業	1日50m以上にわたり移動するものを除く
ブレーカーを使用する作業	手持ち式のを除く 1日50m以上にわたり移動するものを除く

④ 別府市環境保全条例に定める特定建設作業の種類

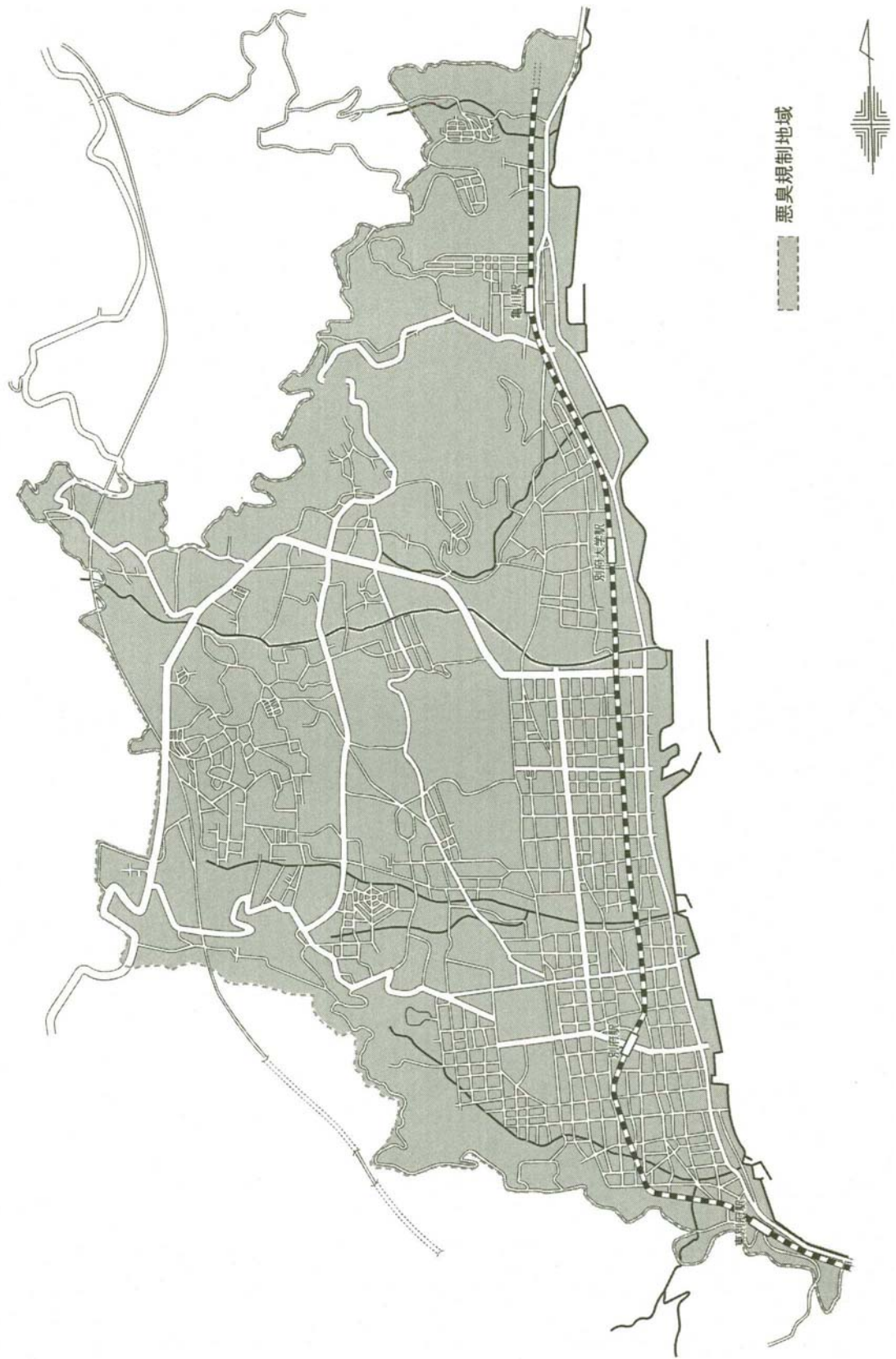
作 業 種 類	適 応 除 外
アースオーガーを使用するくい打作業	
インパクトレンチを使用する作業	
動力源として発電機を使用する作業 (10キロワット以上のもの)	
コンクリートポンプを使用するコンクリート輸送作業	

7 悪臭防止法に基づく規制基準

1 敷地境界線の地表における規制基準と主な発生事業場

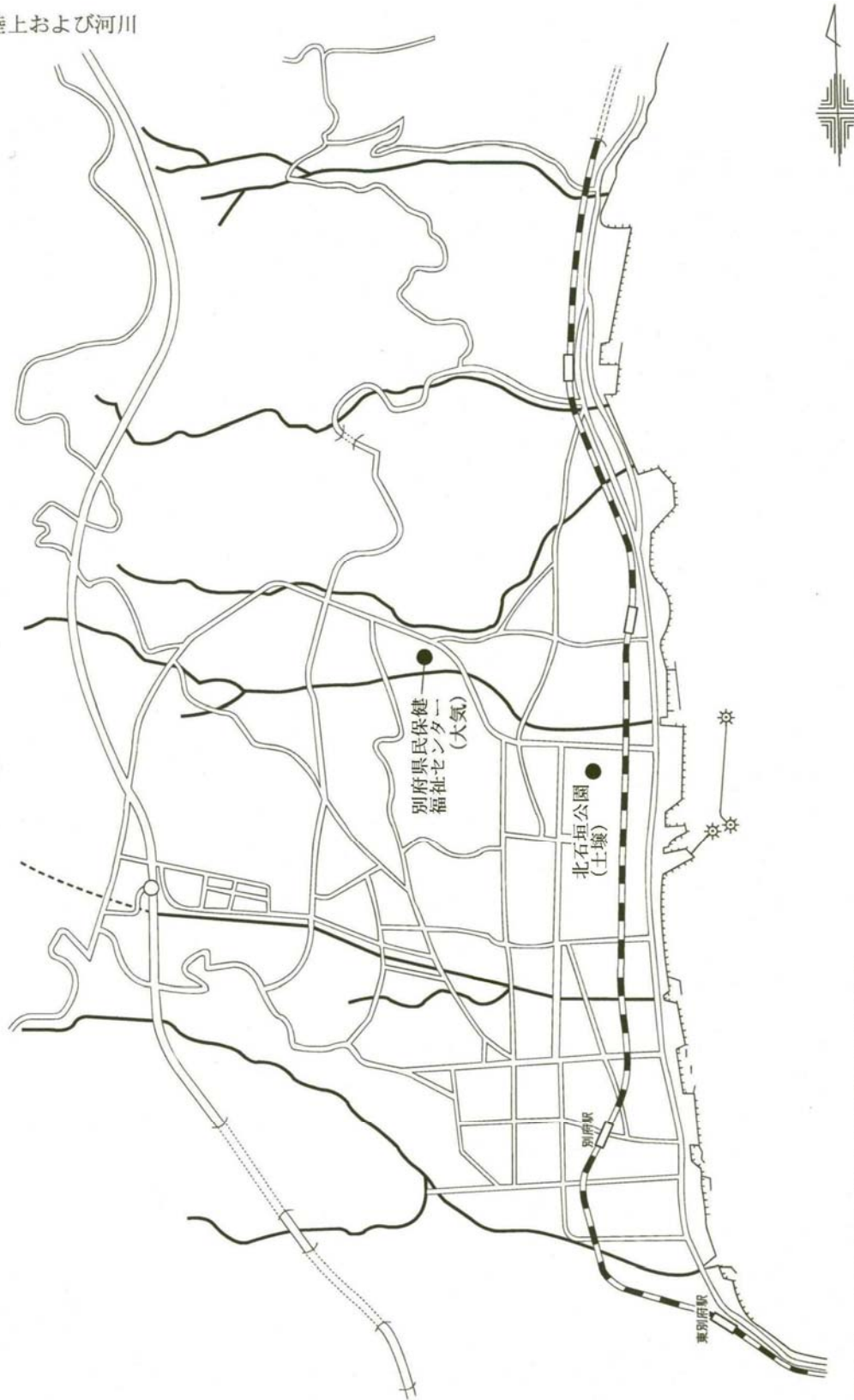
悪臭物質	規制基準(ppm)	主要発生源事業場
アンモニア	1	畜産農業、鶏糞乾燥場、複合肥料製造場、でん粉製造業、化製場、魚腸骨処理場、フェザー処理場、ごみ処理場、し尿処理場、下水処理場等
メチルメルカプタン	0.002	クラフトパルプ製造業、化製場、魚腸骨処理場、ごみ焼却場、し尿処理場、下水処理場等
硫化水素 (別府市においては規制除外)	0.02	畜産農業、クラフトパルプ製造業、でん粉製造業、セロファン製造業、ビスコースレーヨン製造業、化製場、魚腸骨処理場、フェザー処理場、ごみ処理場、し尿処理場、下水処理場等
硫化メチル	0.01	クラフトパルプ製造業、化製場、魚腸骨製造場、ごみ処理場、し尿処理場、下水処理場等
二硫化メチル	0.01	クラフトパルプ製造業、化製場、魚腸骨製造場、ごみ処理場、し尿処理場、下水処理場等
トリメチルアミン	0.005	畜産農業、複合肥料製造業、化製場、魚腸骨処理場、水産かん詰製造業等
アセトアルデヒド	0.05	アセトアルデヒド製造工場、酢酸製造工場、酢酸ビニル製造工場、クロロブレン製造工場、たばこ製造工場、複合肥料製造工場、魚腸骨処理場等
プロピオンアルデヒド	0.05	塗装工場、その他の金属製品製造工場、自動車修理工場、印刷工場、魚腸骨処理場、油脂系食料品製造工場、輸送用機械器具製造工場等
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	
イソブチルアルデヒド	0.02	
ノルマルバレルアルデヒド	0.009	
イソバレルアルデヒド	0.003	
イソブタノール	0.9	塗装工場、その他の金属製品製造工場、自動車修理工場、木工工場、繊維工場、その他の機械製造工場、印刷工場、輸送用機械器具製造工場、鋳物工場等
酢酸エチル	3	
メチルイソブチルケトン	1	
トルエン	10	
スチレン	0.4	スチレン製造工場、ポリスチレン製造工場、ポリスチレン加工工場、SBR製造工場、FRP製品製造工場、化粧合板製造工場等
キシレン	1	
プロピオン酸	0.03	脂肪酸製造工場、染色工場、畜産事業場、化製場、でんぷん製造工場等
ノルマル酪酸	0.001	畜産事業場、化製場、魚腸骨処理場、鶏糞乾燥場、畜産食料品製造工場、でん粉製造工場、し尿処理場、廃棄物処分場等
ノルマル吉草酸	0.0009	
イソ吉草酸	0.001	

图VII-1 恶臭規制地域图



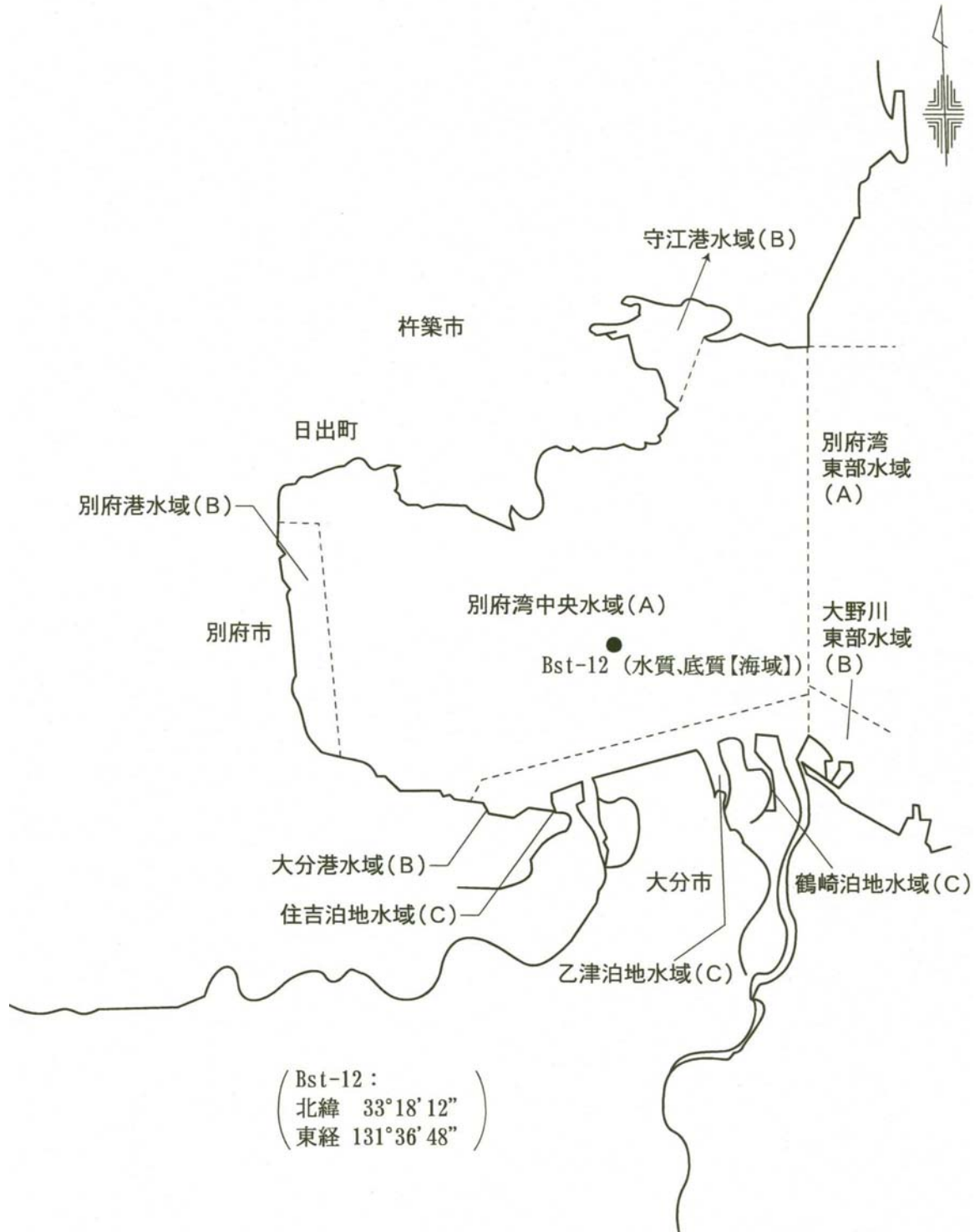
8 別府市内及び周辺におけるダイオキシン類測定地点

① 陸上および河川



備考1 ダイオキシン類は、県において測定した。

② 海域



9 保護地区等指定物件一覧表

平成19年3月31日現在

区 分	名 称	面積・本数	指定年月日
生物環境保護地区	八幡朝見神社のアラカシ林	約 3,000 m ²	S52. 3. 1
	御嶽権現社の自然林	約 16,000 m ²	S52. 7. 19
	鶴見権現社の自然林	約 12,000 m ²	S52. 7. 19
	観海寺のスダジイ林	約 2,500 m ²	S52. 11. 1
保 護 樹	湯の森のスダジイ林	約 5,000 m ²	S52. 7. 19
	大神峯神社のイチイガシ林	約 2,000 m ²	S52. 7. 19
	羽室御霊社のスダジイ林	約 1,500 m ²	S52. 7. 19
	朝見のバクチノキ	22 樹	S52. 3. 1
	八坂神社の木立	4 樹	S52. 7. 19
	八幡竈門神社のイチイガシ	4 樹	S52. 11. 1
	平田天満社の木立	2 樹	S52. 11. 1
	上人小学校のタブノキ	18 樹	S52. 7. 7
	円正寺のスダジイ	1 樹	S52. 3. 1
	城島のシラカシ	1 樹	S52. 3. 1
	本村天満神社のクスノキ	1 樹	S52. 3. 1
	海門寺のしぐれの松	1 樹	S52. 3. 1
	古市三女神社のムクノキ	1 樹	S52. 3. 1
	柳のクヌギ	1 樹	S53. 11. 29
	海雲寺のカヤ	1 樹	S53. 11. 29
	棚林のコジイとスダジイ	各 1 樹	S53. 11. 29
	山ノ口のハクモクレン	1 樹	S55. 7. 7
	城の内のフジ	1 樹	S56. 6. 25
	中須賀のホルトノキ	2 樹	S56. 6. 25
	志高のヤマザクラ	3 樹	H 5. 7. 1
中央公民館のクスノキとホルトノキ	{ クスノキ 3 樹 ホルトノキ 1 樹	H 5. 7. 1	
大分県特別保護樹木	ツバキ (東山椿)	1 樹	S49. 3. 15
	シダレザクラ (東山城島)	1 樹	S49. 3. 15
	ウスギモクセイ (鉄輪)	1 樹	S49. 3. 15
	イチョウ (内成勢場)	1 樹	S49. 3. 15
大分県特別保護樹林	火男火売神社の森	約 2ha	S49. 3. 15
	朝見神社の森	約 0.5ha	S49. 3. 15
	観海寺の森	150a	S49. 3. 15

10 文化財指定物件・国登録文化財一覧

①別府市の指定文化財一覧

区分	名称	指定年月日	区分	名称	指定年月日
有形文化財 (建造物)	◇向原石幢	S47. 3. 21	有形文化財 (彫刻)	木彫阿弥陀立像	S42. 4. 11
	◇国東塔	S47. 3. 21			
	◇笠塔婆	S47. 3. 21	有形文化財 (絵画・典籍)	◆紙本著色遊行上人絵伝 敷島武鑑帳	H9. 6. 30
	◇西野口五輪塔婆	S49. 3. 19			S42. 4. 11
	◇竈門氏墓地五輪塔	S50. 3. 28	有形文化財 (古文書)	見地改書	S42. 4. 11
	◇御嶽権現社宝塔	S50. 3. 28		対岳楼教則	S42. 4. 11
	後畑宝篋印塔	S42. 4. 11		別府・浜脇・田の口古地図	S42. 4. 11
	赤松石幢	S42. 4. 11		明礬関係史料	S53. 5. 1
	永正板碑	S42. 4. 11	有形文化財 (考古史料)	◇金銅製唐草文透彫鏡板	S34. 3. 20
	永享石幢	S42. 4. 11		小児甕棺	S42. 4. 11
	朝見大日種子板碑	S42. 4. 11		塚原出土の須恵器	S42. 4. 11
	應永宝塔	S42. 4. 11	史跡	◆鬼の岩屋古墳1. 2号墳	S32. 11. 28
	宝篋印塔	S42. 4. 11		◇竈門氏墓地古塔群	S50. 3. 28
	寛永キリシタン塔	S42. 4. 11		実相寺遺跡	S42. 4. 11
	経堂内に包蔵する輪蔵	S42. 4. 11		照湯	S42. 4. 11
	吉弘統幸墓	S47. 5. 10		吉祥寺跡及開山塔	S42. 4. 11
	宗像掃部墓	S47. 5. 20		千辛万苦之場	S43. 1. 29
	渡辺五郎右衛門墓	S53. 5. 1	名勝	◇由布川溪谷	S34. 3. 20
	古殿板碑	S56. 5. 1	天然記念物	◇鶴見の坊主地獄	S24. 3. 20
	野口原五輪塔群	S57. 7. 23		◇鶴見権現社のイチイガシ林	S50. 3. 28
	松音寺の古塔(3)	H4. 3. 1		◇御嶽権現社の自然林	S50. 3. 28
	別府市中央公民館	H6. 11. 26		◇朝見神社のクスノキとアラカシ林	S54. 5. 15
	東別府駅本屋	H15. 2. 5		龍巻地獄	S42. 4. 11
		海門寺のクロマツ		S57. 8. 11	
有形文化財 (工芸品)	◇脇差(肥前住人忠吉)	S28. 4. 20	無形民俗 文化財 (民俗技術)	◆別府明礬温泉の湯の花製造技術	H18. 3. 15
	◇太刀(景則)	S34. 3. 20			
	◇短刀(宇佐住信国)	S47. 3. 21			
	◇刀(藤原行光)	S51. 3. 30			
	太刀(大小拵)	S42. 4. 11			
	刀(肥前忠吉)	S42. 4. 11			
	脇差(山城国国包)	S42. 4. 11			
脇差(藤原行長)	S52. 3. 31				

◆：国指定物件、◇：県指定物件、無印：市指定物件

②国登録有形文化財

名称		登録年月日	名称		登録年月日
野口病院	管理棟	H8. 12. 20	聴潮閣	主屋	H13. 8. 28
京都大学理学部附属地球熱学研究施設		H9. 6. 12		洋館	
朝見浄水場	集合井室	H9. 9. 3	富士屋旅館	主屋	H13. 11. 20
	配水池			前門	
	配水池北出入口			石垣	
	配水池南出入口			石段	
	量水室		竹瓦温泉	H16. 6. 9	
別府市児童館		H10. 7. 23	浜田温泉資料館		H18. 8. 3

1 1 別府市内街路樹植栽種類と本数一覧

(平成19年3月31日現在)

種類	本数	市道		県道		国道		計	
		中高木	下木	中高木	下木	中高木	下木	中高木	下木
アメリカフウ		58		30				88	0
イチヨウ		200		39				239	0
ヤエザクラ		289						293	0
アキニレ		196						195	0
タラヨウ		108						108	0
サルスベリ		184						186	0
シマトネリコ		55				344		399	0
ナンキンハゼ		61						61	0
オオシマザクラ		36						36	0
オオカナメモチ		38						38	0
ハナノキ		121						121	0
ホルトノキ		23				298		321	0
ハナミズキ		157		70				230	0
トウカエデ		271						271	0
クヌギ		1						1	0
ユリノキ		14						14	0
ケヤキ		81		38		58		177	0
サザンカ		292		10		441		743	0
ソメイヨシノ		490		34				532	0
フェニックス		4				88		92	0
タブノキ						1		1	0
レンギョウ					1,120			0	1,120
ヤマモミジ		70		9				79	0
ヤマモモ				24		3		27	0
ツバキ				10		93		103	0
カイヅカイブキ				12		1,582		1,594	0
キンモクセイ		115				2		117	0
コブシ		63		18		7		88	0
エンジュ		90				100		190	0
サワグルミ		11						11	0
スダジイ				9				9	0
アラカシ				12				12	0
レッドロビン				1				1	0

種類	本数		市 道		県 道		国 道		計	
	中高木	下 木	中高木	下 木	中高木	下 木	中高木	下 木	中高木	下 木
ク チ ナ シ						40	0	40		
ヘ デ ラ						7,470	0	7,470		
ク ス ノ キ	10						10	0		
エ ゴ ノ キ	23						23	0		
ワシントニアパーム					260		260	0		
アカバツツジ							0	0		
オオムラサキ		13,429		2,987		40,032	0	56,448		
キリシマツツジ		401				2,079	0	2,480		
タイサンボク					5		5	0		
ユキヤナギ				870			0	870		
フ ヨ ウ							0	0		
ハマヒサカキ						5,084	0	5,084		
ドウダンツツジ				1,146		474	0	1,620		
ネズミモチ			67	132	810		877	132		
ヒメクチナシ							0	0		
ジンチョウゲ							0	0		
サ ツ キ		336		3,149		582	0	4,067		
ハクチョウゲ							0	0		
クルメツツジ				3,834		948	0	4,782		
カンツバキ		5,695		339		1,878	0	7,912		
シャリンバイ				130		1,023	0	1,153		
ヒイラギモクセイ					349		349	0		
アベリア				360		3,885	0	4,245		
マテバシイ						1	1	0		
クロガネモチ	3		10		3		16	0		
シモクレン			42				42	0		
ヒラドツツジ		840		9,202		2,313	0	12,355		
ベニスモモ	38						38	0		
ソ テ ツ					3		3	0		
ム ク ゲ		62					0	63		
計	3,101	20,763	435	23,279	4,448	62,650	8,001	106,687		

12 みどり監視員名簿

(平成18年4月1日～平成20年3月31日)

担当地区	氏名
内成地区	佐藤 茂人
市街地区	河野 喜一郎
実相寺地区	安藤 俊二
亀川地区	加藤 信治
内竈・野田地区	右田 政幸
天間地区	久保 幸孝
小鹿地区	大野 秀雄
東山地区	堀谷 剛司
城島地区	首藤 吉男
石垣地区	土田 典子
明礬・鉄輪地区	渡辺 精治
古市・関の江地区	佐藤 義廣

(資料…公園緑地課)

13 指定建築物等の申請状況の推移

①平成18年度指定建築物申請状況

建築物の種類	建築物の高さ			建築物の延面積			
	15m以上 20m未満	20m以上 30m未満	30m以上	1,000㎡未満	1,000㎡以上 2,000㎡未満	2,000㎡以上 5,000㎡未満	5,000㎡以上
ホテル	0	0	0	0	0	0	0
店舗付共同住宅	0	0	0	0	0	0	0
共同住宅	2	1	2(*)	1(*)	3	1	0
その他	0	1	1	0	0	0	2
計	2	2	3	1(*)	3	1	2

(*用途変更部分のみ)

②平成18年度指定工作物申請状況

工作物の種類	工作物の高さ		
	15m以上 20m未満	20m以上 30m未満	30m以上
風況計測	0	0	0
その他 (携帯電話鉄塔・看板)	0	0	3
計	0	0	3

③過去5年間の建築物申請件数一覧表

		平成 14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
総申請件数		9	5	7	8	7
高さ別申請件数	15～20m	3	0	0	4	2
	20～30m	4	3	2	2	2
	30m以上	2	2(※)	5	2	3(*)
延べ床面積別 申請件数	1,000㎡未満	3	0	0	0	1(*)
	1,000㎡～ 2,000㎡未満	2	2	2	4	3
	2,000㎡～ 5,000㎡未満	2	1	2	2	1
	5,000㎡以上	2	2(※)	3	2	2

(※)…うち1件は増築申請、(*)…用途変更1件(変更部分のみ)

④工作物申請件数一覧表

		平成 18年度
総申請件数		3
高さ別申請件数	15～20m	0
	20～30m	0
	30m以上	3

⑤過去5年間の指定建築物高さ別申請件数一覧表

建築物の種類	建築物の高さ	平成 14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
ホテル	15m以上～20m未満	0	0	0	0	0
	20m以上～30m未満	1	0	0	0	0
	30m以上	0	1(※)	0	0	0
店舗付 共同住宅	15m以上～20m未満	1	0	0	0	0
	20m以上～30m未満	0	0	0	0	0
	30m以上	0	0	0	0	0
共同住宅	15m以上～20m未満	1	0	0	2	2
	20m以上～30m未満	3	1	1	0	1
	30m以上	2	0	5	2	2(*)
その他	15m以上～20m未満	1	0	0	2	0
	20m以上～30m未満	0	2	1	2	1
	30m以上	0	1	0	0	1
計	15m以上～20m未満	3	0	0	4	2
	20m以上～30m未満	4	3	2	2	2
	30m以上	2	2(※)	5	2	3(*)

(※)…増築申請1件(既存部分が30m以上)、(*)…用途変更1件(既存建物が30m以上)

⑥指定工作物高さ別申請件数一覧表

工作物の種類	建築物の高さ	平成18年度
風況計測	15m以上～20m未満	0
	20m以上～30m未満	0
	30m以上	0
その他	15m以上～20m未満	0
	20m以上～30m未満	0
	30m以上	3
計	15m以上～20m未満	0
	20m以上～30m未満	0
	30m以上	3

1 4 上水道配水資料

年 度	総配水量 (m ³)	1日最大配水量 (m ³)	1日平均配水量 (m ³)	1日1人最大配水量 (L)	1日1人平均配水量 (L)
平成9年度	20,661,047	66,013	56,606	531	456
10年度	20,525,692	66,497	56,235	537	454
11年度	20,045,981	63,387	54,770	513	443
12年度	20,041,862	64,527	54,909	525	447
13年度	19,584,116	62,541	53,655	508	436
14年度	19,236,114	60,925	52,702	494	427
15年度	19,465,691	60,347	53,185	486	429
16年度	19,641,280	62,914	53,812	508	435
17年度	18,716,974	60,892	51,279	493	415
18年度	18,060,351	55,867	49,480	452	400

平成19年3月31日

給水人口…123,576人

(資料…水道局)

1 5 排水に係る全体計画・進捗状況

①公共下水道

	全体計画	事業認可
計画面積 (ha)	2,826	1,797
計画人口 (人)	118,000	89,440
処理能力 (t/日)	117,300	95,800
処理方法	標準活性汚泥法	標準活性汚泥法
排除方法	分流式	分流式
ポンプ場 (箇所)	6	6
事業費 (百万円)	100,000	61,433

(資料…下水道課)

②都市下水路

	全体計画		事業認可		公共転用後完了	
	集水面積(ha)	延長(m)	集水面積(ha)	延長(m)	集水面積(ha)	施工延長(m)
春木1号下水路	118.0	1,814.0	118.0	1,814.0	67.9	150.0
扇山1号下水路	68.0	911.5	68.0	911.5	36.7	291.0
鉄輪下水路	60.0	996.4	60.0	996.4	60.0	998.0
北中下水路	72.0	811.0	72.0	811.0	72.0	814.0
計	318.0	4,532.9	318.0	4,532.9	236.6	2,253.0

※昭和54年度末に完成済、平成16年度認可変更に伴い一部公共下水道(雨水渠)に転用。(資料…下水道課)

③公共下水道進捗率 (平成18年度末)

※ 下水道普及率 60.4%

	全体計画	整備済	全体計画に対する整備率	水洗化人口	整備人口に対する水洗化率
面積	(ha) 2,826	(ha) 1,157.2	(%) 41.0	—	—
計画人口	(人) 122,218	(人) 73,822	(%) 60.4	(人) 62,887	(%) 85.2

(資料…下水道課)

④ 合併処理浄化槽補助金交付基数

年度	H3以前	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
補助金利用分(基)	—	6	10	26	11	14	10	9	73	87	63	72	57	13	3	1
累計(基)	26	32	42	68	79	93	103	112	185	272	335	407	464	477	480	481

(資料…清掃課)

16 水質調査結果

① 平成18年度 河川水質調査結果

調査項目	水 温(°C)							浮遊物質(SS) mg/ℓ (環境基準値：25 mg/ℓ 以下【A類型】、 50 mg/ℓ 以下【C類型】)						
	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口
平成18年 4月26日	16.0	19.0	19.0	18.0	26.5	17.0	12.0	7	5	5	6	13	7	4
平成18年 8月2日	27.8	23.0	32.9	31.5	33.2	29.1	21.3	5	6	5	2	9	15	7
平成18年 10月18日	19.0	20.8	26.0	24.8	29.8	23.7	16.9	4	9	3	2	11	14	9
平成19年 1月24日	12.5	16.5	16.0	13.0	23.5	13.5	10.5	3	5	3	6	9	6	3

調査項目	水素イオン濃度(pH) (環境基準値：6.5以上8.5以下【A、C類型とも】)							生物化学的酸素要求量(BOD) mg/ℓ (環境基準値：2mg/ℓ 以下【A類型】、 5mg/ℓ 以下【C類型】)						
	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口
平成18年 4月26日	8.4	7.5	8.7	8.0	8.2	6.9	7.7	1.8	<0.5	6.1	2.8	5.3	2.2	0.5
平成18年 8月2日	8.7	7.5	9.2	8.8	7.8	6.8	7.7	1.1	<0.5	3.5	1.6	3.0	1.7	0.8
平成18年 10月18日	8.4	7.6	8.4	8.7	7.5	6.8	7.8	1.0	<0.5	3.1	1.7	4.8	1.4	0.7
平成19年 1月24日	8.2	7.5	8.0	8.0	7.3	6.4	7.7	1.9	0.6	5.7	6.0	6.1	0.7	2.4

調査項目	溶存酸素量(DO) mg/ℓ (環境基準値：7.5mg/ℓ 以上【A類型】、 5mg/ℓ 以上【C類型】)							大腸菌群数(MPN/100mℓ) (環境基準値：1,000MPN/100mℓ 以下【A類型】) (C類型には環境基準値の設定なし)						
	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口	朝見川 河口	朝見川 上流	境川 河口	春木川 河口	平田川 河口	新川 河口	冷川 河口
平成18年 4月26日	10.1	8.5	10.9	9.9	7.6	9.2	10.6	7.9×10^3	4.9×10^2	3.5×10^4	5.4×10^4	3.5×10^4	2.3×10^3	1.3×10^3
平成18年 8月2日	8.2	8.0	9.0	7.6	7.3	7.4	8.7	3.3×10^3	7.9×10^2	1.7×10^4	5.4×10^4	1.6×10^5	4.9×10^3	1.1×10^4
平成18年 10月18日	9.3	8.4	10.3	8.8	7.1	8.3	9.7	3.5×10^4	3.3×10^3	1.6×10^5	2.4×10^4	1.6×10^5	2.4×10^4	7.9×10^3
平成19年 1月24日	11.0	9.1	12.5	9.9	7.7	9.4	11.1	7.9×10^3	4.6×10^2	1.6×10^5	2.4×10^4	9.2×10^4	7.9×10^3	4.9×10^2

(備考) 環境基準値は朝見川のみ類型設定あり。観海寺橋の上流はA類型、下流はC類型。(資料…環境安全課)

② 平成 18 年度 別府湾地先海域水質調査結果

調査項目	水 温 (°C)					透 明 度 (m)				
	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖
平成 18 年 5 月 9 日	15.8	16.0	15.4	15.6	16.2	7.0	6.7	7.8	6.8	6.0
平成 18 年 9 月 12 日	25.0	25.0	24.5	25.0	24.5	8.2	8.3	8.0	8.7	9.0
平成 18 年 10 月 17 日	23.1	23.0	23.1	23.1	23.2	7.3	7.7	8.2	7.4	7.3
平成 19 年 1 月 16 日	13.6	13.0	13.1	13.1	13.1	13.0	13.3	13.2	12.7	13.2

調査項目	水素イオン濃度 (pH) (環境基準値：7.8 以上 8.3 以下)					化学的酸素要求量 (COD) mg/ℓ (環境基準値：3mg/ℓ 以下)				
	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖
平成 18 年 5 月 9 日	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	1.9	1.8	1.7	1.6	1.6
平成 18 年 9 月 12 日	8.2	8.1	8.2	8.1	8.1	1.8	1.4	1.5	1.2	1.1
平成 18 年 10 月 17 日	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	1.6	1.5	1.4	1.5	1.4
平成 19 年 1 月 16 日	8.1	8.1	8.1	8.1	8.1	1.6	1.4	1.5	1.4	1.3

調査項目	溶存酸素量 (DO) mg/ℓ (環境基準値：5mg/ℓ 以上)					大腸菌群数 (MPN/100ml) (別府湾地先海域は環境基準値の設定なし)				
	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖	朝見川沖	境川沖	春木川沖	平田川沖	冷川沖
平成 18 年 5 月 9 日	9.0	9.0	8.6	8.8	8.9	1.7×10^1	7.8	1.1×10^1	7.9×10^1	2.0
平成 18 年 9 月 12 日	6.9	6.8	6.9	7.1	6.6	2.0	6.8	1.3×10^1	1.1×10^1	1.3×10^1
平成 18 年 10 月 17 日	7.2	7.2	6.9	7.3	7.2	4.9×10^1	1.7×10^2	1.7×10^1	2.0	1.4×10^1
平成 19 年 1 月 16 日	8.2	8.3	8.2	8.1	8.1	0	7.8	7.8	0	2.0

(資料…環境安全課)

17 ごみの処理状況

①ごみ収集処理実績（直営収集分）

区 分		平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
行政区域内	世帯数	56,832	57,142	57,445	57,792	58,246
	人 口	123,840	123,519	122,930	122,599	122,218
処理区域内	世帯数	56,832	57,142	57,445	57,792	58,246
	人 口	123,840	123,519	122,930	122,599	122,218
処 理 率 (%)		100	100	100	100	100
南畑埋立地 (t)		162	127	117	29	28
藤ヶ谷清掃センター (t)		29,101	28,634	27,867	27,956	27,743
計 (t)		29,263	28,761	27,984	27,985	27,771
増 加 率 (%)		86.93	98.28	97.30	100.00	99.23

②平成 18 年度の不法投棄件数と過去 5 年間との比較表

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
不法投棄件数	126	91	123	142	186
原因者による処理件数	0	3	2	1	0
市による処理件数	126	88	119	137	183
県及び他市町村との共同による処理件数	0	0	0	4	0
不法投棄禁止看板設置数	20	20	20	20	20
可燃物処理量 (kg)	6,550	1,420	2,800	3,630	880
不燃物処理量 (kg)	17,800	8,995	11,680	19,665	9,590
未 処 理 件 数	0	0	2	0	0

③平成 18 年度の空き地管理状況と過去 5 年間の比較表

	平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
指 導 件 数	93	78	88	93	126
指 導 面 積 (m ²)	68,010	46,551	56,640	31,336	76,401
改 善 件 数	73	59	54	73	102
改 善 面 積 (m ²)	57,514	33,349	36,630	23,136	66,622
改善件数率 (%)	78.49	75.64	61.36	78.49	80.95
改善面積率 (%)	84.57	71.64	64.67	73.83	87.20
未 完 件 数	20	19	34	20	24
未 完 面 積 (m ²)	10,496	13,203	20,010	8,200	9,778

（備考）面積の数値は小数点以下の端数を四捨五入したものであり、（改善面積＋未完面積）の合計と指導面積のそれぞれの数値は一致しないことがあります。

（資料…清掃課）

18 愛がん動物等の適正な飼育管理

飼い犬の登録状況及び野犬捕獲状況

年度	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18
飼い犬登録頭数	4,406	4,727	4,891	5,305	5,445	5,790	6,080	6,337	6,508	6,730
野犬捕獲頭数	219	137	115	101	81	94	104	84	52	52

19 環境監視員名簿

(平成19年3月31日現在)

担当地区	氏名
野口	幸晃司
境川	福永悟士
北	利光正敏
青山	栗田正二
西	神恒登士
南	藤田勇
浜脇	島末康人
石垣	後藤初男
春木川	平原六男
上人	井上光平
亀川	浅川勝成
朝日	大野吉彦
大平山	日高清志
鶴見	阿部正義
緑丘	三島馨
南立石	木下保男
東山	三浦位王

(資料…環境安全課)

20 別府市環境施策の推進を図る組織に関する要綱

平成14年4月18日

別府市告示第 77号

(趣旨)

第1条 この要綱は、別府市環境基本計画（以下「基本計画」という。）が定める「望ましい環境像」の実現を目指し、環境施策の推進を図るための組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(エコワーク委員会の設置)

第2条 環境施策の推進を図る組織として、別府市エコワーク委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(委員会の所掌事務)

第3条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 基本計画の推進を図るための実施計画の策定及びその進行管理に関すること。
- (2) 市が事業者又は消費者として環境保全に向けた取組の率先実行のための行動計画である率先実行計画の策定及びその進行管理に関すること。
- (3) その他基本計画の推進に関すること。

(委員会の組織)

第4条 委員会は、委員長、副委員長及び委員をもって組織する。

2 委員会に属すべき委員長、副委員長及び委員は、別表第1に掲げる職にある者をもって充てる。

(委員長及び副委員長の職務)

第5条 委員長は、委員会の会務を総理し、委員会を代表する。

2 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員会の会議)

第6条 委員長は、必要に応じて会議を招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは、委員会の会議に関係職員等の出席を求めることができる。

(エコワーク幹事会の設置)

第7条 委員会は、第3条各号に定める所掌事務を処理するに当たり、当該所掌事務を補助するため、委員会に別府市エコワーク幹事会（以下「幹事会」という。）を置く。

(幹事会の組織)

第8条 幹事会は、幹事長及び幹事をもって組織する。

2 幹事会に属すべき幹事長及び幹事は、別表第2に掲げる職にある者をもって充てる。

(幹事会の会議)

第9条 幹事長は、必要に応じて会議を招集し、その議長となる。

2 幹事長は、必要があると認めるときは、幹事会の会議に関係職員等の出席を求めることができる。

(庶務)

第10条 環境施策推進組織の庶務を処理するため、環境安全課に事務局を置く。

(委任)

第11条 この要綱に定めるもののほか、環境施策の推進を図る組織に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、平成14年4月18日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係）

委員長	生活環境部長
副委員長	総務部長
委員	教育長
	水道局長
	企画部長
	観光経済部長
	福祉保健部長及び福祉事務所長
	建設部長
	議会事務局長
	消防長

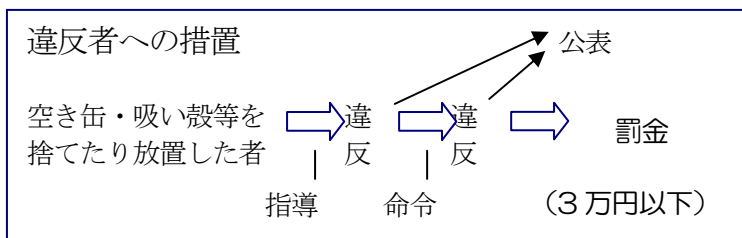
別表第2（第8条関係）

部等	課	備考
総務部	総務課長	
	契約検査課長	
企画部	政策推進課長	
	広報広聴課長	
観光経済部	ONSEN ツーリズム局長	
	ONSEN ツーリズム局観光まちづくり 振興室長	
	ONSEN ツーリズム局温泉振興室長	
	商工課長	
	農林水産課長	
生活環境部	環境安全課長	幹事長
	清掃課長	
福祉保健部及び福祉事務所	社会福祉課長	
建設部	土木課長	
	都市計画課長	
	公園緑地課長	
	建築住宅課長	
	下水道課長	
	建築指導課長	
水道局	管理課長	
教育委員会	学校教育課長	
	生涯学習課長	
	スポーツ振興課長	
消防本部	庶務課長	

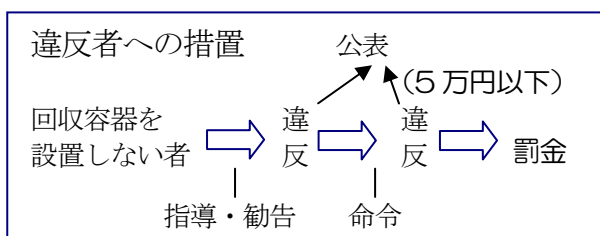
2 1 地域環境美化条例に定める地域

1 空き缶・吸い殻等散乱防止地域

1. 空き缶・吸い殻等のポイ捨ては罰則をもって禁止します。
※空き缶・空きビンは回収容器に投入するか、持ち帰らなければなりません。



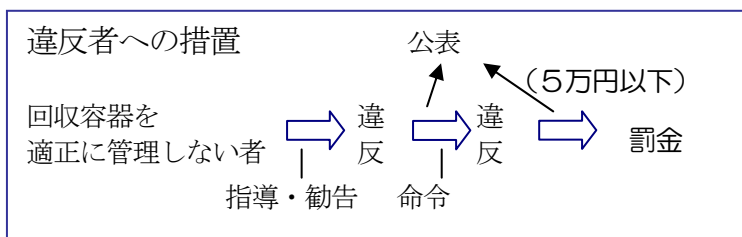
2. 自動販売機等で容器入り飲料を販売するものは、回収容器を設置しなければなりません。



◎ 回収容器の基準

- (1)材質は、金属、プラスチックその他容易に破損しないもの。
- (2)容量は、当該自動販売機等の販売能力に応じた適切なもの。
- (3)回収容器は、自動販売機等の設置場所から5メートル以内で、回収に支障のない位置に設置しなければなりません。

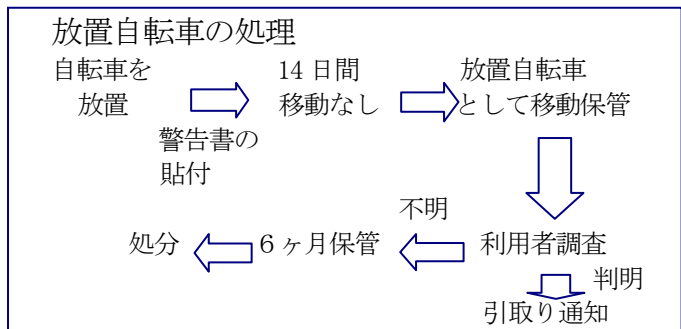
3. 回収容器を設置したら、きちんと管理しなければなりません。



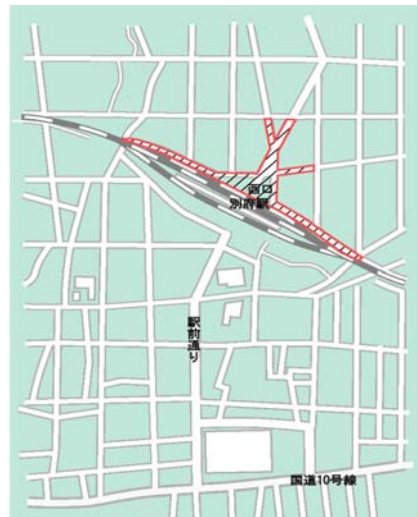
2 自転車放置禁止地域（別府駅西口）

右下の図にある地域内では、自転車について次のような規制があります。

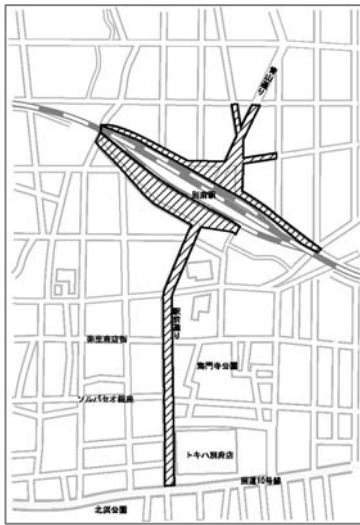
1. 指定地域内に自転車を長期間放置してはいけません。



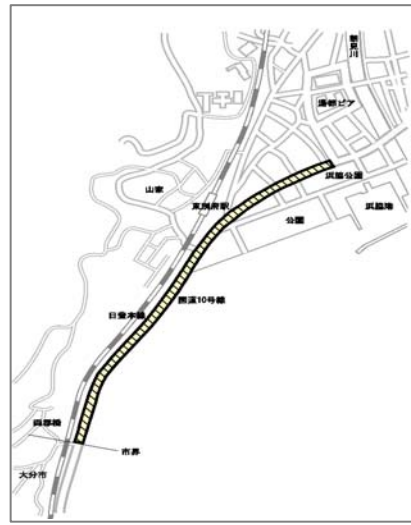
2. 公益的施設などの設置者は、自転車駐輪場を設置するよう努めなければいけません。



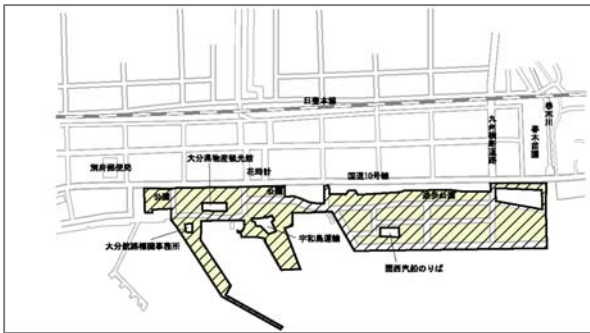
空き缶・吸い殻等散乱防止地域



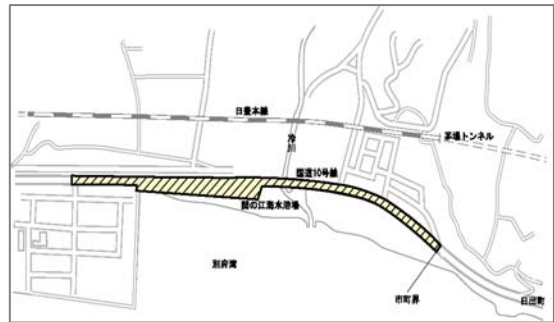
別府駅周辺



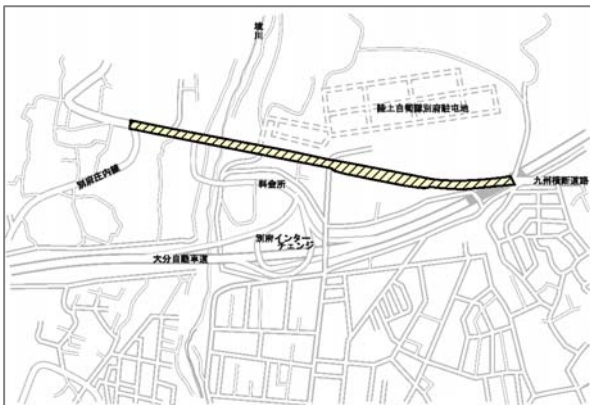
東別府周辺



国際観光港周辺



関の江周辺



別府インター周辺



別府公園周辺

用語解説

《1. 環境全般》

ng (ナノグラム)

10⁻⁹g (1グラムの10億分の1の重さ)。

NGO (Non-Governmental Organization)

非政府組織のことで、非営利の民間団体のこと。環境保全のためには、行政による取り組みだけでなく、民間の自発的な活動が必要であり、民間団体による公益的活動の意義が大きい。

NPO (Non Profit Organization)

法人格をもった、公共サービスをしている民間非営利組織の略称。日本では平成10年に特定非営利活動促進法により法制化された。保健・医療・福祉や環境保全、災害救助など17の分野で活動する団体が含まれる。

pg (ピコグラム)

10⁻¹²g (1グラムの1兆分の1の重さ) であり、ダイオキシン類など環境中に含まれる量が微量であるものを表すのに用いられる。

ppb (parts per billion)

10億分の1を示す単位。

ppm (parts per million)

100万分の1を示す単位。大気汚染や水質汚濁の汚染物質の濃度を表すのに使用する。水 1,000ml に 1mg の物質が溶け込んでいるとき、また、空気 1m³ 中に汚染気体 1cm³ が含まれているとき、それぞれ「濃度 1ppm」という。

PPP (Polluter Pays Principle : 汚染者負担の原則)

「公害防止費用は公害発生の原因者が支払うべきである」という考え。公害対策の基本理念。

PRTR 制度

Pollutant release and transfer register (環境汚染物質排出・移動登録制度) の略で、有害性のある化学物質の環境への排出量及び廃棄物に含まれての移動量を登録して公表する仕組みのこと。行政・事業者・市民が情報を共有しつつ化学物質のリスク管理に役立てようとする環境保全のための新しい手法。OECDは、1996年2月に加盟国がPRTR制度を導入するよう勧告を行っており、我が国においては、ダイオキシン類等の化学物質に対する国民の関心の急速な高まりを背景に、「特定化学物質の排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」が1999年7月に制定され、2001年4月から運用が開始された。法律の対象となる事業者

は、1年間の排出・移動量を把握し、都道府県経路で国に届け出し、国は届け出られた情報について集計・公表等を行うこととなる。

μg (マイクログラム)

10⁻⁶g (1グラムの100万分の1の重さ)。

μm (マイクロメートル)

10⁻⁶m (1メートルの100万分の1の長さ)。

アメニティ

魅力ある環境、快適な環境、または環境の快適さ、等と表現される。元来はイギリスにおいて「環境衛生、快適さと環境美、保存の3つの相を持つ複合概念」として、都市計画の基本的な思想を表すものとされてきたもの。「適切なものが、適切なところにあること」という識者の定義もある。

具体的には、私たちの生活環境を構成する自然や施設、歴史的・文化的伝統と、その中で生活する私たち人間との間に真の調和が保たれているときに生じる好ましい感覚のこと。

閾値 (いきち)

「生体反応が起こる最小の生体刺激の強さ」または「その値以下では地域住民の健康上に悪い影響が起こらない値」のこと。

一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物であり、日常生活に伴って発生するごみやし尿などが含まれる。

上乘せ基準

ばい煙や排水等の規制に対し、都道府県が条例で定める基準で、法で定める規制基準より厳しいものを指す。

外因性内分泌かく乱化学物質 (環境ホルモン)

動物の生体内に取込まれた場合に、本来、その生体内で営まれる正常なホルモン作用に影響を与える、外因性の物質のこと。

ダイオキシン、DDT、PCB、ポリ塩化ジベンゾフランなどの有機塩素系物質の他、ビスフェノールA (ポリカーボネート樹脂の分解生成物)、トリブチルスズ (TBT) など、約70種類が指定されている。

生物によって分解されないため長期間にわたり環境中に残留し、生物に取込まれると体内に蓄積されて高濃度になる (生物濃縮)。しかも食物連鎖を通して上位捕食者になるほど生物濃縮が進み、ホルモンの分泌異常を起こして正常な代謝機能をかく乱し、生殖機能を破壊するなど深刻な症状を引き起こすといわれている。(既に、工業用洗剤の原料として使われたノニルフェノールについては、魚類の生殖器への影響が確認されている。)

環境アセスメント (環境影響評価)

事業者が、環境に著しい影響を及ぼす恐れのある

る事業の実施にあたり、あらかじめ環境への影響について自ら調査、予測または評価を行い、また地域住民等の意見を聴き、環境保全について事業計画案の決定に反映させるもの。

環境基準

「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」（環境基本法第16条第1項）。公害対策を進めていく上で、行政上の目標として定められるものであり、大気汚染・水質汚濁・土壌汚染・騒音について定められている。

工場等のばい煙や、排水・騒音の発生を直接規制する「規制基準」とは違う。

また、国民の健康を適切に保護できる、十分に安全性を見込んだ水準で定められていることから、この基準を超えたからといって、すぐに健康に悪い影響が現れるというものではない。

例えば、水質に係る環境基準には、「人の健康の保護に関する環境基準」「生活環境の保全に関する環境基準」、騒音に係る環境基準には、「騒音に係る環境基準」「新幹線鉄道騒音に係る環境基準」「航空機騒音に係る環境基準」がある。（→「規制基準」参照）

環境基本計画

環境基本法第15条に基づき、政府全体の環境の保全に関する総合的・長期的な施策の大綱などを定めている。21世紀半ばを展望して、環境政策の基本的な考え方と長期的な目標を示すとともに、その実現に向けて、21世紀初頭までの国の施策と地方公共団体、事業者、国民、民間団体に期待される取組みを体系的に明らかにし、各主体の役割、政策手段のあり方などを定めている。

環境基本法

平成5年11月に、それまで四半世紀にわたって続いた「公害対策基本法」にかわって制定された、環境に関する最上位法。今日の環境問題に適切に対処していくためには、社会経済活動や生活様式を見直しながら、多様な手法を活用していくことが必要である。環境基本法はこうした観点から環境政策を進めるための新たな枠組みとなるものである。

環境教育

人間活動による自然破壊や環境への負荷が問題となっている現代において、環境の重要性を認識するとともに、環境を保全するための行動が重要であるという意識を広げることを目的として、学校、家庭、企業等を通じて行う教育のことをいう。

環境の日

1972年（昭和47年）6月にスウェーデンのストックホルムで開催された国連人間環境会議において「人間環境の擁護、向上は人類の至上の目標で

ある」として、「人間環境宣言」が採択され、環境問題が世界共通の重要な問題として認識されることとなった。これを記念して、国連では6月5日を「世界環境デー」として、毎年この日に国際的な活動をおこなうことになった。

日本においても、平成5年に公布施行された環境基本法に基づき、6月5日を「環境の日」としている。「環境の日」は、事業者及び国民の間に広く環境の保全についての関心と理解を深めるとともに、積極的に環境の保全に関する活動を行う意欲を高めるために設けられた。

環境配慮指針

地域における環境保全や創造を図る上で、地域の土地利用に係る行為を行う際に、市民・事業者・市などの各主体が配慮すべき事項を定めた指針。

環境への負荷

人間の活動が環境に与える悪影響。環境基本法第2条第1項において、「環境への負荷」とは、人の活動により環境に与えられる影響であって、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものと定義されている。汚染物質等が排出されることによるもの以外にも、動植物等の自然物が損なわれることによるもの、自然の景観が変更されることによるもの、また、二酸化炭素のように徐々に蓄積して支障を招く可能性のあるものも含まれている。

規制基準

環境基準の達成を目標として、個々の公害発生源を規制するため、遵守しなければならない許容限度のこと。悪臭防止法、騒音規制法、振動規制法に規定されている。（→「環境基準」参照）

揮発性有機化合物（VOC）

常温で揮発しやすい化合物のことで、VOCとはVolatile Organic Compoundsの略。トリクロロエチレンやテトラクロロエチレン、ホルムアルデヒド、トルエン、ベンゼン、キシレンなど、さまざまな物質がある。

協働

まちづくりや環境に関する協力体制を示す言葉で、ここでは市民・事業者・行政が、環境改善についてともに考え、ともに取組みを進めていくことを表す。

グリーン購入

市場に供給される製品・サービスの中から、環境負荷の小さいものを優先的に購入すること。

建設廃材

廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第1条第9号に掲げる産業廃棄物。工作物の除去に伴って生じたコンクリートの破片、れんがの破片、

その他各種の廃材の混合物を含むものであって、土地造成の目的となる土砂に準じたものを除く。

公害

公害とは、環境基本法において、「環境の保全上の支障のうち、事業活動その他の人の活動に伴って生ずる相当範囲にわたる①大気汚染、②水質汚濁（水質以外の水の状態又は水底の底質が悪化することを含む。第16条第1項を除き、以下同じ）、③土壌汚染、④騒音、⑤振動、⑥地盤の沈下（鉱物の掘採のための土地の掘削によるものを除く。以下同じ）、⑦悪臭）によって人の健康又は生活環境（人の生活に密接な関係のある財産並びに人の生活に密接な関係のある動植物及び生育環境を含む。以下同じ）に係る被害が生じること」と定義されている。

上記①～⑦は、通常「典型7公害」と呼ばれる。

公害対策基本法

昭和42年8月に制定され、初めて大気汚染・水質汚濁などの典型7公害を公害として定義し、公害の原因となる事業者・国・地方公共団体の責務、環境基準の設定などを定めた。従来、発生源の工場について個別に問題視していた規制基準を、一定地域を単位とした環境基準で規制し、公害防止の責任を事業者に限って、防止事業の費用負担の原則を規定した。この法律をうけて、昭和45年の公害国会では、大気汚染防止法など公害14法が制定・改定され、翌昭和46年には統一的な公害行政を行うため環境庁が設置された。

この法律は平成5年11月には廃止され、環境基本法にとって代わられた。

公害防止協定

公害防止のひとつの手段として地方公共団体又は住民と企業との間で締結される協定をいう。これらの協定は、法令の規制基準を補完し、地域に応じた公害防止の目標値の設定、具体的な公害対策の明示などを内容とし、法律や条例の規定と並ぶ有力な公害防止対策の手段として広く利用されている。

交通需要マネジメント

自動車利用者の交通行動の変更を促すことにより、都市または地域レベルでの道路混雑を緩和する手法の体系であり、狭義には、ピーク時間帯での一人乗り車通勤を減らすための交通関連施策としてとらえられている。例えば、自動車の効率的利用（共同輸配送等の新しい流通体系の導入や相乗り等の促進等）、手段の変更（公共交通の利便性向上）、時間の変更（フレックスタイムなどの導入による交通量の平滑化）等。

国立公園・国定公園

（国立公園）自然公園法に基づき、わが国の風景を代表するに足りる傑出した自然の風景地（海

中の景勝地を含む）であって環境大臣が同法第10条第1項の規定により自然環境保全審議会の意見を聞き、区域を定めて指定するもの（全国で28区域）。

（国定公園）国立公園に準ずるすぐれた自然の風景地であって環境大臣が同法第10条第2項の規定に基づき、関係都道府県の申し出により、同審議会の意見を聞き、区域を定めて指定するもの（全国で55区域）。

こどもエコクラブ

環境省が全国の小中学生を対象に加入を呼びかけている、自主的に環境に関する学習・活動を行うクラブで、数人から20人程度の仲間とその活動を支える大人（サポーター）で構成される。環境省では、クラブの子供たちが地域の中で楽しみながら環境に関する学習・活動が展開できるように、環境学習プログラムやわかりやすい環境情報の提供を行っている。

再生紙

製紙原料に古紙を配合した紙。急増する紙ごみの減量化や森林資源の保護のため、近年、企業におけるコピー紙や出版物への利用が増加している。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じる廃棄物のこと。燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残渣、ゴムくず、金属くず、ガラス陶磁器くず、鉱さい、動物の糞尿、動物の死体、ばいじん等である。

質的に環境汚染源として重要な意味を持つものであり、その特性に応じて定められた厳しい処理基準に従って処理する必要のある廃棄物である。

市街化区域・市街化調整区域

都市計画区域のうち線引き都市計画区域は、下表のように分類されている。（都市計画法第7条）

区域	説明	
市街化区域	既成市街地	すでに市街を形成している区域
	新市街地	おおむね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域
市街化調整区域	市街化を抑制すべき区域。開発行為及び建築行為には厳しい規制がなされている。	

自然環境保全法

昭和46年に環境庁（当時）が設置されたのを機に、国土全般にわたる自然環境の保全の基本方針を明らかにすることなどを目的に制定された法律である。

自然環境保全法は、自然環境保全基本方針の閣議決定、自然環境保全基礎調査の実施等の基本法

的性格の部分と自然環境保全地域等の指定の実施法的性格の部分の2つからなる。

指定文化財

文化財保護法、文化財保護条例などにより規定された文化財で、有形文化財、無形文化財、民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物、伝統的建物群のうち、特に重要なもので保存の必要のあるものを指定し、保護と活用が図られているものを指す。

地盤沈下

主として地下水の過剰揚水によって発生するが、そのメカニズムについてはまだ解明されていない。しかし、沈下現象の把握がしにくいこと、沈下が始まると急速に進む可能性が大きいこと、一旦沈下すればほとんど回復しないことなど問題点が多く、地域の水需要の動向と併せて解決は難しい。

親水空間（親水公園）

水辺に近づける、水を活かした環境整備。水にふれ親しむことができる空間、公園。

水源涵養林

森林が有する機能（樹木、落葉及び森林土壌の働きにより、降水を効果的に地中に浸透させ、長期にわたり貯留、流下すること）により、洪水調整、渇水緩和等河川流量の平準化を図ることを目的とした森林。

生活環境

大気、水、空間などによって構成される、人の日常生活の場としての環境を意味し、人の生活に密接な関係のある財産並びに動植物及びその生育環境も含まれる。

生態系

ある地域に生息する生物群集（同じ場所で生活しているいろいろな種の個体群）とそれを取巻く無機的環境（気象・土壌・地形・光・温度・大気など）をあわせた一つのまとまり。

生態系は、生産者、消費者、分解者及び還元者から構成され、無機物と有機物との間に物質代謝系が成立している。自然環境を基準にして陸地生態系、海洋生態系等に区別され、また生物群を基準にして森林生態系、鳥類生態系等に区別されている。

総量規制

環境基準を達成するため、地域ごとに許容排出量を設定し、工場・事業場等に対して汚染（汚濁）物質の許容排出量をもって規制する方法である。

濃度規制では、薄めれば基準に合うこともあるが、総量規制では絶対量が規制される。

第1次産業、第2次産業、第3次産業

業態の似通った各活動分野の単位。

第1次産業：農林水産業など。

第2次産業：鉱業・建設業・製造業など。

第3次産業：運輸・金融・商業・サービス業など。

鳥獣保護区

野生鳥獣の保護増殖を図るため、狩猟行為が禁止されている区域である。鳥獣保護区内に設けられる特別保護地区内では、野生動植物の生息に影響を及ぼす行為は許可が必要である。

透水性舗装

舗装帯の貯留と路床の浸透能力によって、雨水を地表へ浸透させる舗装のことで、雨水の流出抑制や地下水の涵養などの効果がある。

特定施設

公害規制法令で規制の対象になっている施設で、汚水を排出する施設、大気汚染物質を発生する施設、騒音・振動を発生する施設等をいう。

都市計画区域

都市計画法に基づく法的な規制が及ぶ土地の範囲で、土地利用・都市施設・市街地開発事業等の都市計画を策定すべき対象地域。

都市計画法

都市計画の内容、法定手続など都市計画に関し必要な事項を定めた法律である。

都道府県知事による特定市町村の総合的整備、開発、保全を必要とする都市計画区域の指定、現況及び将来の見通し等に関する基礎調査の実施、無秩序な市街化を防止するための都市計画における市街化区域・市街化調整区域の指定、市街化区域・市街化調整区域等都市計画の策定、関係市町村及び都市計画地方審議会の議を経ての都市計画の決定、決定時の都市計画の告示等、両区域内における開発行為などの許可、開発許可を受けた土地における建築等の制限、国土交通省内への都市計画に関する重要事項を調査審議する都市計画中央審議会、都道府県への都市計画地方審議会の設置などを定めている。

土壌汚染

土壌が次のものによって汚染されることをいう。

- ①重金属、酸性降下物によるもの
- ②農薬、肥料によるもの
- ③除草剤などの農薬によるもの
- ④ごみの不衛生処分によるもの

なお、「農用地の土壌の汚染防止等に関する法律」では、特定有害物質として、カドミウム、銅、ヒ素及びその化合物が指定されている。また、平成3年8月に「土壌の汚染に係る環境基準」が定められた。

土壌汚染対策法

土壌汚染の状況の把握に関する措置及びその汚

染による人の健康被害の防止に関する措置を定めること等により、土壤汚染対策の実施を図り、もって国民の健康を保護することが目的。

人の活動に伴って生ずる土壤の汚染が対象であり、温泉のような自然的原因によって土壤に有害物質が含まれても、同法の対象とはならない。

農業振興地域（農振地域）

農業振興地域の整備に関する法律（農振法）に基づき、農振地域の保全、形成や農業振興施策の計画的な推進を図るため都道府県が指定する地域をいう。農振地域においては農業振興地域整備計画が定められ、農用地として利用すべき土地の区域である農用地区域が指定されている。農用地区域では開発行為の規制、土地利用の勧告等の土地利用規制がかかる。

パートナーシップ

市民、行政、企業、NPO等の各主体が公平で平等な関係を築き、公平な役割分担のもとに連携して環境保全に取り組むこと。

光害（ひかりがい）

良好な照明環境の形成が、漏れ光（照明器具から照射される光のうち、その目的とする照明対象範囲外に照射される光）によって阻害されている状況またはそれによる悪影響をいう。過度の夜間照明の使用は、農作物の生育や、ホタル、ウミガメ、鳥類等の育成に悪影響を及ぼす。また、照明により夜空が明るくなり天文観測が困難になることも光害の一つである。夜間の屋外照明は安全確保や防犯のために不可欠であるが、不適切な照明は、周辺環境に悪影響を及ぼす可能性があるのみならず、エネルギーの浪費にも結びつく。

風致地区

都市の自然の風致（趣、味わい）を維持することを目的として都市計画区域内に定められた地区をいう。同地区では、都市計画法第58条及び風致地区内における建築物等の規制に関する条例により、建築物の新築、改築、増築、宅地の造成、木竹伐採などの行為について、知事の許可が必要とされている。

複合汚染

通常各種の汚染物質による汚染が重複して生ずる環境汚染形態を指し、単一汚染という概念に対応するものである。例えば、古い型の汚染ともいふべきばいじんによる大気汚染と、新しい型の汚染ともいふべき硫黄酸化物（SO_x）や自動車排出ガス（CO、Pb等）による汚染とが重なり合っているような場合である。複合汚染による公害はより深刻である。

保安林

昭和26年に制定された森林法第25条で指定さ

れる森林のこと。水源の涵養、土砂の流出の防備、土砂の崩壊の防備、飛砂の防備、風害・水害・潮害・干害・雪害・霧害の防備、なだれ又は落石の危険の防止、火災の防止、魚つき、航行の目標の保存、公衆の保健、名所又は旧跡の風致の保存を目的に達成するために必要があるとき、農林水産大臣が指定する。

用途地域

都市において、計画的な土地利用を進め、種々雑多な建築物が混在するのを防ぐため、建築物の用途によって地域を区分したもの。

用途地域内の建築物・工作物は、建築基準法により種々の制限が加えられている。

ライフスタイル

生活様式、生きざま。大量生産・大量消費・大量廃棄型社会の今日では、自分に合った生活様式、多様な生活様式が好まれる。このような個性的な生活様式（ライフスタイル）が環境問題との関わりが深い。

リサイクル（recycle）

再循環させること、再生利用することという意味から、もう一度資源として利用し再生して使用することを意味する。

リデュース（reduce）

減少する、下げるという意味から、ごみの発生源となる行動を抑制し、根本からごみの減量をすること。

リユース（reuse）

再び利用すること、再利用を意味することから、製品をそのまま、もしくは修理するなどして再び使用すること。

《2. 大気関係》

2%除外値（98%値）

大気汚染物質の年間の測定値（日平均値）を小さいほうから順番に並べて、高いほうから2%を除いた値（98%値）であり、環境基準を達成しているかどうか（長期的評価）を判定する際に用いる。

mg/m³

1m³の大気中に含まれる粉じん等の重量を示す単位。1mgは1gの千分の1（10⁻³g）。

β線吸収法

β線が物質の質量に比例して吸収されることを利用したもので、大気中の浮遊粒子状物質をろ紙上に捕集したうえで、β線を照射してその透過強度を測定し、浮遊粒子状物質の質量濃度を測定する方法。

硫黄酸化物 (SO₂)

重油や石炭などの化石燃料に含まれている硫黄分が燃焼により酸化されて発生するガス。

代表的なものは二酸化硫黄 (SO₂、亜硫酸ガス)、三酸化硫黄 (SO₃、無水硫酸)。二酸化硫黄については環境基準が定められている。

人体に対しては、特に呼吸器への影響が大きい(慢性的あるいは急性の障害を引き起こす)。

測定方法としては、大気中の二酸化硫黄を過酸化水素水の含まれた吸収液に通すと硫酸が生じ、吸収液の導電率が変化することを利用した方法が一般的である(環境基準に規定された方法)。この他、アルカリろ紙法や二酸化鉛法等の簡易な測定法もある。

一酸化炭素 (CO)

有機物が不完全燃焼したときに発生する炭素の酸化物で、主に自動車排気ガスに含まれる無色無臭のガス。血液中のヘモグロビンと強く結合し、酸素の供給を阻害することで、頭痛・めまい等の症状が現れ、呼吸困難から死に至ることもある。

オゾン・オゾン層

オゾン (O₃) は、空気または酸素中で放電現象が起きるときや、紫外線の照射、黄リンが空気中で酸化する場合等に発生する、酸化性の強い、臭気のある気体。

強い殺菌力を持ち、人体や植物に有害な光化学スモッグの原因となるオキシダントの主成分とされる。

しかし、成層圏(地表から15~35km上空)においては、オゾンが高濃度に存在する層(オゾン層)があり、太陽から来る紫外線のうち、特に生物に有害な波長のものを吸収し、また成層圏を温めたりして、生態系にとって不可欠な働きをしている。(→「オゾン層の破壊」《7. 地球環境関係》参照)

光化学オキシダント (O_x)、光化学スモッグ

大気中の窒素酸化物や炭化水素が、太陽の紫外線により光化学反応を起こしてつくられるオゾン、PAN(パーオキシアセチルナイトレート)等の酸化性物質の総称を「光化学オキシダント」という。ヨウ化カリウム溶液と接触させると、ヨウ素を遊離させる性質を持つ。

この光化学オキシダントが原因となって起きる大気汚染が「光化学スモッグ」である。

特に夏季、日差しが強く、温度が高く、風の弱い日に発生しやすく、その影響は、目がチカチカする、ノドが痛くなるなどの人的なもの、他、視程障害、植物を枯らすなど、広域にわたる。

降下ばいじん

大気中の汚染物質のうち、自己の重量により、または雨滴に含まれて地上に落下するばいじん、粉じん等をいう。降下ばいじんは、デポジットゲージ等の採取器具で捕集し、不溶解性物質(水に

溶解しないもの)と溶解性物質に分けて分析する。

ザルツマン試薬比色法、ザルツマン係数

ザルツマン試薬比色法は、試料大気中の二酸化窒素とザルツマン試薬の反応によって生じるアゾ染料の着色度によって二酸化窒素を測定する方法のことである。

また、ザルツマン定数は、二酸化窒素の測定に用いられる定数で、二酸化窒素が吸収液(ザルツマン試薬)と反応する割合である。二酸化窒素の環境基準では、0.84が採用されている。

酸性雨

工場や自動車から排出された硫黄酸化物や窒素酸化物が大気中で硫酸や硝酸に変わり、それが酸性の降下物(雨)として降ることを指す。

ただし、雨は通常の状態でも空気中の二酸化炭素が溶け込むため、pH5.6付近の弱い酸性を示す。このため、酸性雨とはpHが5.6以下になった雨のことをいう。

広義には、霧や雪を含む湿性沈着、ガスやエアロゾルの形態で生じる乾性沈着も含める。

西欧諸国には、酸性雨によって森林が枯れたり、湖沼の魚が死滅したりする等、被害が顕在化しているところもある。

自動車排気ガス

わが国で走行している自動車の大部分は石油系燃料を動力源としており、機関の運転等に伴って発生したガスは、一部を除きそのまま大気中に放出されている。自動車排気ガスには、排出管から出る燃料排出ガスのほか、クラックケースから出るブローバイガス、燃料供給系から出る蒸気ガス等がある。

これらの排出ガス中には、一酸化炭素、窒素酸化物、炭化水素等の有害な物質が含まれている。

大気汚染に係る環境基準

人の健康を保護し、生活環境を保全するうえで維持されることが望ましい大気の基準。

二酸化硫黄、二酸化窒素、光化学オキシダント、浮遊粒子状物質、一酸化炭素、ベンゼン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、ジクロロメタン、ダイオキシン類、以上10物質について定められている。

大気汚染に係る環境基準は、工業専用地域、車道その他一般公衆が通常生活していない地域または場所については、適用されない。

大気汚染防止法

工場等からのばい煙の排出を規制するとともに、自動車排気ガスの許容限度を定めること等により大気汚染を防止するため制定された法律。環境大臣の都道府県に対するばい煙排出基準の設定及び変更に関する勧告、都道府県による指定ばい煙総量削減計画及び総量規制基準の制定、ばい煙排

出者に対する施設の改善命令、都道府県知事に対する石綿その他健康被害を生ずるおそれのある特定粉じん発生施設を設置しようとする者の届出、都道府県知事の規制基準に適合しない特定粉じん発生施設設置者に対する計画変更命令、環境大臣の自動車排気ガス許容限度量の設定、都道府県知事の大気汚染の常時監視、健康被害物質の大気中の排出による事業者の損害賠償責務などについて定めている。

炭化水素 (HC)、非メタン炭化水素 (NHC)

炭素と水素からなる化合物の総称で、光化学オキシダントの原因物質の一つ。主な発生源としては、塗装・印刷工場、重油等の貯蔵タンク、自動車等がある。環境基準は設定されていないが、中央公害対策審議会（当時）により光化学オキシダントの生成を防止する観点から、非メタン炭化水素についての指針値が示されている。

環境大気中では炭化水素のうちかなりの量をメタンが占めているが、メタンの光化学反応性は無視できるため、大気汚染物質として考えるときには、メタンを除いた非メタン炭化水素についてのみ扱う。（→「メタン」《7. 地球環境関係》参照）

短期的評価、長期的評価

（短期的評価）監視を行った時間の1時間値、または1時間値の1日平均値の数値と環境基準とを対比して評価すること。

（長期的評価）年間の測定結果を長期的に見て評価すること。1日平均値の高いほうから2%を除外した数値や、年間1日平均値の低いほうから98%値と環境基準とを対比して評価する方法。地域の大気汚染に対する施策の効果等を的確に判断する目的がある。

窒素酸化物 (NO_x)

物の燃焼や化学反応によって生じる、窒素と酸素の化合物の総称。高温燃焼の過程で、まず一酸化窒素 (NO) として大気中に放出され、酸素と結びついて二酸化窒素 (NO₂) となる。酸素と結びつく反応は遅いため、大気中では両者の混合物として存在している。

発生源は工場・事業場、自動車から家庭の厨房施設など、多種多様である。人の健康に悪影響を及ぼす (NO…血液中のヘモグロビンと結合して酸素の供給を阻害、中枢神経の麻痺を起こす。NO₂…粘膜への刺激作用があり、呼吸器及び肺に悪影響がある) ほか、光化学オキシダントの原因物質ともなっている。

環境基準は、NO₂について定められている。

テレメータシステム

環境中の汚染物質の濃度などを自動測定器で測定し、そのデータを専用電話回線や無線を利用して監視室に送信し、監視室のコンピュータで集中管理するシステムをいう。このシステムは、環境

監視用と発生源監視用の2種類がある。

二酸化硫黄 (SO₂)

燃料中の硫黄分が酸化燃焼された時生じる無色刺激性のガス。金属腐食性であり、還元性が強い。

繰り返し曝露した場合、歯牙酸食、気管支炎、ぜんそく、胃腸障害、結膜炎、味覚・嗅覚障害、全身疲労、さらにこうじると酸欠症による症状が現れる。

二酸化鉛法

大気中の硫黄酸化物測定方法の一つ。円筒に二酸化鉛を塗布した布を巻きつけ、これをシェルターに入れて通常1か月間大気中に静置しておくことにより、硫黄酸化物が硫酸鉛として固定される現象を利用したものである。

測定結果は、SO₂mg/日/100cm²で表す。

ばい煙、ばいじん

大気汚染防止法では、燃料その他の物の燃焼、合成、その他の処理に伴い、工場等の煙突から排出される硫黄酸化物、ばいじん及び有害物質を「ばい煙」という。

このうち、ばいじんは、ボイラー、電気炉等から発生するすすや固体粒子をいう。（→「硫黄酸化物 (SO_x)」、「有害物質」参照）

排出基準

大気汚染防止法で定められた排出基準は、個々の工場、事業場から排出される汚染物質の許容限度を定めたものである。

（同じ趣旨のものを、水質汚濁防止法では「排水基準」、騒音規制法・悪臭防止法では「規制基準」と表現している）

浮遊粒子状物質 (SPM)

浮遊粉じん（大気中に気体のように長時間浮遊しているばいじん、粉じん等の微粒子）のうち、粒径が10μm以下のものをいう。（環境基準で定めている）

都市の場合、主な成分は炭素分やタール分である。この粒子は非常に小さく、自分の重さでは落下せずに浮遊するため、風の弱い時は濃度が増し、風が強くなると拡散して濃度は下がる。

粉じん

通常、ほこり等の空気中の固体物質をいう。大気汚染防止法では、自然現象のほかに物の粉砕、選別その他の機械的処理または堆積に伴って発生・飛散する物質をいい、施設の構造並びに使用及び管理に関する基準による規制を受ける。

ベンゼン (C₆H₆)

無色の液体で特有のにおいがある。最も基本的な芳香族炭化水素。亀の甲型の平面正六角形構造を持つ。合成ゴム、合成洗剤、医薬品、香料、爆

葉などのあらゆる有機化合物の原料として利用される。

低濃度の曝露では骨髄における造血機能障害になり、貧血、歯根出血などが起きる。高濃度の曝露では麻酔作用が起きる。

平成9年2月4日に、環境基本法第16条第1項の規定に基づき、大気中における環境基準が定められた。

有害物質

大気汚染防止法に定めるばい煙のうち、物の燃焼、合成、その他の処理に伴い発生する物質で、カドミウム及びその化合物、塩素及び塩化水素、フッ素、フッ化水素及びフッ化珪素、鉛及びその化合物、窒素酸化物の5物質が定められている。(→「ばい煙、ばいじん」参照)

《3. 水質関係》

BOD (生物化学的酸素要求量 : Biochemical Oxygen Demand)

水中の汚濁物質(有機物)が微生物の働きによって分解されるときに消費される酸素の量をいう。通常20℃、5日間で消費された酸素の量(単位: mg/L)を表したものである。

河川等の有機汚濁を測る代表的な指標である。河川に魚が生息するのはBOD5mg/L以下とされ、BOD10mg/Lを超すと悪臭が発生する。

COD (化学的酸素要求量 : Chemical Oxygen Demand)

水中の有機物を化学的に酸化し安定させるのに必要な酸素の量(単位: mg/L)を表したもので、CODの数値が高いほど水質汚染が進んでいることを意味する。海域、湖沼、事業場排水等の代表的な汚濁指標である。

DO (溶存酸素 : Dissolved Oxygen)

水中に溶けている酸素の量(単位: mg/L)を表したもので、水質汚濁の指標の一つ。溶存酸素は水の自浄作用や水生生物にとって必要不可欠なものであり、数値が小さいほど水質汚濁が激しい。

普通、きれいな河川のDOは8~9mg/Lの状態にあり、魚介類が生息するには5mg/L以上が必要とされている。

mg/L

水1Lの中にその物質が1mg含まれていること。ppmとほぼ同じ値を示す。

n-ヘキサン抽出物質(油分)

n-ヘキサン(ノルマルヘキサン: 脂肪族炭化水素)で抽出される油分。油分等には、塗料・潤滑油等の鉱物性油、植物性油等がある。油分は、農作物や水産物の表面に付着することで、その生育や商品価値に悪影響を与える。海域における環境

基準の項目に設定されている。

PCB (ポリ塩化ビフェニル)

不燃性で熱に強く、絶縁性に優れていることから、絶縁油、熱媒体、塗料など多方面に使用された。摂取した場合、分解されにくく残留するため脂肪組織に蓄積され、皮膚障害や肝障害を引き起こすことが知られている。環境ホルモンの一種。特に、コプラナーPCBは毒性が強く、ダイオキシン類対策特別措置法において、ダイオキシン類の一つに数えられている。

カネミ油症事件の原因物質として注目され、大きな社会問題となったため、現在わが国では製造・使用が禁止されている。

水質汚濁の環境基準値は「検出されないこと」となっている。(→「ダイオキシン類」《6. ダイオキシン類関係》参照)

pH (水素イオン濃度指数 : Hydrogen ion exponent)

水質の酸性やアルカリ性の程度を示す指標で、水素イオン濃度[mol/L]の逆数の常用対数をpH0~14の数値で示したもの。pH7が中性を示し、それ以上の数値はアルカリ性、それ以下は酸性を示す。富栄養化の進んだ水域では、藻類などの炭酸同化作用により強いアルカリ性を示すことがある。自然水のpHは、通常6.5~8.5の範囲にある。

SS (浮遊物質 : suspended solid)

粒径2mm以下の、水に溶けない懸濁性の物質をいう。水質汚濁の指標の一つ。水の濁りの原因となるもので、魚類のエラをふさいでへい死させたり、日光の透過を妨げることで水生植物の光合成作用を妨害するなどの有害作用がある。

また、有機性浮遊物質の場合は河床に堆積して腐敗するため、底質を悪化させる。

亜鉛 (Zn)

主に亜鉛めっき、黄銅、ダイキャストなどの原料として使われ、鉱山廃水、これらの金属を取扱う工場の廃水から検出される。

ヒトへの毒性は比較的弱い、水生生物への毒性が強いため、平成15年に「水生生物に係る水質環境基準」の基準項目として基準値が設定された。

飲料水の許容量は1mg/L以下、排水基準は5mg/L。

赤潮

海中のプランクトンが異常繁殖し、海水の色が赤褐色に変わる現象。発生のメカニズムは完全に究明されていないが、海洋沿岸や河川の注ぐ湾内に、しかも雨後に強い日射と海面の静かな日が続く時に発生しやすい。

海水中の窒素・リン等の栄養塩類濃度、自然条件の諸要因が相互に関連して発生していると考えられている。

魚介類に対する被害の原因として、(1)赤潮プランクトンが魚介類のエラに詰まって窒息する。(2)

赤潮プランクトンの細胞分裂のため、海中中の DO が不足する。(3)有害物が赤潮プランクトンにより生産排出される。(4)細菌が増殖する。などの諸説がある。

栄養塩類

富栄養化の 1 つの指標物質で、藻類その他の水生植物が増殖をもたらすための必要な各種元素である。藻類その他の水生植物が要求する物質として、窒素、リン、硫黄、マグネシウム、鉄等の物質があるが、藻類生産を制限しやすい物質、すなわち窒素、リン（藻類増殖の最小律）が富栄養化の栄養塩とされている。

汚泥（スラッジ）

工場排水等の処理後に残った泥状のもの、及び各種製造業の製造工程において生じた泥状のもの。有機性及び無機性のものすべてを含む。

活性汚泥法

有機性汚水に空気を吹き込むと、その汚水に適した好気性の微生物が繁殖し、フロックを形成するようになる。通気を止めるとフロックは急速に沈降し、透明な処理水が得られる。このフロック状のスラッジは、汚水中のコロイド状あるいは溶解性の有機物を吸着し、酸化分解する。この現象と作用を利用して汚水を好氣的に浄化する方法を活性汚泥法という。

合併処理浄化槽

生活雑排水とし尿を合わせて処理する浄化槽のこと。公共用水域に流れ込む汚れの量を、単独処理浄化槽の 8 分の 1 に減少させる性能があり、下水道終末処理施設と同程度の処理水が望める。（→「浄化槽」参照）

下水道

「生活環境の改善や公共用水域の水質保全を図るため、一般家庭や事業所等から排出される汚水及び雨水を排除するための管渠、ポンプ場及び汚水処理場から構成される施設」のこと。

公共下水道（次項）、流域下水道（2 つ以上の市町村にまたがり広域的に整備するもの）のほか、特定環境保全公共下水道・農村下水道（市街地以外を対象に、目的に応じて整備するもの）などがある。

健康項目

人の健康の保護に関する項目で、有害物質を示すもの。現在、26 項目に関して、河川等の公共用水域に定められている。

公共下水道

主として市街地における下水を排除し、又は処理するために地方公共団体が管理する下水道で、終末処理場を有するもの、又は流域下水道に接続

するものであり、かつ、汚水を排除すべき排水施設の相当部分が暗渠である構造のものをいう。（下水道法第 2 条第 3 項）（→「下水道」参照）

公共用水域

水質汚濁防止法では、「河川、湖沼、港湾、沿岸海域その他公共の用に供される水域及びこれに接続する公共溝渠、かんがい用水路その他の公共の用に供される水路（下水道法に規定する公共下水道及び流域下水道であって、終末処理場を設置しているもの（その流域下水道に接続する公共下水道を含む。）を除く。）」と定義されている。処理場のない下水道は公共用水域となる。

合成洗剤

洗剤には、ヤシ油等の原料から作られる「石けん」と、鉱油や動植物油から合成して作られる「合成洗剤」の 2 種類がある。合成洗剤は、界面活性剤と助剤からなり、硬水でも使用できる等利便性があることから幅広く使われている。

界面活性剤による皮膚障害の安全性や、助剤に含まれるリン酸塩による閉鎖性水域での富栄養化が問題にされ、合成洗剤の低リン化、無リン化などの対策が進められた。

自浄作用

河川などが汚濁された場合、時間の経過に伴って元の清澄な水質に戻る現象をいう。微生物による分解等の生物的なもの、沈殿・希釈拡散などの物理的なもの、酸化作用などの化学的なのが、因子として考えられる。

重金属

比重 4.0 以上の金属。カドミウム、水銀、クロムなど、生体にとって有害なものが多いが、微量元素として必要なものもある。

浄化槽

し尿等を微生物の作用による腐敗または酸化分解等の方法によって処理し、公共用水域等に放流するための設備または施設をいう。し尿のみを処理する設備または施設を単独処理浄化槽、し尿及び生活雑排水（厨房排水、洗濯排水等）を併せて処理する設備または施設を合併処理浄化槽という。（→「合併処理浄化槽」参照）

水域類型指定

水質基準に係る環境基準のうち、生活環境の基準については河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区切って AA、A、B、C、D、E の 6 つの類型を設けている。

pH、BOD 等の項目について、それぞれの水域類型ごとに環境基準値を定め、各公共用水域に水域類型の当てはめを行うことにより、当該水域の環境基準値が具体的に示される。

水質汚濁に係る環境基準

水質汚濁に係る環境基準は「人の健康の保護に関する環境基準」と「生活環境の保全に関する環境基準」とがある。

前者は、8 項目の指定に始まり、現在までに 26 項目が指定されている。

この基準は全ての公共用水域に一律に適用され、直ちに維持達成されるべきものとなっている。

生活環境の保全に関する環境基準は、河川・海域・湖沼の水域ごとに利水目的に応じてそれぞれ種類の指定が行われ、10 項目が定められている。(→「生活環境項目」参照)

水質汚濁防止法

昭和 45 年に制定された法律で、「工場及び事業場から公共用水域に排出される水の排出を規制すること等によって公共用水域の水質の汚濁の防止を図り、もって国民の健康を保護するとともに、生活環境を保全する」ことを目的としている。

水質基準

一般に水質を保全するための基準としては、「公共用水自体の水質が、人の健康の保護ならびに生活環境保全のために維持されることが望ましい」基準として定められる環境基準と、この基準を達成するため、工場等を規制するものとして定められる排水基準とがある。(→「環境基準」《1. 環境全般》、「排水基準」参照)

水生生物による水質調査

川には、サワガニ、トビケラ、ヘビトンボ、カワゲラなどの水生生物が生息しており、これらの生息の状況が水の汚れとも密接に関連していることから、生物を指標とすることによって、川の水質を調査することができる。

I きれいな水	II 少しきたくない水
アミカ	イシマキガイ
ウズムシ	オオシマトビケラ
カワゲラ	カワニナ
サワガニ	ゲンジボタル
ナガレトビケラ	コオニヤンマ
ヒラタカゲロウ	コガタシマトビケラ
ブユ	スジエビ
ヘビトンボ	ヒラタドロムシ
ヤマトビケラ	ヤマトシジミ
III きたくない水	IV 大変きたくない水
イソコツブムシ	アメリカザリガニ
タイコウチ	エラミミズ
タニシ	サカマキガイ
ニホンドロソコエビ	セスジユスリカ
ヒル	チョウバエ
ミズカマキリ	
ミズムシ	

生活環境項目

生活環境の保全に関する環境項目は、水素イオン濃度 (pH)、生物化学的酸素要求量 (BOD)、化学的酸素要求量 (COD)、浮遊物質 (SS)、溶存酸素 (DO)、大腸菌群数、n-ヘキサン抽出物質 (油分)、全窒素、全リン、全亜鉛の 10 項目について、河川、湖沼、海域別に各利水目的に応じて設けられた数個の水域類型ごとに定められている。(→「水質汚濁に係る環境基準」参照)

生活排水

炊事、洗濯、風呂の排水等、日常生活に伴って家庭から出る排水のこと。し尿は含まれないが、し尿等を浄化槽から放流した水は含まれる。

瀬戸内海環境保全特別措置法

「瀬戸内法」とも呼ばれる。水質汚濁防止法などの従来の規制の方式によっては、「わが国のみならず世界においても比類のない美しさを誇る景勝地として、また、国民にとって貴重な漁業資源の宝庫として、その恵沢を国民がひとしく享受し、後代の国民に継承すべき」瀬戸内海の環境保全を図ることが不十分であったことに鑑みて制定・施行されたもの。

この法律の目的は、①瀬戸内海環境保全基本計画及び府県計画の策定等に関し必要な事項を定め、②特定施設の設置の規制、富栄養化による被害の発生の防止、自然海浜の保全等に関し特別に措置を講ずることにより、瀬戸内海の環境の保全を図ることである。

大腸菌群数

大腸菌とは、「グラム陰性・無萌芽性のかん菌で乳糖を分解し、ガスを発生する好気性・通性嫌気性の細菌」の総称。大腸菌群数の数値が高いということは、人畜の排泄物によって汚染されている可能性があるため、衛生上の指標となる。

環境水等の低汚染の水には、最確数試験 (推計学的に最も確からしい数を求め、試料 100mL 中の大腸菌群数 [MPN 数] として表示する方法) が用いられる。(MPN=Most Probable Number)

排水等の汚染度の高い水にはデオキシコレート寒天培地法が用いられる。

(単位として「 $2.4E+05$ 」のように、 $aE+b$ と書かれることがあるが、これは $aE+b=a \times 10^b$ を示すもの。例えば $2.4E+05$ であれば 2.4×10^5 、つまり 240,000 を示す)

底質

河川、湖沼、海域等の水底を形づくっている粘土、シルト、砂、礫などの堆積物や岩のことをいう。貝類や水生昆虫類、藻類をはじめとした底棲動物の生活の場でもある。

水質汚濁の進行に伴い、有機物質や重金属類などが沈積し、底質中に蓄積される。このため、底質を調べることで、汚濁の進行傾向や速度につい

て、有用な情報が得られる。

また、一度底質に移行した各種物質の一部が、溶出や、まき上がり現象によって再び水質に対して大きな影響を及ぼすことが知られている。

テトラクロロエチレン (CH₂=CH₂)

有機塩素系溶剤の一つであり、ドライクリーニング、金属の脱脂洗浄、一般溶剤として使用されるが、地下水の汚染が懸念され、水質汚濁防止法により規制される。中毒症状として、めまい、肝機能障害などがある。

(平成9年2月4日に、環境基本法第16条第1項の規定に基づき、大気中における環境基準が定められた。)

透視度

水の濁りや着色の度合いを示す指標。透視度計の底部にある標識板が明らかに識別できるときの水層の高さ (cm) を度数で表わす。数値が小さいほど水が濁っていることを示す。

透明度

水の濁り具合を示す指標。透明度板 (セッキ板) を水中に沈め、それが周囲と区別できなくなる深度をメートルで示す。一般に海域・湖沼で用いられる。

トリクロロエチレン (CHCl=CCl₂)

有機塩素系溶剤の一つであり、ドライクリーニングや金属の脱脂洗浄などに使われる。無色、クロロホルム臭。地下水の汚染が懸念されるため、水質汚濁防止法により規制を受ける。高濃度に曝露した場合には麻酔作用があり、低濃度の場合には酩酊作用がある。肝臓や腎臓に障害をもたらすことがある。

(平成9年2月4日に、環境基本法第16条第1項の規定に基づき、大気中における環境基準が定められた。)

鉛 (Pb)

鉛及び鉛化合物は古くから有害物質として知られている。少量摂取では食欲不振、頭痛、全身倦怠感、貧血等の症状を起こす。多量の摂取があったときは急性中毒が起き、腹痛、嘔吐、下痢、閉尿、激しい胃腸炎などの症状を起こし、死に至ることもある。金属鉛は常温で蒸発しないが、粉じんとして吸収、あるいは経口的に摂取する恐れがある。

かつては自動車のアンチノック剤として四エチル鉛が使用された。

現在の主な発生源は顔料・塗料化学工場、鉛電池製造業などである。

水道水基準は0.05mg/L以下、環境基準 (水質) 0.01mg/L以下、排水基準0.1mg/L以下。

大気汚染防止法による排出基準は、鉛及びその化合物について、ガラス製品の製造20mg/N%、鉛、

銅、亜鉛の精錬溶鉱炉等 10~30mg/N%となっている。

農薬類

農薬類は農作物に被害を及ぼす生物や植物を排除するために、水田、畑地、ゴルフ場などで盛んに使用されているが、これらの農薬類が貯水池、湖沼、河川、地下水などを汚染する恐れがあるので、4種類の農薬について水質基準が定められた。

4種類の農薬とは、①1,3-ジクロロプロペン (土壌線虫殺虫剤)、②チウラム (土壌処理用殺菌剤)、③シマジン (畑地・芝生用除草剤)、④チオベンカルブ (水田用) である。

排水基準

水質汚濁防止法、生活環境の保全等に関する条例及び上乗せ条例に規定されている工場または事業場からの排水の規制を行うための基準であり、カドミウムなどの有害物質や、BODなどの生活環境項目ごとに定められている。

富栄養化

内湾や湖沼等、水の交換が行われにくい水域 (閉鎖性水域という) の水中で、窒素やリン等の栄養塩類が増えていくこと。もともと自然に進行するものであるが、近年、生活排水、工場排水等の急激な増加に伴って、その進行が人為的に加速され、植物プランクトンや藻類の著しい増加がみられるようになった。

その結果、赤潮、アオコ (水の華)、魚介類のへい死、溶存酸素の欠乏、色度・臭気の増加 (悪臭)、溶解性有機物の増加等の水質悪化などがみられ、上水道、水産業、農業などに被害をもたらした。

要監視項目

人の健康の保護に関連する物質であるが、河川・海域における検出状況等から、現時点では直ちに環境基準項目とはせず、引き続き知見の集積に努めるべきものとして、平成5年3月に設定された項目。

現在は27項目について定められている。

《4. 騒音・振動関係》

dB (デシベル)

音の強さや振動加速度レベルなどの物理量を、ある標準的な基準量と対比して、相対的な比較検討を行うのに用いる単位のこと。例えば、騒音であれば普通の会話で60dB程度、振動であれば地震の震度1が55~65dBに相当する程度である。

(騒音の単位は、聴感補正を行ったホン、またはデシベルが用いられてきたが、計量法の改正[平成4年5月20日法律第51号]に伴い、「騒音レベル」が「音圧レベル」に、音圧レベルの計量単位が「ホン又はデシベル」から「デシベル」に変更

された。また、騒音計の補正回路の呼称は「聴感補正回路」から「周波数補正回路」となった。）

なお、耳の感覚に合うように補正した音の「大きさ」をはかる単位を dB (A) という。

また、振動の場合は、感覚に合うよう補正した鉛直振動加速度の「大きさ」をはかる単位を dB という。

暗騒音・暗振動

ある特定の騒音（振動）を測定しようとする時に、その対象以外の騒音（振動）が存在する場合、これを対象の騒音（振動）に対して「暗騒音」（「暗振動」）という。

環境騒音

ある地域で、通常そこに存在する不特定多数の音源から発生する総合された騒音をいう。

振動

物体がある一点を中心に、ある周期をもって揺れ動くことであるが、この動きによって人の生活等が阻害されることを「振動による公害」という。従って、公害を発生させる振動は「不快な振動」「好ましくない振動」といえる。

振動レベル

振動の加速度を dB で表した加速度レベルに振動感覚補正を加えたもの。単位は dB。通常、振動感覚補正回路を持つ公害用振動レベル計により測定した値である。

騒音

好ましくない音の総称。主観的なものであるため、受ける影響も個人差があり、人によって非常に異なるものである。数値で表示する場合、音の大きさを dB (デシベル) で表す。

主な騒音には、工場騒音、建設騒音、交通騒音などがある。

騒音規制法

工場等の事業活動によって発生する騒音の規制及び自動車騒音の許容限度を定めるため制定された法律。都道府県知事による騒音規制地域の指定、騒音規制基準の設定、特定施設を設置する工場の騒音が規制基準に適合しない場合の設置者に対する改善勧告及び改善命令、環境大臣による自動車騒音の許容限度の設定、国の騒音防止施設の設定又は改善に対する資金あっせん等の援助、地方公共団体による飲食店営業等の深夜騒音等の規制などについて定めている。

騒音レベル

音の感覚は音圧レベルのほかに周波数によっても変化する。この聴感補正 (A 特性) の回路を組込んだ騒音計により測定した値を騒音レベルといい、単位はデシベル (dB (A)) を用いる。(→「等価騒

音レベル」参照)

中央値・上端値・下端値 ($L_{50} \cdot L_5 \cdot L_{95}$ [$L_{10} \cdot L_{90}$])

騒音測定データの処理には累積度数曲線を用いるが、その累積度が上から 50%となる値を中央値 (L_{50})、5%目の値を上端値 (L_5)、95%目の値を下端値 (L_{95}) という。

このとき、上端値から下端値までの値を 90%レンジという。変動の激しい騒音は、この中央値と変動幅を表す 90%レンジで表すことで、その状況をほぼ判断できる。

また、振動についても、騒音と同様のデータ処理を行うが、この場合、上から 10%目の値を上端値 (L_{10})、90%目の値を下端値 (L_{90}) といい、その幅を 80%レンジとしている。

低周波空気振動

人の耳には聞き取りにくい低い周波数 (20Hz 以下) の空気振動のこと。工場施設、道路橋等から発生することがある。波長が長い障害物の影響を受けにくく、遠くまで届く。

これにより、物的苦情 (ガラス窓や戸、障子などが揺れる)、心理的苦情 (ガラス窓がガタガタ鳴る音がうるさく睡眠が妨げられる、考え事や読書が中断される)、生理的苦情 (耳鳴り、頭痛、胃の不調等) が発生して問題になっている。

等価騒音レベル (L_{eq})

不規則かつ大幅に変動する騒音に対して用いられる評価法。変動する騒音を、一旦、エネルギーの大きさに変換して、そのエネルギーと同じ大きさを持つ変動しない騒音として、これをレベル表示したもの。 L_{50} が同一であっても、ピーク騒音が大きいと、頻繁にあるほど、 L_{eq} は高くなる。

これはエネルギー平均値であるので理論的に取扱いやすく、予測もしやすいといった特徴があることから、まず諸外国で採用され、その後、日本でも採用されるようになった。

特定建設作業

建設工事として行われる作業のうち、著しい騒音・振動を発生するもので、騒音規制法、振動規制法、及び別府市環境保全条例に指定された作業をいう。

ホン

周波数 1,000Hz を標準音として人間が感じる音の大きさを表す単位。同じ音圧でも周波数が違うと、人間の耳には大きさの違う音として感じられる。(→「dB (デシベル)」参照)

類型指定

騒音の環境基準については、国において類型別に基準値が示され、これに基づき都道府県が騒音に関係するところの都市計画地域等を勘案し、具体的に地域に当てはめ、指定していくことをいう。

(→「水域類型指定」《3. 水質関係》参照)

《5. 悪臭関係》

悪臭物質

悪臭防止法では「不快なおい原因となり、生活環境を損なうおそれがある物質であって政令で定めるもの」を悪臭物質といい、現在 22 物質が指定されている。(※)

においに対しては個人差があるが、大多数の人々 (70%または 3 分の 2) に不快感を与えるにおいは「悪臭」と呼ばれる。特有のにおいを持つ化合物は約 40 万種に達すると言われている。

(※…ただし、別府市においては、この 22 物質 [「参考資料 7 悪臭防止法に基づく規制基準」に記載]のうち、硫化水素が除外されている。)

悪臭防止法

悪臭を防止するため制定された法律。悪臭の原因となる悪臭物質(アンモニア等 22 物質)の特定、工場その他の事業場から悪臭物質の排出・漏出を規制するための規制地域の指定及び規制基準の設定、悪臭物質を排出する事業者に対する規制基準の厳守・義務づけ、これに違反する事業者に対する改善勧告・改善命令などを定めている。

アンモニア (NH₃)

特有の刺激臭のある無色の気体。圧縮により常温でも容易に液化する。皮膚、粘膜、呼吸器への刺激性と腐食性が強く、眼に入ると結膜浮腫等を起こす。発生源は化製場、魚腸骨処理場、鶏糞乾燥場、し尿処理場、畜舎、化学工場など。

(規制基準：1ppm)

臭気強度

においの強さを 6 段階に区分したもの。規制基準を設定する場合、敷地境界線においては、臭気強度 2.5 から 3.5 に相当する悪臭物質濃度。

官能試験法にあっては臭気濃度が適当であるとされている。

臭気強度	
0	無臭
1	やっと感知できる
2	何のにおいであるかがわかる弱いにおい
3	楽に感知できるにおい
4	強いにおい
5	強烈なにおい

《6. ダイオキシン類関係》

2, 3, 7, 8-TCDD (2, 3, 7, 8-テトラクロロジベンゾパラジオキシン)

ダイオキシン類の中で最も毒性の強い物質。致死量が (体重 1kg のモルモットに換算して) 0.0006mg で、青酸カリの 1 万倍の急性毒性がある。

pg/m³

1m³の大気中に含まれるダイオキシン類等の重量を表す単位。

TEQ (毒性等価物量 : Toxicity Equivalency Quantity)

ダイオキシンは多くの異性体を持ち、それぞれ毒性の強さが異なる。異性体の中で最も毒性の強い 2, 3, 7, 8-TCDD の毒性を 1 とし、各異性体の毒性を毒性等価係数 (TEF) により換算した値をいう。各異性体ごとに濃度と毒性等価係数との積を求め、これを総和したものをダイオキシン類濃度の TEQ 換算値という。

例えば、1, 2, 3, 4, 7, 8-TCDD (1, 2, 3, 4, 7, 8-ヘキサクロロジベンゾパラジオキシン) の量が 10pg だった場合は、TEQ は TEF (0.1) を掛けた 1pg となる。

一般的にダイオキシン類の濃度を表す時は、この TEQ に換算した数値を使用する。(1pg-TEQ/L、1pg-TEQ/m³ など)

ダイオキシン類

一般に、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン (PCDD、75 種) とポリ塩化ジベンゾフラン (PCDF、135 種) をまとめてダイオキシン類と呼び、コプラナーポリ塩化ビフェニル (コプラナーPCB) のようなダイオキシン類と同様の毒性を示す物質をダイオキシン類似化合物と呼んでいる。

平成 11 年 7 月 16 日に公布されたダイオキシン類対策特別措置法においては、PCDD 及び PCDF にコプラナーPCB を含めて「ダイオキシン類」と定義されている。

ダイオキシンは水にはほとんど溶けず、脂肪に溶けやすい性質があり、一旦体内に摂取されると排出に時間がかかる。

ゴミ焼却場において廃棄物中の塩化ビニル樹脂や有機塩素製品などを燃やした際、ダイオキシン類が生成されることが確認されている。

《7. 地球環境関係》

オゾン層の破壊

オゾン層は生物に有害な紫外線を吸収するため、生物の存在に不可欠であるが、近年、フロンガスなどによるオゾン層の破壊が大きな問題となっている。(極地上空では、オゾン濃度の急激な減少【オゾンホール】が観測された。)

オゾン層を保護するため、特定フロン等の使用を削減する国際的な条約 (ウィーン条約) も締結されている。

オゾン層が破壊され、地上に有害な紫外線が増加した時には、皮膚ガンや白内障などの健康障害が発生するばかりでなく、農作物の収穫量減少や浅い海でのプランクトン死滅など、動植物への被害が予想される。(→「オゾン・オゾン層」《2.

大気関係)、「フロン」参照)

温室効果ガス (温暖化ガス)

大気中の二酸化炭素や水蒸気は、太陽からの日射はほとんど通過させるが、地表面からの赤外線放射を吸収し、熱の一部を再び地表面へと放射して地球を温めている。こうした、温室のガラスのような働きを温室効果と呼び、このような性質を持ったガスを温室効果ガスという。

近年、空気中の二酸化炭素濃度が高まっていることから、気候が温暖化 (地球温暖化) する可能性が指摘されている。

このため、二酸化炭素などの 6 種の温室効果ガスについて、発生量を削減しようとする動きが始まっている。

(6 種の温室効果ガス : ①二酸化炭素、②メタン、③亜酸化窒素、④ハイドロフルオロカーボン (HFC)、⑤パーフルオロカーボン (PFC)、⑥六フッ化硫黄 (SF₆))

地球温暖化

地球の温度は、太陽の日射熱と、地球から宇宙へと放出される熱とのバランスにより一定を保っている。しかし、大気中の温室効果ガスが (人為的な要因で) 増え過ぎると、宇宙へ放出される熱が地表面に戻され、地上の気温が上昇する。この現象を地球温暖化という。

フロン

わが国だけで使われる呼称で、[クロロ]フルオロカーボン (炭素・[塩素]・フッ素からなる化合物の総称) のことを指す。無色無臭の気体。スプレー噴霧 (エアロゾル) 剤、冷却剤、潤滑剤、殺菌剤、溶剤、消火剤、ウレタンフォーム発泡剤など、広い用途に用いられていた。

メタン (CH₄)

メタン系炭化水素 (C_nH_(2n+2)) に属するものの一つ。天然ガス、石炭ガス、炭坑からのガス、自動車排出ガスに含まれる無色・無臭のガス。下水を活性汚泥法で処理する時にできる活性汚泥を嫌気性分解する場合にも、二酸化炭素などとともに発生する。

メタン自体には毒性はないが、地球温暖化物質の一つとして、排出量削減の対象となっている。

別府市の環境
平成19年版

平成20年 2月 編集・発行

別府市生活環境部環境安全課

〒874-8511

大分県別府市上野口町1番15号

TEL0977-21-1111 (内線1132)

TEL0977-21-1134 (ダイヤルイン)

この冊子は、下記の基準により作成されています。

表紙

再生紙を含む用紙使用

本文用紙

再生紙を含む用紙使用、白色度70%以下

インキ

芳香族成分1%以下の溶剤のみを使用しているインキ



別府市民憲章

昭和 43 年 1 月 1 日制定

わたしたちは、海と山にかこまれた美しい自然と、
昼夜の別なくこんこんと湧きいづる温泉のまちに住
む市民であることを誇りとし、魅力あふれる観光の
まちづくりを目指しています。

わたしたちの市民憲章はつぎのとおりです。

- 1 美しい町をつくりましょう。
- 2 温泉を大切にしましょう。
- 3 お客さまをあたたかく迎えましょう。